

福島市民憲章作文コンクール作品集の

発刊に寄せて

福島市民憲章は、市民全ての幸せと郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。

「福島市民憲章作文コンクール」は、この市民憲章を一人でも多くの市民の皆様方に理解していただき、市民憲章の精神が日常生活やまちづくりに活かされるよう、その普及・啓発の一環として実施し、今年度で十一回目を数えることとなりました。

作品の募集は、市内の中学一年生の皆さんに限定させていただきましたが、百点を超える作品の応募がありました。このことは、本コンクールの目的「市民憲章の普及・啓発活動」として、大きな成果を得たコンクールであったと、自負しております。

さて、今回の入賞作品の出品傾向としては、市民憲章の五つの条文全てに対し満遍なく行き渡っていました。特に印象的だったのが、条文のひとつ「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう。」に視点を当て、笑顔あふれる住み良い街づくりに積極的にか

かわって行きたいという強い思いを感じさせてくれる作品が多かったことです。

現状に気づき、自分の考えを明確にして行動しようとする前向きな姿勢を読み取ることができました。

出品者の皆さんには、同年代の他の視点からの考えについても、是非とも一読していただければ幸いです。

本コンクールを契機として、市民憲章の存在価値が一人でも多くの市民の皆様浸透し、「住んで良かったと、心から思える福島市」となるよう、願っております。

結びに、本コンクールの審査にあたり、全面的にご協力いただきました福島市中学校長会及び関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

平成二十八年一月

福島市民憲章推進協議会会長

山 本 和 宏

内側で生きる当事者として

今年度「福島市民憲章作文コンクール」に市内の中学一年生からこれまで最多の一〇九点もの作品が寄せられました。

多くの作品が、福島市民憲章に触発され、福島市の人、自然、歴史、文化、そして自分自身を見つめ直し、これからの福島市を考えていこうとしていました。大変嬉しく心強く感じました。と同時に、中学一年生の純真でしなやかな心に触れることができ、新鮮な心持ちになることができました。改めて、応募してくれた皆さんと、このような文章を読む機会をいただいたことに感謝します。

震災や原発事故で多くのものを失い傷つきつつも、福島市の自然の素晴らしさ、地域で生まれ育った芸能や文化、生活する人々の息づかいやいたわり合いに、気づけたことを叙述した作品が多くありました。また、日常の些細な出来事や情景から、ともに生きる大人や友人への感謝の気持ちと、これからの福島の可能性や進むべき方向を示してくれていました。

このような作品を読みながら、市民憲章を知識として頭で理解するだけでなく、自分の問題として具体的事例を挙げながら理解しているかという点を重視して審査していることに気づきました。それは、市民憲章を外側からの表面的な理解で終わらせず、内側から生き、感じ、考えることがより重要であると言ってもいいでしょうか。結果的に、まず自分自身の問題としてどれだけ市民憲章を血肉しているかに重点を置くこととなりました。

また、作品を読みながら、ある有名な言葉を思い浮かべました。それは、J. F. ケネディの一九六一年に行われたアメリカ大統領就任演説の一節です。

「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。」

この「国」を「福島市」や「地域」に、「問うて欲しい」を「問う」に置き換えると、それは応募作品の内容になります。つまり、福島市という共同体の一員として、何をすべきか、何ができるかを考え表現していたのです。当事者意識をもって福島の復旧・復興の担い手になる決意の表れでもありました。

応募作品を読みながら、未来に向かってたくましく歩んでいこうとする姿を想像するとともに、復興の中心は皆さんであり皆さんたちになら任せることができると頼もしく感じました。皆さんの思いを現実のものにするためにも、目標に向かってより一層学び続けてほしいと願っています。

平成二十八年一月

福島市民憲章推進協議会委員

福島地区中学校教育研究会国語部長

齋藤 良 一

目次

◆金賞

未来へつながる福島 naturally

◆銀賞

ありがとう
大事にしたい地域の文化

◆銅賞

自然と一緒に
中学生の力で市民憲章に近づく町へ
音楽で笑顔あふれる町づくりを

◆佳作

一人一人の行動力
協力し合って
桜公園にあった
命を守る福島市へ
笑顔のあふれる福島市に
おもいやり
私の住むまちでできること
福島のこれからを
福島市民の将来性を住宅から考える
きれいで健全な緑あふれる福島へ
次世代に残したい川

福島市立福島第二中学校	安孫子 延 央	1
福島市立信陵中学校	岩崎 未 来	2
福島市立北信中学校	後藤 健 太	3
福島市立信陵中学校	千 悠 季	4
福島市立松陵中学校	渡 邊 こころ	5
福島市立北信中学校	後 反 真依子	6
福島市立福島第三中学校	安 藤 奈 緒	7
福島市立福島第三中学校	阿 部 朋 実	8
福島市立北信中学校	鎌 田 海 里	9
福島市立北信中学校	角 田 紗 耶	10
福島市立北信中学校	宍 戸 美 友	11
福島市立福島第二中学校	梅 津 真 斗	12
福島市立福島第三中学校	梅 宮 愛 花	13
福島市立信陵中学校	一 条 萌 笑	14
福島市立北信中学校	菅 野 み な	15
福島市立西信中学校	岡 崎 大	16
福島市立大鳥中学校	松 崎 美 月	17

福島の良いところ、悪いところ
 すべてがそろう福島
 みんなで守ろう福島の自然
 温かい心
 市民憲章の活用
 よりよい福島にするために
 『幸せ』とは何か
 福島市をより良い場所にするために
 自然が多いまち
 空も水も繋ぐ
 親切な心があふれる町へ
 自然のための行動
 福島市民憲章を知って…
 『みどりのまち』にするために
 私が今できること
 人に気配りができる人
 福島市民憲章について思ったこと
 市の環境
 親切で愛情あふれる福島へ
 これからも平和な福島に
 福島市民憲章について
 市民と憲章の関わり
 福島市民憲章
 これからの福島

佐々木	岡部	木下	西脇	野田	松浦	吉田	高橋	豊岡	八巻	佐藤	多勢	成田	服部	大槻	吉村	岩野	斎藤	佐藤	佐藤	菖蒲	岩城	菅野	星
楓	林	渉	也	陽	咲	優	実	桃香	心優	凜	彩加	寧珠	尚美	円香	梨子	結衣	菜々美	龍起	太暉	幸伸	裕亮	鈴木麗	直希
……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41

私達にできること
親切心や愛情から生まれる
市民憲章について
今を未来につなげて
福島ってあたたかい！
この町の素敵な文化と教育
いい所、福島市
みんなが安全で健康に過ごせるまち
きれいなみどりのまち
住みよいまちにするために
優しい心をもつ町をつくりましょう
僕らの未来
福島市民の優しい心
福島市民憲章
ゴミと行動
『福島市民憲章』について
福島市民憲章について
残そう輝く福島市
豊かな町へ
よりよいまちにするために
自分と五つの憲章
今から始めること
水のきれいな福島にしよう
心の片隅に

福島市民憲章の思いとは
 福島市民憲章について
 心優しい町、ふくしまを目指して
 きれいなまちをつくるために
 親切で愛情ある福島づくり
 福島はみどりのまち
 みどりのまち 福島
 親切 心
 福島の自然
 あいさつで元気になろう
 福島市民憲章を初めて知って
 親切で愛情あふれるまちを作るには
 大好きな福島市
 知らない人でもあいさつをできる町にしよう
 福島を今までよりよくするために
 幸せな福島にするために
 福島市民憲章について考えた事
 安全で健康な町づくり
 よりよい福島市をつくるために
 自分くらしより厳しいくらし
 思いやりと笑顔であふれるまちをつくろう
 福島市民憲章を守るためには
 お年寄りに親切で、たくさんの人と交流ができる
 まちをつくりましょう

福島市立北信中学校	黒津集斗	66
福島市立北信中学校	篠原彩那	67
福島市立北信中学校	阿部ちなみ	68
福島市立北信中学校	岸波真由	69
福島市立西信中学校	加藤太陽	70
福島市立西信中学校	遠藤梨帆	71
福島市立西信中学校	二瓶翔馬	72
福島市立西信中学校	三瓶幸恵	73
福島市立西信中学校	前野綾香	74
福島市立西信中学校	栗野日菜美	75
福島市立西信中学校	佐藤里咲	76
福島市立西信中学校	加藤颯馬	77
福島市立西信中学校	加藤春乃	78
福島市立大鳥中学校	中村魁斗	79
福島市立大鳥中学校	栗地汐音	80
福島市立大鳥中学校	扇田凜	81
福島市立大鳥中学校	塩澤陶子	82
福島市立大鳥中学校	八木渚月	83
福島市立大鳥中学校	山下茉桜	84
福島市立松陵中学校	齋藤優輝	85
福島市立松陵中学校	佐藤海月	86
福島市立松陵中学校	蓬田拓海	87
福島市立松陵中学校	丹野可奈子	88

金賞

「未来へつながる福島 naturally」

福島市立福島第二中学校

安孫子 延 央

窓を開けると初秋のさわやかな風が、僕のはほをなでた。我が家は阿武隈川沿いの集合住宅の一角で、春にはピンク色の花見山を見ることが出来る。来月には早くもシベリアからはるばる飛んで来た白鳥が羽を休めに來るので、それも楽しみだ。このように僕は福島の自然と共に生活している。こんな街中に住みながら何て恵まれているのだろうと思いつながら、いつも決まっていたように出ることがある。それは春だというのに、小雪が散らつき冷たい風が斜めから吹きつけた、あの震災の日のことだ。今、僕の目の前には澄んだ空気の向こうに遠く山々と、どこまでも続く青い空がくっきりと見えている。なのに原発事故が起きてから、すべての物が灰色に見えていた。人間が便利さを求めるあまりに、自ら招いた不幸なのである。

僕の家のは近くに、あまり広くはないけれどきれいに整備された緑地公園がある。小さな子は楽しそうに家族と遊び、僕たちは仲間とサッカーなどしたりと、この公園は地域の人々ともコミュニケーションを取る大切な場所だった。ところが、あの日から生活はがらりと変わり外で自由に過ごせない日々が続いた。それどころか、この福島の空気を吸うことさえ苦痛に感じたのである。何て悲しいことだろう。

二年近くたって、ようやく家の周辺も除染作業が始まった。ところが公園では土をはいただけではなく、ほとんどの木が根元から切り落とされてしまった。そのとき僕は、あまりにも見慣れた景色との差にショックを受けて言葉を失った。木々や草花は何も悪いことはしていないのに。しばらくしてから町内会の人たちが、プランターに季節の花を植えてくれた。少しでもみんなの安らぐ場所にしようと、がんばってくれていたのだった。何てありがたいことだろう。そのおかげで殺風景だった公園が、少しずつもとの姿を取り戻し、やがて気がつくとも草花も芽吹いていた。自然の力強さを

見せつけられた瞬間だった。

あれから四年半、春には一本だけ残された立派な桜はきれいに咲き、藤だの下ではみんなの笑顔と笑い声が聞こえている。僕はあのとき、この町を自分たちの力で守ろうとした地元の人々を尊敬している。会ったときには、いつもありがとうの気持ちを込めてあいさつをしている。そして大人になったら、恩返しのためにもその意志を受け継ぎ、しっかりと役目を果たさなければと思う。

雨ごとに秋の気配を感じるこの季節、僕は緑地歩道の金木犀の甘い香りを楽しみながら通学している。自然は人の心を豊かにしてくれるのだ。失って始めて気づくこともある。福島の豊かな自然と、きれいな水がそうである。四季折々の、この美しく輝く福島の自然と共に、僕も成長して行きたい。

銀賞

「ありがとう」

福島市立信陵中学校

岩崎 未来

三月十一日、あの日は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という市民憲章が実行された日だったと思う。

二時四十六分、あの時は五時間目の授業が終わる時間だった。そんな時、小さな揺れを感じ机の下に潜るとだんだん揺れが強くなってきた。当時私は小学二年生で、クラスの中には恐怖で泣き出す友達もいた。そんな中、ある一人の友達が

「大丈夫だよ。」

と泣き出してしまった友達に対して声をかけていた。今、その時のことを改めて考えてみると、私は自分の身を守ることに必死で泣いている友達に対して声をかけることなんてできなかった。それなのに、その友達は自分の事だけでなく相手のことも考えて声をかけていて、その心遣いがすばらしく感じた。

その日は集団下校をして家に帰った。家には両親がいなかったため、帰ってくるまで隣の家で、両親を待つことになった。隣の家には大人の方がいたため安心して待つことができた。改めて考えて見ると、隣の家の人の親切な心があったからこそ、私は安心していられたのだ。もしも、自分の家で待っていたら、安心して待つことは出来なかったと思う。

両親が家に帰ってきて、電気が止まっていることが分かった。そして次の日には水も止まった。電気は懐中電灯やろうそくで補うことができたが、水は無かった。そんな中、近所の家の人が

「水を使って下さい。」

と言ってくれた。その時は知らなかったが、日本のように蛇口から出た水をそのまま飲む国はとても少なく、調べてみると十五か国ぐらいしかないことが分かった。その時まで一度も水のことで困ったことが無く、初めての水の使えない生活だった。普段、何気なく使っているお風呂やトイレ、洗面所もいつものように使えなくなり、とても不便な暮らしだった。でも、近所の家

の人の親切な心により、水が全く使えないということは無かった。そして、東日本大震災により改めて、水が使えることの大切さが分かった。

東日本大震災はたくさんの人の命や家、思い出など大切なものをたくさん奪った。そして、現在でも仮設住宅に暮らし、自分の故郷に戻れない人がたくさんいる。でも、この震災により学んだこともある。例えば、資源の大切さだ。私達が、いつも不自由なく暮らせるのは水や電気などが使えるからだ。世界には水不足で不衛生な水しか与えられないため毎日、約四千九百人の子供が亡くなっているそうだ。水を自由に使えることに感謝し大切に使用しなければならぬと思う。もう一つは普段の生活の中でも人に支えられて生きているということだ。これからはお世話になった方々に「ありがとう。」と伝えたいと思う。

銀賞

「大事にしたい地域の文化」

福島市立北信中学校

後藤 健太

五つの市民憲章を見た時に僕が一番身近な物としてとらえにくかったものは「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」というものだった。自然を大事にすることや思いやりを持って生活することなど、その他の憲章については具体的なことが頭に浮かんだが、文化を尊ぶとはどうすればいいのだろうと思った。だが、考えているうちに、はっと思いついたことがある。それは、僕が今、心待ちにしている青柳神社の例大祭のことだった。

僕の住む瀬上町にある青柳神社では、毎年十月十四日、十五日に例大祭が行われる。そこでは、神社での奉納太鼓や、太鼓屋台で町を練り歩くパレード、夜には太鼓の競演が行われる。僕は、友達がやっていたこともあり、五年生の時に太鼓の練習に初めて参加した。始めはうまくできなくてイラ

イラしたこともあったが、若連の高校生や大学生、大人の人たちが優しく教えてくれてリズムを覚えることができ、楽しくなってきた。試験を受け、演奏する役割を表すはちまきの色を発表されるときあの緊張、そして、当日、大勢の人の前で太鼓をたたいた時のあの気持ちよさは忘れることができない。去年は、二年目だったが、上手とされる紫色のはちまきを受け取り、当日は、小学生の男子では二人しかたたけない大太鼓を任されることになった。神社で祈願をした後に演奏した時、町を太鼓屋台で歩いた時、そして、夜、小学生から大人までの太鼓の競演をした時、僕は、気持ちが高まって、楽しくて仕方がなかった。みんなが一つになっている気持ちでした。

地域が一つになって、昔から伝えられ、守られてきたものを受け継いでいく、これは、文化を尊ぶということなのではないだろうか。分らないかと思っていたが、僕が例大祭の太鼓を好きだと思い、やりたいと思うことは地域の文化に関わっているということだったのだと気づいた。

福島市には、東北六魂祭にも出場した、

伝統的なわらし祭りの他、飯坂のけんか祭りなど有名なお祭りがある。今まで何気なく神社やお祭りに行っていたが、それを地域の大切な文化としてこれからも残し、伝えていくことがとても大事なのだとあらためて思った。

「市民憲章」と聞くと、かたくるしいもののようだが、難しくとらえることはないのだと思う。今、自分が住んでいる地域を好きで、その地域がずっと住みやすい場所であるように自分ができることをすればいいのだ。その中で、僕が、文化を尊ぶこととしてできること、それは、例大祭で、地域の人の関わりを大事にしながら、太鼓を競演すること。そして、その姿をみんなに見せていくことだと思った。今年の太鼓の練習もまもなく始まる。楽しく精一杯がんばりたい。

銅賞

「自然と一緒に」

福島市立信陵中学校

千葉 悠季

私は、毎年、山へキャンプに行っています。自分達でテントを張って、大自然の中で散歩をしていると、山でしか感じられない、やわらかな風、暑い日差しの中でも、涼しげな木の本陰などが、とても心地良いです。外で食べる料理は、いつもよりおいしく感じられます。夜には満点の星空の下で、鈴虫の声をききながら眠ります。そして、「また来よう。」と思うのです。

山の自然は素晴らしいですが、福島の町にも、まだまだ自然があふれています。例えば、私の家の周りには、田んぼや畑、桃やなしなどの果物畑もたくさんあり、春にはきれいな花が咲き、夏にはおいしそうなお実があるのを見ると、とてもワクワクします。秋の鮮やかな田んぼの色は、太陽の光を浴びて、とても美しいです。冬の寒さはきびしいですが、真っ白な吾妻山を眺める

と、「この寒さも悪くはないな。」と思います。このように、素晴らしい自然の中で、私達は生活しているのです。

ところが、ここ数年、私の家の近くで高速道路の工事が続いています。このため、周りの田んぼや畑がなくなってしまうしました。また、妹達の通学路は、工事のトラックなどが、毎日毎日行き交うようになりました。私は、行き交うトラックから出る排気ガスが、周りの住人や、残された自然に、どんな影響を及ぼすのか、とても心配です。住む場所を失った虫たちは、どこへ行くのでしょうか。道路が完成したら、排気ガスは増えてしまうのでしょうか。道路の発展でお店が増え、さらに自然が減ってしまうのではないのでしょうか。

高速道路は、私達が生活していく中で、必要な物だと思っています。しかし、自然がなくては、人は生きていけないと私は考えます。自然は、私たちの食料を作り出してくれます。自然は、私たちの生活にいろどりをそえてくれます。自然がなくなったら、私たちの生活は、味気ない、まるでモノクロのようなものになってしまうのではないでしょ

うか。私の家の庭には、草木がたくさん生えています。それらは全て、私の祖父が世話をしています。祖父は大変そうに、一生懸命手入れをしています。いつそ全部切ってしまう楽なのですが、そうしてしまえば、私の家の庭の自然は、小さいけれど、消え去ってしまうのです。庭も味気ない庭となるでしょう。自然は、どんなに小さくとも自然であることに変わりないのです。身近な自然を一人一人が少しずつ育めば、それが集まって、大きな自然になるのではないのでしょうか。そうすれば、「空も水もきれいなみどりのまち」は、守っていきけると思います。そして今、私たちに必要なことは、「自然との共存」だと思います。人にとって便利なものを作りながらも、自然を壊しすぎず、調度良いバランスを保ちながら、自然と一緒に歩んでいくことが私は大事だと思います。

銅賞

「中学生の力で市民憲章に

近づく町へ」

福島市立松陵中学校

渡 邊 こころ

私は、東日本大震災を経験し、水や電気がない生活を体験し、その中で協力し合うことを学びました。そして、たくさんの人々の支援を受けたことに感謝して、今度はその経験を生かして、福島の元気を発信して行こうと思っています。

震災から四年が経ち、今年から土曜授業が始まり、松陵中の生徒会では、「松川町を変えるプロジェクト」をスタートし、土曜授業の中で、委員会ごとに企画をして、地域交流活動を実施しました。

松陵サミットとして、生徒会本部は、地域異世代交流を行い、体育委員会は、地域のお年寄りとのゲートボールによる交流をし、図書委員会は、幼稚園と保育園での絵本の読み聞かせでの交流をするなど、他にも委員会ごとに有意義な活動をスタートす

ることが出来ました。

その中で私が参加した「異世代サミット」では、松川町商工会や地域の方々、福島大学の学生、卒業生の先輩方など約五十名の方が参加してくださり、とても盛り上がった活動となりました。私は、この異世代サミットに参加して、「こんなに町のことを考えてくださっている人がいるんだなということ」「地域の方が松川について中学生が考えるということを応援してくださっていたこと」など、たくさんのことを学ぶことが出来ました。その中で、私の班では、掲示板を利用して町の人達にいろいろなイベントをお知らせするなどの案ができました。全ての班での話し合いの結果、一番多かった中学生に出来ることの案は「挨拶で地域の人々を繋げ、元気にすること」でした。この交流活動は、松川町を良くするために、土曜授業の中で、継続していく予定です。

このように挨拶を交わすことで市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」と「子どもからお年寄りまで安全で健康なまちをつくりましょう」の項目に近

づける気がします。そして、松川町が市民憲章と同じく、平和で、さらに住みよく希望にみちたまちをつくるため、まずは基本の「挨拶」から始めて全ての項目に近づけるように努力して行きたいと思っています。

私達中学生が、自分たちの住む松川町を、異世代で交流のある活気あふれる町に変えることで、福島県内の復興が進む第一歩となり、人々が元気になって、本当の福島の元気を発信して行きたいと思っています。そして、この輪が広がり、日本全国が元気になれば良いと思います。

銅賞

「音楽で笑顔あふれる町づくりを」

福島市立北信中学校

後 反 真依子

二〇一一年三月十一日の東日本大震災により、私たちの住む福島は被災しました。現在もまだ故郷に帰れず避難生活を送っている人がいます。福島市は他の地域に比べると被害は大きくありません。しかし、震災の影響で心を痛めた人はたくさんいました。私も震災直後は祖父母の家にいました。とても苦しいとき、私に元気をくれたのは音楽でした。小さい頃からピアノを習っていた私は、どんなことよりも音楽が大好きでした。現在も合唱部に所属しています。

福島市には、音楽堂があります。この音楽堂は福島市だけではなく、全国でも有名な音楽堂です。大ホールのステージ上空には大きなパイプオルガンがあります。また、私がコンクールで歌ったとき、とても響いて感動したことを覚えています。いろいろな場所から有名な演奏家が来て、聞いた人

に感動を与えてくれました。

震災後、音楽堂では被災者を元気にするために「復興コンサート」と題し、たくさん人の催しが行われました。このような催しで、元気をもらった人はたくさんいると思います。演奏を聞き終わった人は誰もが笑顔になっていったと思います。私は直接行く機会が無かったけれど、ニュースなどで音楽堂での演奏を見ると、いつのまにか笑顔になっていきます。

音楽を通して笑顔になれる機会は、震災後だけに限らず、どんなときでも持てると思います。私も、音楽を聞いたり、ピアノをひいたりすると、心がすっきりして、とても笑顔になります。実際に演奏しているところを見てみたいと思うけれど、私の家の周辺には、音楽堂のような場所はありません。音楽堂も遠いため、行くのが大変だと感じます。また、一つ一つの催しは、年れい層がせまく、どんな人でも楽しめるものが少ないと感じます。

このような問題点から、私はもつと音楽施設を増やし、幅広い年れいで楽しめる催しがあればいいと思います。

音楽施設を増やすことは、土地や費用、周りの住民のことなど、大変だと思っています。でも、私たちの周りにコンビニエンスストアや遊ぶところが増えるよりも、音楽施設を増やして、幅広い世代の方に楽しんでもらえたほうがいいと思います。

誰でも参加しやすい催しは、特に子供向きのものを行えばいいと思います。例えば、私たちと同じくらいの年れいの人に向けて、みんなが分かる曲を演奏すればいいと思います。これなら、私でも、合唱を披露して、みんなを笑顔にできると 생각합니다。

これから福島市をもつと良くするため、音楽を通して笑顔あふれる町を築いていきたいと思っています。

佳作

「一人一人の行動力」

福島市立福島第三中学校

安藤 奈緒

私は、福島市民憲章を初めて知りました。

五つの憲章は、市民が快適に暮らせるまちをつくるためにとっても大事なものだと思いました。五つの憲章の中で一番心に残ったのが、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」です。

その理由は、きまりを守らず自分勝手な行動をする人をよく見かけるからです。そして今は自分勝手な行動をする人を見ても、見て見ぬふりをしてしまいます。でも、この憲章を実現するには、そんなことをしてはだめです。ですから、一人一人が思いやりの心を持つ、勇気を持って行動することが大切だと思います。

この前歩いていると、道をふさぐように歩いている四、五人のグループがいました。とても邪魔でしたが、そのグループの後方に歩いていたら人達は、何も言わずグループ

が歩くスピードに合わせて歩いていました。ですが一人、白杖を持った盲目の女生がいました。グループの一人が点字ブロックの上を歩き、なかなか進まない理由もわからず戸惑っていました。その様子に気付いた一人の男性が、

「邪魔になっていますよ。」

と、軽く注意をすると、そのグループは邪魔にならないように端の方に寄りました。後方を歩いていた人達は、安堵の表情を浮かべ、それぞれのペースで歩いていきました。その男性が発したのはたった一言だけでした。でも、大勢の人がその一言に救われました。思ったことをはっきり言う、そんな勇気ある行動は素晴らしいと思いました。

それから、ある飲食店で食事をし、お会計の時に担当していた店員が、慣れているのかレジの操作に手こずっていました。そのせいでレジには列ができてしまい、いらしている人もいるようでした。そこに店長が来て、慣れた手つきでどんどんお会計をこなしていました。あつという間に最後に並んでいた私たちの番になりました。

た。「仕事が早いな。」と感心していると、その店長は操作を教えながらお会計をこなしていました。その店長はお客にも店員のことも考えて行動していたので、改めて感心しました。

「きまりを守り力をあわせて楽しく働く働けるまち」を実現するには、思いやりの心、勇気ある行動ももちろん、まずは思ったことを行動にうつす行動力だと思います。一人一人がそのようになれば、この憲章も実現されて、福島市はともみりよく的なまちになると思います。

佳作

「協力し合って」

福島市立福島第三中学校

阿部 朋実

私が福島市に一番必要なのは、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」というものだと思います。それには、理由があります。

それは、私が小学生の頃に、いつも先生方から言われていた言葉が、

「二人で帰るのは避けること」

「もし知らない人に声をかけられても、絶対に応えないこと」

でした。「いかのおすし」という言葉もあって、それも覚えました。そして実際に、何度か、福島市内の小学生が、不審者に声を掛けられるという事が起きました。私の通っていた小学校の子が、車に連れていかれそうになったという事もあって、その頃の私は不安でいっぱいでした。特に、下校の時は友達と帰っていたものの、登校時はいつも一人で行っていたため、とても怖か

ったのですが、道の途中に、地域の方々が当番で立っていてくれたので、とても安心することができました。

そして、最近では子供だけでなく、お年寄りの家などを狙った犯行も、新聞やニュースでよく目にします。私も祖父の家が心配で、家族でよく祖父の家へ行きます。祖父の家の近所は、一人暮らしのお年寄りがほとんどで、そこでも実際に空き巣があった、と祖父が言っていました。これでは私の祖父や、その他のお年寄りの人達も、安心して生活することができません。しかも、一人暮らしだと、万が一の事があって、助けを呼ぼうとしても、誰も気づいてくれないのです。家族がそのような事を心配して家に行くより、安心して笑顔で祖父の家に行くようになる方がいいな、と思っています。私は、市民憲章の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」を実現させるには、やっぱり、人同士の協力や助け合いが必要だと思います。子供達を犯罪から守るには、地域の方々と見守っていれば、不審者も手が出せないと思うし、もしものことがあってもすぐに助

けにいけると思います。お年寄りを守るには、地域の方々と協力して、自宅を訪問したり、犯罪から身を守るためにどうすれば良いかなどの会を積極的に開けば、お年寄りの方々も、もっと意識するようになると思うし、安心して健康に暮らせると思います。

子供やお年寄り、その他の人達が安全で健康な町をつくるには、やっぱり「人」が大事です。人を助けられるのは人しかいないし、協力し合えるのも人しかいません。「安心」「安全」「健康」を目指すなら、人々が協力すれば、「犯罪0のまち」を目指せると思いました。

佳作

「桜公園にあった」

福島市立北信中学校

鎌田 海里

ぼくは、福島市民憲章と聞いて、どこかで見たとがあると思った。たしか、桜公園の入り口にある看板だ。それで、桜公園に行つて確かめた。やっぱりあった。そこには、

福島市民憲章

わたくしたちは、みどりにつつまれた信夫山と清い流れの阿武隈川をもつ福島市民です。

福島市は、地味豊かなしのぶの里に古くから開けた人情の美しいまちです。

わたくしたちは、平和で、さらに住みよく希望にみちたまちをつくるため、この市民憲章をさだめます。

という前書きがあった。それと、市の木・ケヤキ、市の花・モモ、市の鳥・シジユウカラの絵もかかれていた。

今まであまり意識しなかったけれど、身近な場所に福島市民憲章があったのだ。ぼくがこの看板に気づいたのは、今年の三月に家の人が桜公園に珍しい木があるからいつしよに見に行こうとさそわれて行ったときだ。その木は、シダレカツラというのだそう。ぼくは木には興味がなくて、桜の花がいつごろ咲くのかなあと、桜の木を見ていて、ふと白い看板が目に入ったのだ。

福島市民憲章のことを書いた看板に出会っていたなんて！なんか不思議な感じだ。ぼくは福島市民憲章の前書きに出ている信夫山も阿武隈川も大好きだ。市民憲章の一つに「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」とあるけれど、ぼくは、この部分は「空も水もきれいなみどりのまちを大切に守りましょう。」ということではないかと思う。

桜公園にはたくさんのお木がある。春には、桜の木の下で町内会の花見をする。夏には、ケヤキの太木がひかげをつくつてくれるし、セミ取りなども楽しめる。そんな自然豊かな公園が草ぼうぼうになるから、町内

会では定期的に美化作業を行っている。小さな取り組みだけど、みどりのまちを守っているにちがいないとぼくは思っている。

福島市は、たしかに空も水もきれいなまちだけど、時々がっかりすることがある。それは、ぼくが自転車で登校中に、大人が歩きながらタバコを吸ったり、車の中で吸ったりしたタバコのけむりをいきなり吸い込んでしまったときだ。しばらく気分が悪くなつてかなわない。そういうまちは安全で健康なまちと言えないのではないかとぼくは思う。

福島市民憲章を市民ひとりひとりに行きわたらせなければならぬと思う。自分ができる小さなことから始めていけば、いつか大きな力になると思う。

佳作

「命を守る福島市へ」

福島市立北信中学校

角 田 紗 耶

福島市民の安全は、本当に守られているのでしょうか。

私は今年に入って、お年よりが横断歩道ではない、車がたくさん行き交う道路を普通に歩いているところを何度も見ました。父の車に乗っていた時も、いきなりお年よりがとび出してきて驚いたことがありました。

私は今まで、そのような人達を、「悪い大人だな。どうしてそんなことをするのだろう。どうして子供ができることなのに、できないのだろう。」と思っていました。あと少し歩けば横断歩道があるにも関わらず、命がけで渡っていることが疑問でした。しかし、最近、そうではないということが分かりました。

この前、私の家の裏に引っ越してきたおばあさんが、母に、

「散歩するのも疲れるんだよねえ。」

と言っているのを聞きました。そして、下校途中には道ばたでもとても疲れた様子でいすに座っているおばあさんがいました。

私は、このようなことを見たり聞いたりして確信を持ったことがあります。それは、「多くの老人が道路を普通に渡ってしまうのは、めんどくさいからではなく疲れて横断歩道まではとても行くことができないから」ということです。

このような人達を交通事故から守るためにも、私は進んで祖父母に注意したり、母が車を運転している時も渡ろうとしている人はいないかなど、注意して見るようにしてきました。しかし今の福島市は、お年よりの安全よりも子供の安全の方が優先されているような気がします。そのためこの世代でも安心して暮らせる福島市にするために、私はもっと横断歩道を増やしたり、ベンチを増やすべきだと思います。

そうすれば、疲れた時にベンチで休むことができ、渡りたい時にすぐそばに横断歩道があれば、「あそこまでがんばろう。」という気持ちになり、事故も減ると思います。

最近では少子化が進み、私達、若者よりずっと多いお年より達を支えていくのは、考えているよりも、もっと難しいことだと思います。しかし、戦後七十年となった今年、このような平和で、便利な世の中になったのは、今の世代のためにがんばって働いてくださった人達のおかげなのだと思えます。

そのため「お年よりが増えて、たくさん働かなくてはいけないなんて、迷惑だ。」なんて思わずに、平和な時代をつくり上げてくださった人達への恩返しだと思い、私が大人になってからは、人々の願いを実現させるために、そして、安全で安心して毎日がある福島市にするために、地域に自分自身が貢献し、将来は、医療の分野で活躍して、地域医療で地域の人達を病氣などから守ってあげられるようにしたいと思います。

佳作

「笑顔のあふれる福島市に」

福島市立北信中学校

宍戸 美友

福島市は笑顔がよく見られるまちだと思います。ですが、たまには困り顔が見える時もあり、それではとても残念だと思います。そんな福島市が笑顔のあふれるところになるように私達ができることはなんでしょうか。

この前、福島駅のバスプールであったことです。時刻表の近くで並んでいた列の、先頭にいた女の人が、バスにうぶぐるまを乗せようとしていた、その時、列に並んでいなかったはずの人が横から来て

「どいて。」

というようなことを言いました。さすがにこのままではいけないと思っていると、女の人のすぐ後ろに並んでいた姉が、横から来た人にこう言いました。

「それはおかしいんじゃないですか。」
それに続き、

「そうですよ。その女の人はこの列に並んでいたんです。それなのに、横から来たあなたが乗るのはおかしいです。」

「乗るんでしたら、先頭の方に謝ってから、一番後ろに並んで乗ってください。」
といった声が列全体からあがりました。横から来た人はしぶしぶ、という様子でしたが、女の人に一言

「ごめんなさい。」

と言い、後ろに並びました。

そこで事はおさまったので、ほっと胸をなでおろしました。ですが、その時見た、女の人の困った顔や列の人の不満そうな顔が頭からはなれません。今後、こういった顔を見たくないと思いました。

そして、そんな顔がなくなるようにするためにどうすればいいのか考えてみました。

まず一つ目に、バスなどの列になる必要がある場合には、先頭となるところに印となるものがあるといいと思います。時刻表の近くに自然と列ができていくのは良いことだと思いますが、列に並ばず横から来る人もいるので、その人に印を示しながら後

ろに並ぶように言えば、普通に言うよりもずっと早く解決すると思うからです。

二つ目に、一人一人が、その場の状況を見てどうするか考えること、これからしようとしていることが他の人にとってめいわくにならないか考えることが必要だと思います。当たり前のことですが、それができない人がたくさんいて、めいわくに思う人がたくさんいるからです。

このことから、福島市をもっとよくするためには、他の人のことを考えながら行動することがいいと思います。マナーを守るだけではなく、時には手助けをすること、福島市は笑顔のあふれるところになると思います。

佳作

「おもいやり」

福島市立福島第二中学校

梅 津 真 斗

僕の住んでいる家から、僕の通っていた小学校まで一キロぐらいだったが、その間に信号、横断歩道が三ヶ所あり、そこには毎朝近所の民生委員さんや、旗当番のお母さんやお父さんが、雨の日も風の日も雪の日も、必ず僕達を通るのを見守ってくれている。中学校になった今も、毎朝その横断歩道を渡る。僕が「おはようございます。」とあいさつするといつも笑顔で「おはよう。」「いつてらっしゃい。」「今日も部活頑張ってるね。」などいろいろ声をかけてくれる。僕らは中学生になったので、集団登校ではなくなった。バラバラに横断歩道を渡る中学生や小学生みんなに、毎朝声をかけてくれているんだと思ったらありがたい気持ちでいっぱいになった。朝の忙しい時間に僕達が安全に学校に行けるように、毎日おきてくれて、優しい言葉をかけてくれる。

しかもそれは、僕達にだけではなく、毎日そこを通る大人の人やおじいちゃん、おばあちゃんにも声をかけていた。きっと毎朝声をかけてもらっている人達は僕と一緒に、きっと元気に一日をすごせるだろう。

通学路には、横断歩道の手前に、はらい川が流れている。そこは毎日ではないが川に入っている人を見かける。川に入っているといつても遊んでいる訳ではない。話したことはないが、その人は川に浮かぶ落ち葉やゴミを集めている。はらい川を少しでもきれいにしようと一人で掃除している姿を見てとてもすごいと思いました。

中学校になつて、学区が広がり、小学校の学区をでても、大きな横断歩道には、また旗ふりの人が立ってくれている。僕達は、色々な人達に守られているんだなと思った。旗ふりで、安全や元気な一日の元をもらい、川のゴミを拾ってくれている人のおかげで、きれいな街にしている。

他にも、僕達がみえていない所でだれかのために何かをしている人が沢山いると思う。その人達は、「福島市民憲章」を意識している訳ではないだろう。知らない人も

いるだろう。みんな心から周りの人達のために、自分ができることを行っているだけなのかもしれない。そんな人達が沢山いるこの街は、とても「あたたかい」街だと思います。

今までつくられてきた、福島、思いやりの心を忘れず、自分ができる事を探し、実行できるように頑張りたいです。

佳作

「私の住むまちでできること」

福島市立福島第三中学校

梅 宮 愛 花

私は、福島市民憲章がある事は知っていましたが、具体的にどんな物があるのか、というのはよく分かりませんでした。五つある憲章で「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」が大切な事だと思いました。なぜなら、安全で健康なまち、というのは、少子高齢化が進む今、一番理想的で暮らしやすいと思えるからです。そのために、私の地域で行っている事はないか、と考えてみました。

まず、安全についてです。私の家は、大きな街道の裏道にあります。そのため、家が多く、信号がありません。十字路やT字路は見通しが悪く、もし車が来た時に子どもが飛び出したり、車の音が付かない高齢の方が止まらなかつたりしたら危険です。

それを防ぐために、私の家の近くには、

歩行者や車が確認できるカーブミラーや、安全運転をよびかける看板があります。互いを認知できると、高齢の方も安心できるし、子どもも車が来ている事が分かると思えます。それに、運転手側も助かり、心がまえが変わると思います。これらの対策は、私達の安全を守るためのとても良い試みだと思います。

次に、健康と安全についてです。小学生の登校時、「見守り隊」と呼ばれるお年寄りの方々が、途中までついて来てくれます。この事によって、小学生の子ども達はとても安心して通学する事ができます。私も実際小学生の頃、見守り隊の方々に毎日お世話になり、六年間無事故で通学できました。それから、見守り隊を毎日続けるお年寄りの方々にとっても、生活習慣が整い、健康状態が維持できると思います。しかしこれは、地域の方全員が行っているわけではありません。だから、見守り隊の活動が、もっと広まってほしいです。

私の住む地域で行っている事故防止の安全策や、子どもの安全とお年寄りの方々の健康維持の見守り隊などの行いは、どれも

素晴らしいと思います。しかし、「子どもからおとしよりまで安全なまちをつくりましょう。」という憲章の実現のためにできる事は、まだまだたくさんあると思います。どんなささいな事でも、「理想のまち」に一步步近づけるように、新しい活動に取り組んでいきたいです。また、この憲章一つに限らず、他の四つの市民憲章も視野に入れ、住みよいまちにしていきたいです。

佳作

「福島これからを」

福島市立信陵中学校

一条 萌 笑

今回私は、福島市民憲章の中から「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」と「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」の二つについて考えてみました。

この二つについて考えようと思った理由は、私の実体験からです。

まず一つ目は、「豊かな自然に囲まれている」ということです。私は四年くらい前まで東京にいて、父の転勤で福島にきました。福島は、ビルのたくさんある都会と比べ、果樹園や田んぼ、たくさんの木や森がある、自然豊かなまちでした。実っている果物もとてもおいしく、心がおだやかになれる風景に囲まれている福島は、とても魅力的でした。

もう一つは、「親切な人がたくさんいる」ということです。私は以前、道案内などを

している人を何人も見かけました。中でも一番印象に残っているのは、目の不自由な人を支えている人が多くいたことです。信号の時、車がきた時、障害物がある時など、大人だけでなく、子どもと一緒に支えていて、このまちは心が優しく、親切な人が多いんだな、と思いました。その他には、私が空いている時に参加しているラジオ体操でのことです。少ししか参加できていないにもかかわらず、毎回温かく迎えてくださったたり、「来てくれたんだね」などと話しかけてくださる人がたくさんいて、とてもうれしかったのを覚えています。

次に、福島をもっと良いまちにするためにこれからしなくてはいけないこと、ずっと続けていきたいことを考えてみました。

これからしなくてはいけないことは、「ごみのポイ捨て」をなくすことです。せっかく福島のみちが自然豊かできれいでも、その景色にポイ捨てされたゴミが入ってしまうと、とても残念に見えてしまいます。きれいな福島で在り続けるためにも、ごみのポイ捨てをなくしていきたいと思いました。

ずっと続けていきたいことは、「優しい心を忘れない」ことです。優しい心は誰にもあります。その存在を忘れないで色んな人に優しく接することのできる人が、これからどんどん増えていけばいいな、と思いました。

福島市民憲章について考えてみて、あらためてかんじたことがあります。それは、福島は自然豊かで人々の優しい心であふれているまちだということです。美しく優しいまち、そんな福島が私は大好きです。

私のこれからの福島の未来図は、「私たちも私たちの子どもも安心して楽しく暮らせるまち」です。このようなまちに、一歩でも近づけるように私がんばろうと思いました。

佳作

「福島市民の将来性を

住宅から考える」

福島市立北信中学校

菅野 みなみ

私は、福島市民憲章から「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」について住宅環境に目を向けて考えたいと思います。

私は、小学校六年生の時に「福島市子ども議会」に参加させていただき、「市営住宅の環境改善」について案を提出させてもらった経験があります。その際、市営住宅にはお年よりの住居者が多いため、労働力が関わる庭の手入れのお願いや体の衰えによる用水路への転落を未然に防ぐためのさく設置の申し出など福島市のお年寄りのための提案をさせていただきました。そして、福島市役所の役員さんがじん速に対応していただき、今ではきれいな庭とさくが存在する住宅となりました。これを機に沢山の住宅に目を向けてみますと、小さい子ども

がいる家はLEDの広く温かい光を多く取り入れ、IHという火を直接使うことのない安全な生活を過ごす住宅環境を整える、お年寄りのいる家では、玄関先のスロープや手すり、体の弱いお年よりの家だったら床暖や、断熱材入りの壁など体に気を使った住宅環境の配備などが少子化が進む時代に連れて多くなっています。こういう住宅が徐々に増えていくと住宅から少子化問題をヒモ解くヒントを見つかったり、現在男女平均寿命世界第一位の日本を継続できるかもしれません。その先駆けとなるのが子どもからお年寄りまで安全で健康なまちをつくることを目指す福島市になってほしいなと思います。

また、子どもやお年寄りだけでなく今でも故郷に帰れないまま避難している人が住む仮設住宅も安全で健康なまちづくりに適しているのか改めて見直していったほうがいいと思います。夏は極めて暑く冬は極めて寒いという住宅環境を改善し、大変な状況のなかでも、憲章を胸に考えていく必要があるのではないかなと思います。

そして、何か申し出があった時にじん速

に対応する親切さや改善のために力をあわせて働くということは、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」だけではなく、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」や「きまわりを守り、力をあわせて、楽しく働けるまちをつくりましょう。」など他の憲章にもつながるのではないかなと思いました。

最後に、私は今まで市民憲章なんて書いてあっても気にも留めなかったのでこの作文を書いて、自分でも深く考えることがあったし憲章をもっと広ませたいなと思いました。これからも憲章を思い出しながら生活していきたいと思います。

佳作

「きれいで健全な

緑あふれる福島へ」

福島市立西信中学校

岡崎

大

僕が福島の風景や様子を想像すると、緑がたくさんある福島が見えてきます。小学校一年生のころは、木がたくさんある中、葉がしげつていたり、虫の声が聞こえたりして、緑のイメージが強かったです。でも、今は、前とは比べて、緑のイメージが削られた感じがあります。そう思う理由が、周りに建造物が増えたからだと思います。僕が小さいころは、周りに木がたくさんあり、涼しい風景でした。でも今は昔とは違い、建造物が増え、木が見えなくなってきました。こういうのを見ると緑が減ったなと感じます。僕が小さいころよく遊んだ公園の周りにも木がたくさんあり、よく日陰で休んだり、すずんだりした思い出があります。でも、最近行ってみたら、木が伐採されており、木の数が少なくなっていました。正

直、思い入れが強い場所でもあったのもあるし、日陰で休んだ大きな木も切られていたのでショックでした。また、この公園も木が少なくなるとこんなに殺風景になるんだと感じ、がっかりしました。

また、木だけではなく川もそうです。僕が小さいころ、泳いで遊んだ大きな川があります。すごくきれいなので魚もたくさん生息していて、つりをする人も多々見られた思い出があります。その川に、ついこの前友達と遊びに行ったとき、久々に見たのですが、前見た時と比べて汚れていてペットボトルや空き缶などのゴミが捨ててあるのをよく見かけました。月日を経ると、こんなに変わるのかと感じ、驚きました。今日本では、環境汚染が大変深刻化しており、問題になっているのを耳にします。川や海にゴミを捨てたりしてしまうと、このような環境にはならないと思うし、一人一人が、ゴミはゴミ箱に捨てるという強い意志を持たなければ、問題は一生解決しないと思います。これは福島だけでなく、福島県外、また国外でも同じことだと思います。一つ一つの県、国が環境汚染について考え、実

行しなければ、何も始まらないと思います。その中で福島が一早く考え、実行すれば環境汚染に対する考えを持つてくれる人々が増え、次第に環境が整い、きれいで健全な街が実現できると思います。そして、この考えも伝われば、僕のイメージしていた緑の福島が見えてくると思います。今からでも始めれば僕たちだけでなく、未来の子どもたちが住みよい街に実現できます。だから、今からでも一早く環境汚染の対策を立て、実行してほしいと思います。

このようなことを考えると、改めて昔と変わったなと感じます。きれいで健全な福島、緑あふれる美しい福島を目指して、僕も含め、福島市民、県民一人一人が心がけ、実行する強い意志をもてば、よりよい福島が実現できます。頑張っしてほしいし、僕も精一杯頑張りたいと思います。

佳作

「次世代に残したい川」

福島市立大島中学校

松崎 美月

福島生まれ、福島育ちの私は、特別にこの空気がおいしいなあとか、水がおいしいなあとか、あまり深く考えたことはありませんでした。水と空気はただと思っていました。

東京とか都会は、人口が多いので、車や工場とかもたくさんあり、空気が悪かったり、星も見えないんだろうな……くらいは何となく考えてました。

しかし、東日本大震災が起き、生まれてはじめて、水のありがたさや、窓を開ければ新鮮な空気があったことに感謝するようになりました。

水は、震災の時に、水道が止まり、どうなってしまうのだろうとあせりましたが、給水車に並んだり、地下水の出る人からもらったり、おふろの残り水を使い、トイレを流したりというんな人の協力で、不自由

だけど生活できました。けれど空気は、原発の影響で、学校でも、家でも、窓を開けない日が続き、息をしても苦しくないの目に見えない放射線と、みんなが戦わなければならなくなりました。

ラッキーなことに飯坂に住んでいるおかげで、震災でおふろも不自由している人が多い中で、温泉に入れました。私たち家族の順番がまわってきた時には、湯船のお湯はひざ下で、少しずつ使いました。

朝夜の菌みがき、食器洗い、震災前は「もったいない」と言われても水道を出しっぱなしにすることが多かったけれど震災を体験し、当たり前なことをするのって大変だなあと思いつつも、もつと節水しなければいけないと強く思うようになりました。

最近、新聞やニュースで

「荒川が五年連続で水質ランキング全国一位」という発表がありました。

すっかり福島県人の私でも、地震があったからは、「福島は汚れた町」というイメージが強くなり、ああそうなんだ……と思いきこんでいたのに、このニュースはバンザ

イしたくなるほどうれしかったです。

国交省の河川整備に、愛護団体や、企業、市による環境保全活動、川を大切にすることを育み、良質な水質につながっていると記事にありました。

たくさんの方の努力で川がきれいに維持されている事を知り、私も、この事をみんなに知ってもらい、十年、二十年先も全国一位を守るよう、川を汚さないように気を配ったりゴミ拾いのボランティアがあったら参加したいと思いました。

「福島の良いところ、悪いところ」

福島市立福島第一中学校

佐々木 楓

福島市民憲章があるということを、今回のコンクールを通じて初めて知りました。この憲章は、一つ一つが福島にぴったりで、すごくいいなと思いました。その中でも特に、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という憲章が心にひびきました。そこで、福島がこの憲章に対して、とても積極的だなと思ったところ（良いところ）と、もう少し工夫するといけないなと思ったところ（悪いところ）をそれぞれ私なりに考えてみました。

まず良いところは、放射能の検査が徹底していることです。特に、食べ物の検査をしつかりすることで、消費者に「安全」と「健康」を与えていると思います。こういう検査をこれからも積極的に行っていくことで、他県の消費者の不安もぬぐえ、風評被害もなくなると思います。

次に、悪いところは、歩道が危ないことです。街を歩いていると、よく段差があり、歩きづらいことがあります。子どもやお年寄りだけでなく、私達も転びやすく危ないと思います。だからといって、ただ平らな道路にしても、目の不自由な人が歩きづらくなってしまうです。

そこで私が提案するのは、歩道を今よりも広くすることです。道路を広くすれば、車いすの人がのびのび通れるし、目の不自由な人にも点字ブロックを設置すれば、安全に通れる道にできます。例えば、右側に点字ブロック、左側に車いす用の広い歩道を設置するなど、工夫すれば、お年寄りの人や、障害のある人にも優しい道路になると思います。

まだまだ福島は復興への道の途中で、課題も山積みです。その中で一人ひとりができることは、この五つの憲章に向けて、どんな小さなことでもいいから行動をおこしていくことだと思います。

例えば、道で困っているおばあさんがいたら、助けてあげる。これは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」に当て

はまります。川の清そう活動に参加するのも、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」に当てはまります。

このように、一見復興に関係がなさそうでも、絶対にどこかでつながって、つながって復興にたどりつくとは私は信じています。

この五つの憲章すべてを一人ひとりが達成できたら、福島は震災前よりも良い福島になり、初めて復興したといえるのではないのでしょうか。

「すべてがそろろう福島」

福島市立福島第二中学校

岡 部 真 林

福島は、きれいな水が流れている阿武隈川があり、ケヤキがあちらこちらに植えてある自然豊かなところです。なので、動物も生育しています。福島市を代表とするシジュウカラという鳥がいます。この鳥は、昭和六十二年三月に制定され市制施行八十周年を記念し制定された。四季を通じて市内に生息し、身近に見られ、他の鳥と識別しやすく、広く市民に親しまれている鳥でまた、福島市の良好な自然環境を象徴する鳥としてふさわしいです。そして、市の花モモは、平成元年三月制定され春、市の郊外を美しく彩るモモの花は信夫野の風物として市民の心を和ませ、希望と活力を与えてくれます。くだものの里として恵まれた自然や風土、心豊かな福島市民を象徴するのにふさわしいものです。市の木ケヤキは平成元年三月制定し古くから屋敷林樹とし

て市民に親しまれ、近年は、街路樹・公園樹として多用され、緑豊かに発展する本市の都市景観を特徴づけている。そして、その堂々と根を張り、枝を繁茂される旺盛な樹勢と美しい樹枝は、伸びゆく福島を象徴するもので、進展するまちづくりとあいまって、心豊かな市民性と郷土愛をはぐくむ、県都の木としてふさわしいとされています。このような市の木、市の花、市の鳥で自然をつくっているのだと思います。

私達、福島の人は、教育と文化を大切にしっていると思います。学校では、福島でつくったテストがあり、いろいろな博物館があり文化を知ることが出来ます。

それに、福島の人は、親切で愛情あふれる人ばかりです。なぜなら、道を聞いたなら、親切に教えてもらえるし、近所の人たちは、私の家にくだものなどをよくもってきてくれます。そのような点で福島の人は愛情があり親切な人ばかりだなと思いました。

最後に福島の人は、きまりを守り、力をあわせていたり、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちだと思えます。なぜなら、福島の人には、時間をきっちり守る人が

多く、おとしよりが重い荷物を持っていたら、積極的に、若い人が持つてあげたりしているからです。これは、福島では、よく見られます。それに、福島の人は、健康で、安心してくらせる町だと思っています。なぜなら、交通事故という言葉をあまり、ニュースで見ないからです。そして、お年よりが多くいて元気に散歩している人が多いからです。

福島は、すべてがそろう市。そして、私の大好きな市、私の自まんな福島市です。

「みんなで守ろう福島県自然」

福島県立福島第二中学校

木下 渉

ぼくたちが住んでいる福島県には、豊かな自然がある。中でも、荒川は五年連続で水質「日本一」に輝いた美しい川である。春には近くの公園の桜がきれいに咲き、多くの人が見物に来る。秋には川原で芋煮会などが行われ、みんなが楽しめる場所になっている。

夏休みのある日、ぼくは川原へ遊びに行った。そこで目にしたのは、「日本一」の美しい川に捨てられた大量のゴミだった。そのゴミは、ペットボトルや空き缶、残飯などが分別されることなく、ダンボールの箱に入れられていた。周りにはカラスが群がり、残飯を食べ散らかしていた。ぼくはそれを見て、とてもイヤな気持ちになった。

「どうして自分達が出したゴミを持って帰らないのだろう。」

福島県民憲章の一つに「空も水もきれいなまちをつくりましょう」というものがある。きれいなまちをつくることは、ぼくたち市民の義務だと思う。一人一人が自然を守るという意識をもつことで、何十年先も福島はきれいなまちであり続けられる。では、ぼくにできることは一体何だろうか。

一つ目は、やはりゴミを捨てないことだ。自分で出したゴミは必ず持ち帰る。そういうあたりまえのことを、一人一人が確実にやるのが大切だと思う。そして、もしゴミが捨てられていたら、自分から進んで拾えるようにしたい。

二つ目は、節水や節電などを常に心がけて、生活することだ。水を大切に使うことは、汚れた水を出さないことにもつながる。汚水が減れば、川の水もきれいになるので、ぼくは水を大切にしたい。また、節電は二酸化炭素の排出量を減らすことができ、きれいな環境をつくることができる。ぼくは、使わないコンセントを抜いたり、クーラーの温度を上げたりして、節電を心がけている。一人の力は小さいかもしれないが、一人一人の心がけで福島県自然は守られてい

くと思う。

今、福島県では除染のため次々と木が切りたおされている。きれいな環境を取り戻すためには仕方のないことだ。美しい自然を守るために、また木の苗を植えればいい。ぼくたちが大人になるころには、木は大きく成長して、きっと豊かな自然が広がっていることだろう。

「空も水もきれいなまち・福島」は、ぼくたちの手で守っていかなければならない。

「温かい心」

福島市立福島第二中学校

西脇 空也

僕は、このコンクールで福島市民憲章があることを初めて分かりました。この市民憲章をたくさんの方が知れば、素晴らしい福島をつくっていけると思いました。五つの市民憲章で心に残った市民憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。この市民憲章が分かるのは、まず、東日本大震災と原発事故が起きたときです。このときに、不安や問題をたくさんの方の福島の人たちが持っていました。こういうときこそ、人と人との関係を大切にしなければならぬと僕は思いました。自分のことしか考えずやっていても、なかなか復興は進まないと考えました。だから、ここでは、「助け合う」ことが一番だと思いました。もう一つ分かることがあります。それは、去年の二月のことです。福島で大雪が降りました。そのせいで、交通機関も悪くなり、

福島が大変なことになりました。そのとき、僕もやろうと思い、雪かきを始めました。ある高校の野球部では、数日間学校の周りの地域を回って雪かきをしていました。また、駅では、電車が止まって帰れなくなった部員たちが、迎えがくるまでの間、立ち往生している車を何十台も助けていたそうです。僕の家の前でも、何台か進めなくなった車を周りの近所の人たちと、僕と父と兄で助けに行きました。このことから「協力」することが大事だと思いました。

二つに関して思ったことは、福島にはたくさんいい人がいるのいいなと僕は思いました。だから、福島市民憲章をまだ知らない人たちに知ってもらえれば、もっとよい福島になると思いました。ぼくはこの市民憲章を知らなければ損すると思いました。なぜかという、これからいろんな事があると思います。でも、そこで市民憲章を知らない人がいて、自分かつてなことをしたら何にもよくなっていけないと思うからです。たくさんの方に知ってもらいたいです。

僕は、福島市民憲章の「親切で愛情あふ

れるまちをつくりましょう。」ということを実現させるためには、福島がたくさんの方たちが「温かい心」を持っていくことだと思いました。みんなが「温かい心」を持てば、どんなことでも、「助け合う」、「協力」をすればどんなことでも、乗り越えられると思いました。僕も、「温かい心」を持つ人にたくさん助けられています。例えば、困ったときなどに声をかけてくれました。それで僕は、元気づけられました。だから、困っている人などがいたら声をかけてほしいと思います。その一言が、僕のように元気づけられるかもしれません。

「親切で愛情あふれるまち」を、実現すれば「助け合う」「協力」する「温かい心」を持つ人が増えすぎなまちになると思います。

「市民憲章の活用」

福島市立福島第二中学校

野 田 朝 陽

僕のお父さんは、市役所で働いているので、「福島市民憲章」はたびたび見る必要があります。

しかし、ふだんはあまり興味がなく、さらさらっと見ていただけでした。でも、こうして作文を書くために、初めて読んでみると、これを今の福島市に活かせないだろうか、と思います。

僕は現在「OECD地方創生イノベーションスクール2030」の東北クラスター福島市チームに参加しています。そこでは、地域の課題を見つけ、解決するためのイベント等のアクションプランを計画しています。そこで、この福島市民憲章をもとに何か活動をすればいいのではないか。と思いました。例えば一番最初の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」地域の人々や、もちろん僕達も協力してこの

ような町をつくれば、放射線のイメージが解消され、もつと人が来るかもしれません。全員で協力すれば、出来ないことはほぼ無いと思います。

まずは、「福島市民憲章」をたくさんの人に知ってもらうことからです。そういう僕もまだ完全には憶えていません。だから最初に、市民のみなさんに憶えてもらうことが重要です。外部に広めるには、内部の協力が必要です。今、福島市は様々な課題があると思います。少子高齢化や風評被害などです。だから今こそ市民が協力して、全員で課題に立ち向かうことが重要だと思います。

次に、それを行動に移すことが大事です。福島市内の小学生、中学生、高校生なども巻き込みながら、福島市内に人と呼びこむ。風評被害を解消する。いきなりは無理かもしれませんが、少しずつあきらめないでやれば、僕達にできないことはないと思います。僕は福島市の力を信じています。

僕はここまでえらそうなことを言ってきました。これは僕の意見です。福島市がこれからどうすれば良い町になるのか考えた

結果です。少し「福島市民憲章」から外れてしまったかもしれませんが。でも、もし僕がいったような活動をするなら、僕達中学生なども入れてほしいです。一緒に活動したいです。「空も水もきれいなみどりのまち。教育と文化を尊び希望に輝くまち。親切で愛情あふれるまち。きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち。子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」それが僕の目標でもあります。

「よりよい福島にするために」

福島市立福島第二中学校

松 浦 美 咲

私は福島市民憲章があるということを知り初めて知りました。詳しく知りたいと思ったので福島市のホームページで調べてみると、福島市民がこれから土地、教育、文化、人々とどう関わりどういう福島にしていくなのか、将来の福島を築いていくうえで、とても大切であると思いました。私は五つの憲章全て大切だと思いますが、私はその中でも「子どもからおとしりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」というのが心に残りました。なぜかと言うと、最近は犯罪や事故などを、ニュースで目にしたり健康面では、私の家族の具合が悪くなったりました。私はこのようなことを少しでも減らすためには人との関わりや交流、呼びかけることが大切だと思います。理由は二つあります。

一つ目は、犯罪や事故を防止するために

周りにいる人が気づいてあげることです。特に事故は自転車や自動車が原因で、もしかしたら、

「少しルールを守らなくても大丈夫。」

と言っている人もいるかもしれません。だからもしも、お酒を飲んでいたり眠そうになつていたりしたら、自分自身でも気がつかなければならぬし、周りにいる人も注意してあげなければいけないと思いました。

二つ目は、一人一人が健康でいるために、家族と話したりして意見交換をすることです。特に私達の身近なことで気をつけていけると言ったら、食生活だと思っています。なぜかと言うと、私の祖父は三年前に心筋梗塞になつてしまい、原因が食生活だったからです。それから祖父は食事に気をつけるようになります、家族と話し合うことが、多くなりました。そのおかげでもあり、祖父は今まで苦手だった食べ物をよく食べるようになりました。そしてご飯よりも野菜を多くとるようにしました。これは家族や人との関わりがあったから、祖父も自分の食生活を見直すことができたのだと思います。

またこの二つのことから、人と人との支え合いがあつてこそ、自分自身を変えることができるのだと思います。

私は福島市民憲章の作文を書いて、福島市民が繋がることで、よりよい市や町にしていけるのではないかと、思いました。また、よい市や町にするのに伴い問題も、でてくると思いますが、福島市民が助け合つていけると良いなと思います。私もこれから福島市や町をどういうふうにしたなら良くなっていけるのか、考えていきたいです。

私は、地元の福島の人全員が「人のことを思いやれる」福島にしたいと思いました。そして笑顔あふれる福島にしていきたいです。

「『幸せ』とは何か」

福島市立福島第二中学校

吉田 真優

みなさんはどんなときに幸せを感じますか。幸せを感じる瞬間は人それぞれだと思います。福島市憲章の内容を読んでみると、幸せと市憲章はつながりがあるということに気がつきました。どのような街づくりをすれば、市民のみんなが笑顔で暮らせる場所になるのでしょうか。私は自分なりに五つの市憲章はどういう意味で、どんなことをやっていけばいいのかということとを深く考えてみました。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。みどりのまちというتماず自然をイメージしました。空や水がきれいか考えたことはなかったのですが、空や水がきれいだとか快適ですがすがしい気持ちになります。自然を大切にすれば、ごみを路上に捨てるなどの環境を破壊する行為は絶対にしてはいけないと

思いました。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょう」です。この意味は、教育に力を入れ、それぞれの地域の文化に親しみをもち、未来を良いものにしたいたいことだと私は思いました。そのためには熱心に勉強にはげみ、積極的に文化に触れることが大事だと思います。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。お互いに助け合い、だれかが困ったとき知らない人でも気軽に声をかけられるようにしたいという意味だと思います。そのためには、様々な年代の人と交流を深め、優しい人や人の気持ちが分かる、親切な人間になっていきたいと思っています。

四つ目は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」です。犯罪に手をのぼしたり、人のいやがることをしないで、協力して街の活性化に努めるといふことを伝えたいのではないかと考えました。一人ひとりが福島のことを常に意識して、だれもが楽しく暮らせるような福島になっていければ良いなと思います

た。私もどんなに小さいことでもきまりを守り、協力していききたいと思います。

五つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。暮らしやすい街にするには安全と健康が必要だと分かりましたが、もしも安全がなかったらどうなるのでしょうか。例えば交通事故にあつたり食中毒になつてしまつたら、健康さえもなくなつてしまいます。なので私は安全と健康はなくてはならないものだと思います。

五つの市憲章はどれも守らなくてはならないことだと考えました。ですが、知らない人はたくさんいると思います。なので、できるだけ多くの人に伝えて市憲章の大切さを知ってもらいたいです。そして、みなさんも市憲章があるという幸せが分かつたのではないのでしょうか。

「福島市をより良い場所に

するために」

福島市立福島第二中学校

高橋 優実

私は、福島市が大好きです。果物が美味しくて、自然がいっぱい、ここに住んでいる人はみんな明るく優しい人ばかりです。

でも、この「福島市民憲章」を読んでも、まだ出ていない事がいくつかあることに気が付きました。

まず一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」ということについて考えてみました。福島市の空と水はとてもきれいだと思います。でも、「みどり」は少ないと思いました。山はありますが、身近な場所に植物があまり無いように感じました。私は二小出身です。二小の西昇降口には、とても大きくきれいな桜の木がありました。しかし、その木は去年に道路を広くするために切られてしまいました。私

はその事により大好きな桜が見れなくなっ
てしまい、悲しい思いをした事を覚えてい
ます。なので、身近な場所から少しずつ「み
どり」が減ってきている気がしました。

二つ目の「教育と文化を尊び希望に輝く
まちをつくりましょう」と三つ目の「親切
で愛情あふれるまちをつくりましょう」と
いう事については、福島市がもう出来てい
る事なので、これを継続していきたいです。

四つ目「きまりを守り、力をあわせて楽
しく働けるまちをつくりましょう」につい
ては、「きまりを守る」という事が少し欠
けてしまっているような気がしました。私
達の通っている二中のすぐ近くには競馬場
があります。そこには土日になると県内は
もちろん、県外からもたくさんのお客さん
が来てにぎわいます。その土日明けの月曜
日になると、通学路にはタバコの吸いガラ
やビニール袋など、たくさんゴミが落ち
ています。ゴミが捨てられている所を競馬
場で働いている人や近所に住んでいる人達
が一生懸命掃除をしている所を何度も見た
事があります。その事は競馬場に限った事
ではありません。なので、ゴミを捨てない

というきまりが守られていないと思いまし
た。

そして、五つ目の「子どもからおとしよ
りまで安全で健康なまちをつくりましょ
う」という事については、「少子高齢化」
という事と関連を持たせて考えてみまし
た。そこから考えたのは、「バリアフリー」
についてしっかり考えるという事が課題だ
と思います。

私は「福島市民憲章」について考えた時、
「みどりを増やすこと」「ゴミを捨ててはい
けないというあたり前のきまり」「高齢者
へのバリアフリー」が今の福島市民、福島
市の課題だと思いました。そして、この課
題が全てクリアされ、市民の人達全員が幸
せで明るく暮らせるような場所に福島市が
なるといいなと思いました。

「自然が多いまち」

福島市立福島第二中学校

豊岡 桃香

私は、福島市民憲章を見て「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という文が目にとまりました。空も水もきれいなみどりのまちは自然が多くてとても過ごしやすい環境なのかと思いました。

私は自然が好きなので、山や森、海などに行く時にはとても楽しみにしていました。木が多いところに行くと、気持ち良くなりました。でも今は、原発事故の影響であまり山や森などには行けていません。だから早く放射線の影響がなくなって、自由に自然とふれ合いたいです。それに最近、木材にするために木をたくさん切っている。森の面積が減っていると聞きました。森がないと地球温暖化にも影響してしまうので、なるべく木を切る量を減らしてほしいです。そして、自然の多いみどりのまちがこれからも保ってほしいと思います。

す。

私には、水をきれいにするために気を付けていることがあります。例えば、水道では油のついた物はふき取ってから洗っています。また、山や川に行った時には、ゴミを捨てずに持ちかえっています。水道に油を流してしまうと、魚が住むにはたくさん必要になると聞いたからです。だから、川や海をきれいに保つために気を付けようと思いました。でも、これだけで水がきれいになっていくわけではないので、もっと気を付けることがあると思います。私にできることをして、水がきれいになっていけばいいと思います。それに、私以外のものもたくさんの人にも水をきれいにできることをしてもらえば、川の水や海の水もだんだんきれいになっていくと思います。だから、そのためにはたくさんの人に呼びかけをしてほしいです。そして「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という福島市民憲章にあったように、みどりが多く、水も空もきれいな福島市になっていけばいいと思います。

今は、だんだん建物をたてるために自然

が少なくなっています。それに、川や海などの水も汚れているところがあると思います。それが、これから自然が増えて水も少しずつきれいになるようにしてほしいです。そして、みんなが住みやすい環境の福島市に変わっていくのが楽しみになりました。そのためにはまずは自分にできることを見つけて、小さなことを少しでも実行することができるようになりたいです。

「空も水も繋ぐ」

福島市立福島第三中学校

八 巻 心 優

部活動に行くとき、毎日何げなく見ていた文字。そのときの私は、「福島市民憲章」がどれほど大事なもののかを知りませんでした。

国語の授業で、「福島市民憲章」の全文にしつかりと目を通しました。そして、多くの人に知ってもらいたいと思った文がありました。それは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。

なぜなら、原発事故の風評被害が、改善されつつありますが、完全になくなったとは言いきれないからです。

私が通っていた小学校は、自校給食でした。なので、給食に使用する食材はすべて、放射線の検査を毎回必ず行っていました。

ある日、県外産の食材から、基準値を超える数値が出てしまい、予定していた料理は、出せなくなっていました。すると、

当時の担任の先生が、「福島県産がやっぱり一番安全ね。」と言うのです。理由を聞いてみたら、

『福島県産は危険』というイメージがついてしまっているけど、店頭に並ぶ商品は、すべて検査されているものなのよ？検査をしていない県外産よりも、ずっと安全じゃない。』

と、答えてくれました。確かにそうだと思います、家に帰って母に話すと、

「先生の言う通りだよ。放射線の検査をしているのは、日本で福島だけだもの。」と、先生と同じ意見でした。

私は今まで、県産のものよりも、県外産の方がなんとなく良いような気がしていました。「なぜそう思っていたのか？」と聞かれると、うまく説明できないですが、悪いイメージがありました。ですが、先生や母の言葉で、悪いイメージが「良いイメージ」に変わった、そんな経験をしました。

ですが、風評被害が思うように改善できていないのが現実です。風評被害は、「無くそう」と思っただけで無くせるようなものではないと思います。原発事故から五年が経ち

ました。当時に比べれば、様々な事が「復興」へと歩みを進めています。

「環境」もその一つです。現に、福島市内の私が通っていた小学校では、三年生の時は、「外で遊ぶな。」と言われました。けれども、翌年は、業間も昼休みも遊んでよいと言われました。小さな事だけれども、私にとってはとても身近な「復興」でした。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」ということは、無理な事でしょうか？私は実現できると思います。小さな事でも積み重ねていけば、福島の復興に繋がっているからです。

あなたも一緒に繋げませんか？

「親切な心があふれる町へ」

福島市立福島第三中学校

佐藤 凜

私は、福島の人達がいつも笑顔でいられる町づくりをするために、この憲章をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。その中で、私がいいと思った憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。理由は、最近、高齢化が進んでいたりしますが、若い人の人を思いやる心が少なくなっていると感じたからです。

なので、一人一人がお互いの事を「思いやる」ことが必要ではないかと思います。

前に電車に乗っていた時、腰の悪そうなお年寄りのおばあさんがゆれる電車の中、手すりにつかまり立っていました。みんな気づいているのかいないのかは分からないけど、だれも席をゆずろうとはしませんでした。私は立っていたので席はゆずれませんでした。ですが、ずっと本を読んでいた若い女の人が、おばあさんに気づいて、席

をゆずってくれました。私はその女の人を見て、優しい人だなと思いました。

また、去年、私が小学一年生から続いているチアで老人ホームに訪問しました。おじいさんやおばあさんは、一緒におどってくれたり、手拍子をしてくれたり楽しそうにしてくれる人がたくさんいました。そこに、私のおばあちゃんやおじいちゃんがいて、みてくれていてすごくうれしくなりました。その少し後におばあちゃんがなくなってしまう、おばあちゃんにおどりを見せるのは、最初で最後になってしまいました。でもあの時に、老人ホームにいるみなさまや、おばあちゃんに、最高の笑顔と元気を届けられたので、とても良い経験をさせてもらえたなと思いました。

私は、五つの憲章の中の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を実現させるためには、みんなが「お互いを思いやる優しい心」を持てるようにすることだと思っています。一人一人がお互いを思いやり、優しく声をかけてあげれば、つらい事があったり苦しい事がある時に一緒にいて、その人のつらかった事、苦しかった事を、少

しも無くしてあげられるのではないでしょう。か。なので、周りをよく見て、困っている人、元氣のない人に元氣と笑顔にもどってもらえるように生活していく事が大事だと思います。

憲章の、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」が実現出来れば、福島にもっと笑顔と元氣な人がふえ、すばらしいまちになっていくと思います。

「自然のための行動」

福島市立福島第三中学校

多 勢 彩 加

五つの憲章の中で「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」が、今の社会で必要だと思いました。

なぜなら、人が生活する中で、空も水もみどりも、全てを破壊しているからです。人間が自然を守らなくてはいけないと思います。

これを実現するには、一人一人の心の持ち方で変わります。

私の家の近くにはたくさんの山があります。しかし、去年、ある山の半分の木が切られていました。そしてその後、そこにはソーラーパネルが建てられていました。電気の節約をしても、その影響で自然を壊すのはだめだと思いました。

また、駅前に行ったとき、ビニール袋を持って、ごみを拾っている人達がいきました。その人達は、だれかがポイ捨てしたペット

ボトルなどを拾っていました。自分も「自然を守りたい。」と思うだけでなく、行動で自然を守りたいと思いました。

自然を守るためには、ポイ捨てをしないのは当たり前で、自然をより良くする行動を行うことが、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を実現させるために大事だと思います。より良い行動は、自分の心を磨くことができます。例えば、だれも気づいていない地面のごみを拾います。その人は、だれも気づいてない事に気づけるので、困っているけど、気がついてもらえない人を気づいてあげることができます。その一つ一つの行動で、自分の心が磨かれていくかもしれません。

私が友達と遊んでいたとき、友達が道にごみを捨てようとしていました。そのとき私にごみを捨てるのを止めました。友達は少しいやな顔をしていましたが、ちゃんとごみを持ち帰ってくれました。いやな顔をされたときは少し怖かったです。でも、「自分も自然を守れた。」と思ったときは、怖かったことも忘れて、うれしい気持ちでいっぱいでした。でもその気持ちの中に、友達

も自然を守る、心のきれいな人になってほしいなと思いました。この経験からもうえるように、やはり良い行動をすると、心が磨かれるんだと改めて感じました。

今の世界を「空も水もきれいなみどりのまち。」に、していくことができれば、自然も人間も、笑って暮らせるまちになっていくと思います。

「福島市民憲章を知って…」

福島市立福島第三中学校

成 田 寧 珠

私は、この作文を書く事になるまで福島市民憲章を知りませんでした。私はその憲章の中で「親切で愛情あふれる町をつくりましょう」が心にひびきました。それには理由があります。それは、今も震災で苦しんでいる人がいたり、高い者が増えてきている現在、皆、困っている人を助けたり小さい子供にも優しく育ててあげる事が大切だと思うからです。

約四年前「東日本大震災」がおこりました。津波がおきたり停電したり多くの人が被害を受けました。私の家も数日間は家に入れなくて、車の中で過ごす日もありました。近くのコンビニに行っても食べ物がなく大変でした。そんな中、私達家族と同じアパートに住んでいた下の階の人が食べ物或少し分けてくれてとても嬉しかったです。それから車に戻りテレビを見ると、私

が実際体験したような事が放送されていて違う所でも色々な人が助け合っていると分かります。感動しました。

そして、震災で大きな被害を受けた人の一人が身近にいます。それは祖母です。祖母は震災前までは小高に住んでいました。しかし震災でそこには住めなくなり今は仮設住宅に住んでいます。私達家族は時々、休日とその仮設住宅に行ったりします。そんなある日祖母の所にむかいのおばさんが来ました。何か手に持ってきたのです。もらってきから祖母がふたを開けると、おばさん手作りの漬け物が入っていました。祖母は、

「おいしそう。」

と一言いい手づかみで一つ食べていました。その食べた顔は自然と笑顔になりました。

「食べてみる？」

と聞かれたので、私も一つもらいました。するとすぐくおいしくて、

「もう一つちょうだい！」

といい、私はその味にはまっていました。その他にも、部屋に招いたり、招かれたり

してたくさん交流していました。こんなまちなったらいいなともいい経験になりました。

私は、このような経験をして思った事があります。それは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という憲章を良くするには、お互いにそれぞれの事を知り、声をかけ合い交流していく事が大事だということです。その「助け合い」や「お互いを知る」ことでもっと色々な人に気持ちを考えて親切に接する事ができたりすると思います。

小さな積み重ねがこの憲章だけでなくほかの憲章も、もっともつと良くなっていくと思います。

『みどりのまち』にするために

福島市立福島第三中学校

服部 尚美

私は、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるための、福島市民憲章のことを今回初めて知りました。五つの憲章の中で、一番始めに実現したいと思ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。

なぜなら、周りをきれいな環境にすれば、心がやわらぎ、他の憲章にも後に続くと思うからです。みどりのまちをつくるには、一人一人の気持ちが大切だと思います。

春に母と、車で走っていると、原発事故の影響で畑ができなくなってしまった畑に、きれいな木や花が咲いているのが見えました。こんなところにこんなきれいな木や花が咲いているとは知らず、つい見入ってしまいました。また、しぜんと笑顔になっていました。私は、大震災で、ショックを受けている方々にこんな気持ちをあたえ

たいなと思いました。

私は、小学生のとき、登校中にタバコやゴミが落ちていたのを見かけました。私は少しいやな気持ちになりましたが、見て見ぬふりをし、知らないふりをしました。しかし、ある朝、見守り隊の方が、ゴミ袋を片手にゴミやタバコを拾っているのを見ました。私は、道がきれいになっていくのを見ると、気持ちがよくなりました。すばらしい模範だなと思いました。

「花見山」は、花木農家の方がコツコツと山を耕して、日本中で有名になった観光名所です。無料で、私達に公開して多くの人々の心を花木でいやされるようにして下さいました。その美しい心がますます人々の共感を呼ぶのだと思います。「花見山」と共に「花見山」の精神は自然の美しさをさらにキラキラと輝かせてくれていきます。私はこのような心こそ、福島の持つ、すばらしい財産のような気がします。それは、すぐにできるものではなく、代々受けつがれていくものだと思います。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」を達成するためには、このよ

うに協力したり、他人を思いやる気持ちが必要だと思います。そのような意味では、憲章の中にあつた、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を目指すことも同時に大切だと感じます。「みどりのまち」を実現させるには、進んでボランティアに参加したり、一人一人ができるだけゴミなどを減らす努力が大切だと思います。私ものがんばりたいと思います。協力しながら、憲章の第一歩として「空も水もきれいなみどりのまち」にしていきましょう。

「私が今できること」

福島市立福島第三中学校

大 槻 円 香

私は初めて福島市民憲章があることを知り、五つの憲章の中で「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」が心に残りました。なぜなら、たくさんさんの交通事故、原発事故で汚染された地域などがあり、私たちにできることは何なのか考えたいと思ったからです。

私は小学生の時、登校班の班長をしていました。毎日朝と夕方に横断歩道を通ると「おはよう。」や「こんにちは。」などと声をかけてくれる地域のおじさんが立っていてくれました。その人たちは緑のジャンパーを着ていて「見守り隊」と呼ばれていました。私たちが安全に横断歩道を渡れるように見守っていてくれ、私は六年間事故に遭わず安全に登校することができたと思います。朝は車の量が多いので見守り隊の人がいてくれて本当によかったです。

また、今年で東日本大震災から四年が経ちました。震災後いろいろな行事が中止になったが四年経ち、前の姿に戻ってききました。小学校では外で運動ができるようになりました、地域の運動会もできるようになりました。また、私の住んでいる地区のお祭りでは小さな子供からお年よりまでがいっしょに山車を引いて歩けるまで復興しているのです。少しずつではありますが、日々健康的な生活に戻りつつあると思います。

そして、今年の八月に大阪で中学一年生が殺害された事件が起きました。犯人は福島市に除染に来ていたそうで私は驚きました。もしかしたら福島で起きていたかもしれないと思うと、他人事ではないなと思いました。事件に巻き込まれないようにするのはどうすればよかったのかを考えると、夜に子供だけで出掛けないことと知らない人についていけないことです。あたり前のことを守るだけで自分の身を自分で守ることができるのです。

安全で健康な町をつくるのは一人一人が周りに目をくばり、声をかけ合って築き上げていくことだと思います。私が小学生の

ころは地域の大人達に見守られて学校に登校していたように、今度は中学生になった自分が小学生やお年よりを見守っていきたいです。

私たちは原発事故にも負けずこれからも福島で生活していくという強い気持ちを持ってお年よりから引き継がれる伝統行事を守りながら新たな福島を作り上げていきたいと思っています。

「人に気配りができる人」

福島市立福島第三中学校

吉村 梨子

私は、よりよい福島をつくるために五つの憲章の中で「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」が一番目指すべきだと感じました。なぜなら、今学校のいじめなどが原因で自殺をする人が増えていると感じ、それではよりよい福島ではないと感じたからです。いじめをなくすためには、お互いがお互いの事を見るつまり、人に気配りができるということが必要です。

最近福島でも「いじめ」という言葉を耳にするようになりました。いち早くいじめを解決するにはやはり、相手の事をいつでも気づかえる心が大切だと思いました。いじめをしていなくても周りで見ていただけでいじめていることと同じことになってしまいます。いじめを見つけたらすぐ、周りの人に相談して解決していかなければなりません。そうすれば、その学級が良くなり、

学校が良くなり、やがて福島全体がいじめがないまちとなるはずです。いじめなどがなくなれば、一人一人が親切で愛情あふれる人となり、それがまちとなっていくと思います。

また、いじめをなくすために、よりよい福島をつくるために気配りをするのではなく、相手の気持ちを分かろうとしなければ良い気配りはできません。相手の気持ちを知らうとするというのはとても難しいことです。が、一人で居る人に、

「大丈夫？」

や、

「一緒に遊ぼう。」

と声をかけるだけで良いと私は思います。

私は、「親切で愛情あふれるまち」をつくるためには、自分と同じように相手も見えてあげることが一番大切だと思います。けれどただ見てあげるだけではなく、声をかけるといふことも大切だと思います。そうすれば福島も、「親切で愛情あふれるまち」となると思います。

さらに継続していくためには、一人一人が意識し、継続するんだという気持ちが大

切だと思っています。九十九パーセントの人ができていても、残りあと一パーセントができていなければ意味がありません。福島全体が百パーセントになるように一人一人が意識をしていけば、「親切」「愛情」のある本当のまちとして他の県民からお手本とされるような、そんなまちができ、それを誇りにできる日が来ると 생각합니다。

「福島市民憲章について」

思ったこと」

福島市立福島第四中学校

岩 野 結 衣

福島市民憲章を読んで、この決まりはきちんとして守られているのだろうか？と思いました。わたしは、「空も水もきれいなまちをつくりましょう。」と、「子どもからおとなまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という二つの決まりが特に気に入りました。

まず、「空も水もきれいなまちづくりをしましょう。」と、ありますが、以前、近所の川に遊びに行った時に、缶やペットボトルなどのゴミや電化製品などの大きいゴミがたくさん捨てられて水がよごれ、魚などの生き物もいませんでした。

川が汚れ魚が住めないことも問題ですが、捨てている人がいても気にしない。捨てられたゴミがあっても気にしない。魚が減っても自分たちには関係ない。ということ

とが日常になっていることが問題だとわたしは思いました。面倒だからその辺に捨てる。それを見ても面倒だから放置するという人々の行動の連鎖が、このゴミだらけの川を作り上げたんだな、と思いました。現に少しでもゴミを減らそうとしている人や、見つけたゴミを拾っている人もいますが、それはほんの一握りです。ほとんどの人が見て見ぬフリをしています。決まりがあっても、これでは意味がないと思いました。

次に、「子どもからおとなまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という決まりについてです。わたしは部活に行く時などに自転車を使うのですが、その時に右側を通っている人がいて、正面衝突しそうなひやりとしたことがあります。わたしも、右側通行をして、向かい側から来た知り合いに注意されたことがあります。その後、左側通行を意識して走ってみると、右側通行をしている人が多いことが分かりました。交通ルール無視は自転車だけに限られたことではありません。標識に車は通行禁止と描かれているにも関わら

ず、堂々と通行していたり、信号が赤になっただけでも、これが普通だと言わんばかりに通行していた人もいました。標識が見えなかったなら次は気をつけなければいいものの、信号は誰でも知っていることのはずです。決まりを知っているのに無視するという行為は、他の人にとっても迷わがっかりしますし、事故にもつながります。このように決まりがあっても守らず、決まりに対する意識が低いことが分かります。

福島市民憲章が定めてあっても、守らなければ意味がありません。一人一人が守ろうとする意識を高めないとけないということもありますが、決まりを知ってもらうことも大切だと思います。わたしも、この作文を書くまで福島市民憲章を知りませんでした。決まりを多くの人に知ってもらい、知った上で意識を高めることが、この市を良くするためするべきことではないかとは思いました。

「市の環境」

福島市立福島第四中学校

斎藤 菜々美

私は今、環境について気になっていることがあります。それは、通路に無意識にゴミや空き缶、ビンなどを捨てる人達のことです。そのだいたいの人が大人や高校生くらいの人というのにも気になります。

TVでは環境について気をつけるようにといったことは呼びかけているはずなのに、それを無視するかのように道にはたくさんゴミがおちてあります。もし、そのゴミがビンだったりとかたい物だったとしたら、そのビンを歩いている人が気づかずにふんでしまったり、自転車でふんで転んだりしてしまったら大変な事になってしまいます。

そういった後のことを考えずに無意識に道に捨てているのはどうなのかと思います。私はそういった大人にはならないように今から環境については自分に厳しくし

て、絶対にゴミをそこら中に捨てないようにしたいです。

私は二年くらい前に北海道のサマーキャンプに当たりました。そこで環境についての勉強もしてきたのですが、映像に、どこかの国がゴミにうまっていたり、川にゴミがたくさん入っていたりを見ておどろくほどの映像をいくつも見ました。

ゴミのほかにも洗剤の使いすぎなのか、川が泡だらけになっている国もあるらしいのですごく気になります。なので、洗剤の使いすぎには気をつけてほしいし、私も気をつけたいです。

こういったちよつとしたことが地球の環境を悪くしているはずです。見た目も空気も臭いも悪く、とても過ごしにくい世の中になってしまふことは絶対ないということはなく、逆に絶対なってしまうと思います。なので、ちよつとゴミを捨てたくらいなら大丈夫とはあまり思わないで、ちよつとでも捨ててしまつたら環境が悪くなると思つてほしいです。ですが、現実はいきつと、一度言つたくらいでは聞かずに何どもくり返して捨ててしまう人たちがたくさんいるは

ずです。そういった人たちが捨てなくなるのはきつと、地球全体をゴミだらけでうまらせないと反省しないと思います。ですがそうするとやはり空気が悪くなると思うので、どうすればわかつてくれるのかを考えます。しつこく言いまくるのはどうなのか今この文を書いているとき思いました。

環境の良いというのは、ゴミがおちてない、水がきれい、空気が気持ちいい、ということだと思います。そんな国にするにはまず、私達の住むところからきれいにしていくのがいいと思います。自分の国からはじめて、どんどんほかの国に広がっていったら最高だと思っています。

いつか、どこにもゴミがおちていない、とても空気のいい福島県に住みたいと、この文を書いて思いました。

「親切で愛情あふれる福島へ」

福島市立福島第四中学校

佐藤 龍起

僕の家族には、足の不自由なおじがいます。僕のうちだけでは、ありませんが、足の不自由な人、目の不自由な人、耳の不自由な人はよく見かけます。その時に、みんなつめたい目で見ている人を見かけますが、不自由な所がある人はみんな、なりたくなっていくわけではないので、差別はしてほしくないです。なので、このテーマを選びました。

僕は、こまっているお年よりなどを見かけた時には、助けてあげようと思っていますが、実際、見かけた時は、見て見ぬふりをしてしまいます。それでも、助けてあげてる人もいます。僕はその人のように、こまっている人がいたら助けてあげられる人間になりたいです。

親切は、人にたいする愛情がなければ、できないと思います。でも、親切にしてあ

げることは、そんなに簡単にできることじゃありません。なぜなら僕もそうですが、親切にしてあげるとなるとまわりの目が気になります。僕は、親切にしてあげることがとても良いことだと思いますが、身のまわりには、親切にするということがおかしいと思っている人もいました。なので、僕は、みんなが、親切はして当然というようになつたら、良いなあと思います。

親切にしてあげると、助けてもらった方はうれしいし、助けてあげた方も、とても良い気持ちになります。親切にしてみらつてうれしくない人はいないと思います。なので、自然に笑顔になります。だから、みんな笑顔で笑顔あふれる楽しいまちになったら、みんな楽しく生活をおくれると思います。

このように、親切にしてあげることによって、悲しい思いをする人は、減ると思います。ということは、学校にこれない人も、これるようになってほしいです。なので、僕は、どんな人にも、どんな場面でも、親切にしてあげられる人になりたいです。

「これから平和な福島に」

福島市立福島第四中学校

佐藤 太暉

ぼくは、この作文コンクールを通して「福島市民憲章」を初めて知りました。初めはとても難しく、堅苦しく感じました。「憲章」の意味を調べてみました。辞書には、「重要な意味」「定めてあるおきて」と書いてありました。そして、市民憲章を読みました。

内容を読んでもみると、とても分かりやすく、学校でも地域でも言われていることだと思いました。幼い頃から言われ続けている事だから、ぼくの心にまっすぐに入ってきたのだと思います。

ぼくはこの憲章の中で「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」に心ひかれました。

ぼくが産まれた時、当時九十二才のひいおばあちゃんがいました。ひいおばあちゃんは明治生まれで、厳しい中に優しさを持

つ、気丈な人だったそうです。ひいおばあちゃんは、戦争で苦しく悲しい経験をたくさんしたそうです。ぼくのお母さんはひいおばあちゃんから当時の話をよく聞かされたそうです。ひいおじいちゃんに赤紙が届いた日のこと。当時六才だったぼくのおじいちゃんを連れて、自分の実家がある山形へ疎開した時のこと。終戦の日のこと。ひいおじいちゃんが戦争から戻った日のこと。最後に必ず話をしたこと。「これからの人は平和を守っていく義務がある。安全でみんなが笑顔でいられる福島を作らなければいけないよ」と。

今年は終戦七十年の節目の年です。テレビでも戦争についての番組がたくさん放送されています。ぼくはテレビを見て、平和の尊さを改めて感じました。

あたり前のように過ごしていた毎日は、過去の悲しい戦争があつて、今があるのだと気付いたのです。

ぼくは、何の不自由もなく暮らしています。暑ければクーラーをかけ、おなか为空けば、あたたかくておいしいごはんをお腹いっぱい食べることができます。水道の蛇

口をひねれば、いつもおいしい水が出てきます。

家族が団らんできる、あたたかい家があります。この便利で豊かな生活は、地域の人達に見守られ、支えてもらいながら生活が成り立っていることに気が付きました。ぼくが通学をする時「おはよう！」「気をつけてね」と声をかけてくれる人がいます。何気なく過ごしてた事が、とてもうれしく感じ始めました。「そうだぼくが今できることから始めよう」ぼく達の美しい福島を次の世代へ引き継げるように、ひいおばあちゃんが残してくれた伝言を大切に考え、行動し安全で健康なまちをつくりたいと思いました。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第四中学校

菖蒲 幸伸

福島市民憲章は自然や教育や子ども、おとしよりを大事にしようということが書いてありますが意識している人は少ないんじゃないかと思います。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」とありますがその土地の文化などは、わらじ祭のように有名なものは続いていくと思いますが、あまり知られていない、その文化を伝えていく人もいない、そうなるという文化はどんどんなくなっていく、いままでも文化を伝えてきた人たちからすれば希望もなにもないと思います。

「きまりを守り力をあわせ楽しく働けるまちをつくりましょう」や「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」の場合たとえ百人いる内で九十九人がきまりを守ってもだれか一人でもきま

りを守らずにいると、

「あ、だれか一人あんなことしている、ならこんなに人数がいるんだから自分がしているもばれやしない。」

などの感情ができて自分一人ならと思う人がたくさんできて、其の内百人中半分以上がそう思うようになるかもしれないし、そうは思っていない人にとってはただの迷惑になってしまい、楽しく働く気持ちにはならなく、逆にイライラしてしまい、子どもやおとしよりには生活がしづらくなり「親切で愛情あふれるまちにしよう」も「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」も達成できなく、きまりがないのといっしょになってしまいます。

だからそうなる前に、福島市民憲章を大勢の人に知ってもらうことが大事だと思います。祭の日などは屋台も出て食べ物のゴミをポイ捨てる人も出てくると思います。これでは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」は達成できない。しかし逆にこういう日には人も大勢集まると思います。大勢の人が集まるイベントかなにかで人目につく場所にはったり、博物館

や図書館など勉強しにくる人が多い所にもはっておくともっと福島市民憲章をいろいろな人に知ってもらえるんじゃないかと思っています。

福島市民憲章は一人一人が、自分一人だけならこんな大勢いる内ではばれやしないと思う気持ちを捨てて、本気で福島市をどこにも負けないすばらしい市にしようと思う気持ち、それを考えだけで終わらせずに、実行することが大事だと思います。

「市民と憲章の関わり」

福島市立福島第四中学校

岩 城 裕 亮

ぼくは、市内に住む中学一年生です。普通に毎日を過ごしていますが、よく市内の学校や建物の中である物を見かけます。それは、住んでいる福島市の市民憲章の紙や看板です。よく、コマースナルなどで福島市からのお知らせを放送するときに流れる市民歌がひんぱんに聞くぐらい憲章もひんぱんに見ます。ぼくは、あまり憲章に興味を持っていませんでしたが、中学一年生ぐらいになると意味もだんだん分かるようになってきました。そこで、市民憲章と福島市民との関わりについて自分の見解を書いていこうと思います。

まず、一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」からです。これは、福島市の自然を物語っていると思います。福島市の空は、春や夏になると青空がとてもきれいで、冬になると雪を降ら

せる雲が空をおおったりして色々な顔を見せます。水は、福島市内を流れている阿武隈川や荒川、松川、摺上川といった多くの水源があります。川では、釣りをする人や河川じきで遊ぶ人がいますが川の近くには工場もあるため、市内の川は貴重な水源として使用されています。みどりは、福島市のシンボルである信夫山や毎年春に桜や色々な花を咲かせる花見山、更に、春の雪解けのときに現れる雪うさぎが特徴的な吾妻山など山に囲まれた地形なので自然が多いのです。自然という言葉は、特産の果物にもつながります。この福島ので育った果物はまさにその自然の恵みを受けているわけですから、ハズレはありません。このように市民は、毎日この福島市の自然にふれているのです。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょう。」です。福島市では全国と同じく今学期から土曜授業をするようにしましたが、それは、良いと思います。子ども達の学力の向上を目指して授業日数を増やすということは、将来、社会へ出ていくときの事を考えると、とて

もいいことだと思います。学力を身に付けて、福島市のために活やくしてほしいという願いが込められていて、素晴らしいと思いました。あと、最近、放射能の授業も取り入れていることもすごく放射能の仕組みや実態、性質について学べるということは、とても勉強になることだと思います。

最後は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」についてです。最近、市内の公共施設や駅などでのバリアフリーの事業化がどんどん進められています。手すりなどをつけて歩きやすいようにしたりしているので色々な工夫がされていてすごく感心しました。

自分の見解で見つけた市民と憲章との関わりは、市民の生活や文化を通してできたものだから、憲章を大切にしたいと思いました。

「福島市民憲章」

福島市立福島第四中学校

菅 野 鈴美麗

福島市民憲章は、快適で明るく住みよい町づくりを進めるためにつくられました。私は福島市民憲章のうち二つの憲章について考えてみました。

一つ目は、空も水もきれいな町をつくりましょう。という憲章です。今の状態だとこの憲章は守れていないと思います。

まず、今はハイブリッドカーや色々な電気自動車売られています。ハイブリッドカーは、二酸化炭素を空気に出さないため、環境にやさしい車です。ですが高い値段で売られているため、まだガソリンや軽油の車を運転している人が多いです。そのため、多くの二酸化炭素が排出されています。さらにクーラーや暖房、車のエンジンのかけっぱなしによって地球温暖化が進んでいます。そのため、今は空気が悪い状態にあります。一生懸命がんばってエコ

をしている人もいますが、今の状態も知らずに空気中に二酸化炭素を多く出している人もいます。私はなるべくクーラーをひかえめにし、植物を育てています。そのような努力をして地球温暖化が進まないようにしていきたいです。それから、たまに、池や川、湖、海などにゴミを捨てていく人を見かけます。たばこのすいがらやゴミはきちんとゴミ箱に捨てるようになると思います。

二つ目の憲章は、子どもからお年寄りまで安全で健康な町をつくりましょう。という憲章です。福島の人々は、安全で健康に暮らしていると私は思います。

私は以前、大都会に行きました。そこでは信号無視をする歩行者が多くいます。車が多く通る所でも平気で渡っていきます。もちろん車にぶつかりそうな人を何人も見つけました。ですが福島では、信号無視をする人はほとんどいません。ちゃんと赤信号だと分かれば止まります。だから運転手も安心して車を運転できます。さらに、福島では、後ろで通れなくて困っている人に気づき、よけてくれますが、大都会では、

気づきません。ですので、後ろでいつまでも通れなくて困っている自転車の人がいました。とてもかわいそうだと思います。私もすぐ後ろをむきどけてあげるくらいのことはいつもしています。いつも周りに気を配っています。そして、福島だけではありませんが、野菜をしっかり食べます。さらに、進んで運動している人を多く見かけます。なので、あまり太っている人はいないと思います。

このように、福島は、きまりを守ったり、親切な人が多いですが、改善しなければいけないこともたくさんあるわけです。その改善しなければならぬことをきちんと理解して、よりよい福島をつくっていかたいと思います。そして分かっていてのであればぜひ行動していけたらいいと思います。

「これからの福島」

福島市立福島第四中学校

星 直 希

「ゴゴゴゴゴ…」

二〇一一年三月十一日、東北、関東、中部の広範囲に影響をおよぼした東日本大震災がおこり、さらに福島は第一原子力発電所の爆発事故により、放射能に汚染されてしまいました。食べ物も不十分で外にも出れないという不安と恐怖の生活をしていました。僕は当時小学二年生で、あまり状況が分からなかったのですが、恐怖はすごい感じました。テレビをつけても全てニュース、外も行けないと楽しい事は一つもなく、行動が制限されている生活はいつまで続くだろうとずっと思っていました。

四月の上旬にやっと学校に行けるようになり、普段の生活に一步步近づけました。自分は何もやっていないのに普通に帰ってきてるということは、支援をしてくれたり、復旧作業をしてくれた人がたくさんいると

いうこと、つまりたくさんの方が力を貸して協力してくれたということです。震災後福島は放射能がたくさんある場所として注目されました。僕は放射能ではなくて、この福島を協力・優しさがたくさんある場所として注目されるようにしたいです。そうするためには支援活動やボランティア、募金などに積極的に参加したり、「誰かが困っているときは助ける」という事を性別、年齢関係なく意識していくとこの福島、いや世界は誰もが安心、喜んで過ごせる世の中になると思います。これを世界で同時にやるのは難しいと思うので、まずは福島市から世界中に発信していこうと僕は思います。

福島市民憲章は五つあり、どれも大切なものばかりです。その中から特に僕は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」に力を入れてこれからの福島をつくりたいと思います。

たとえ小さな発信元だとしてもその運動を認め、自分達も実施しようという周りの人々の思いがあれば、福島は周りから認められ、良い意味での注目をあびると、僕は

信じています。

僕は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」に力をいれたいと思います。他の四つの市民憲章も大事なことで平等にしていきたいと思っています。ごみやCO₂をなるべく出さず、空気や水の汚染を防ぐ、歩道を広くし、子どもからおとしよりまで安全で安心に歩く、移動できるまちをつくる、福島の文化を伝統を引き継ぎ新たな世代へとバトンをつなぐ、などいろいろな方法、見方で福島市民憲章を守り、そしてつなぐ。それが僕達、福島市民がやるべきの大きな一つだと思います。

僕はこの福島が大好きです。どんな姿、状況になっても大好きです。大好きだからこそ、きまりを守り、積極的に活動するなどをして、福島をもっともっと良くして居心地良い場所にしたいです。

「私達にできること」

福島市立福島第四中学校

小熊 桃 歌

私は、福島市民憲章というものをこの課題作文で初めて知りました。福島市民憲章は、昭和四十八年に制定されたもので、福島市民が、平和で、さらに住みよく希望にみちたまちをつくるために、作られたものだとなりました。特に、すばらしいなど、思った憲章は、「教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくりましょう。」です。私の出身の小学校では、「地域の名人に学ぼう」という行事があり、地域の色々な名人に、一年生から六年生までの班を作り、その班で名人に伝統文化などを学ぶ行事がありました。今では、核家族が増え、お年寄りから伝統文化を教えてもらう機会が減っています。そんな中で、地域の方々に、色々な事を学ぶことは、とても良い経験になりました。

福島は、今でも東日本大震災後、放射能

に汚染されたまちという悪いイメージが今でもあるような気がします。元々福島は、みどりにあふれ、人もあたたかく、住みやすいまちです。それを、他県に住む方々にも知ってもらうために、これからの福島を担っていく私達、若い力で、福島を元気でみどり豊かな所、ぜひ行ってみたい所にするために、各中学校で、通学路のクリーン作業や、花いっぱい運動として、花を植える運動などをひろげ、若者を中心として福島を盛りあげるような事ができたらいいなあと 생각합니다。一人では、小さな力かもしれないけど、みんな協力しあえば、とてもない大きな力となって、福島のイメージアップにもなるのじゃないかなと、思います。

最近、人とのつながりがうすくなって、ネット上のいじめなどにより、学校に登校できなくなったりする事が多くあるようですが、協力し合うことにより、人とのつながりが大切だと感じる事ができるようになれば、ありあまったエネルギーをいい方向に向けられるように思います。人は、一人では生きていけません。人と協力しあうす

ばらしさ、自分達が、生まれ育った福島が他県の方々にも行ってみたいなど、思われるような町になれば、とてもすばらしい事だと思います。

「親切心や愛情から生まれる」

福島市立岳陽中学校

木 須 五 月

郷土福島の限らない発展のためには、「親切で愛情あふれる町をつくる」ことからまちづくりを進めていくのが良いと思います。

なぜならば、親切で愛情あふれる町は、あいさつをしつかり行う事、ごみが落ちていたら拾う事、お年よりや障害者さんなどに、ゆずり合ったり、助け合ったりする事が必要だと思います。それは全て、愛情や親切心から生まれる事だと思うからです。

あいさつをしつかり行う、ごみが落ちていたら拾う、ということはモラルアップ委員会の「岳陽中学生の登下校マナーアップ宣言」というものにもついています。部活でも、あいさつは笑顔に明るくする、と教えられました。バスや電車に乗るとお年よりや障害者、妊婦さんへの「優先席」もあります。しかし、若い私達のような人がすわ

っているのを目にすると、申し訳ない気持ちになります。私が紹介した三つの事は、やろうと思ってもなかなか出来ないと思います。はずかしいやめんどくさいという気持ち先に来てしまい行動できないのです。以前、私が学校に行く時、自然と落ちているごみが目に入りました。そのごみはベタベタしていて少し異臭も放っていたので、私は思わず顔をしかめ、そのまま学校へ行こうと思いました。しかし、「本当に良いの？」という声が心のどこからか聞こえ、「悪い事をしてしまったな。」と思いました。ごみが落ちていた場所からあまり離れていなかったたので、引き返してごみ捨て場に捨てました。そうすると何だかすがすがしい気持ちになり、ごみが落ちていたら拾うようにしようと思いました。あいさつも近所の方などに言って返されると、とてもうれしくなります。

しかし、町へ出て歩くと助け合っている人はあまり見かけません。足が悪い人のためのスロープ、目が不自由な人のための点字ブロックなどがありますが、私達が使っているので本来使うべき人が使えないので

はないかと思っています。例えば、点字ブロックの上に自転車置いていたりスロープの上で駆けまわっている子供達を見かけたりします。また、ぶつかってもあやまらない大人やあいさつをしても返さない大人もいます。その姿を見るとこんな大人にはなりたくないと思うのです。

私はこれからも、あいさつやごみ拾いを行っていき、お年よりや障害者さんなどに席をゆずったりして不自由のないようにしたいと思います。はずかしいやめんどくさいという思いに負けないようにしたいです。また、他の市民憲章についても、やっていきたい事があります。今回の事とつながっている内容のものもあるので、率先して行い郷土福島の限らない発展のためにつくっていききたいと思います。

「市民憲章について」

福島市立岳陽中学校

高根 百花

私は今まで「福島市民憲章」というものがあるということは知っていましたが、この作文を書く上で内容を初めて知りました。ですが特に関心はありませんでした。

そこで、福島市民としてしっかりと内容を把握し、実行するべきだと思いました。

まずは、五つの憲章に目を通しました。すると、すべて私が実行できるということに気付きました。そして特に実行しやすい憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。この憲章は、家族や友達などの身近な人達に優しく接し、共に協力し合い、公共の場では他人の事を考え、行動すれば良いと思いました。これは、今すぐにでも実行しようと思いました。そして、もう一つの憲章は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。この憲章は、市民一人ひとりが交通ルールを意識し、守ることと、常に自分の体調管理を怠らないことが大事だと思いました。でも、この内容は自分一人ではこなせません。だから、一人ひとりが意識しなければならぬと思います。私も頑張って、福島市が安全で健康な市になるように、少しでも貢献したいです。

そして、福島市で最も大切だと思う憲章は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」だと思います。福島に流れる荒川は、水質が良く、とてもきれいな水の川です。とても大事にしなければならぬと思います。大事にするといっても、どうすれば良いか最初は分かりませんでした。そこで、母に聞いてみると、

「米のとぎ汁を流さず、庭の植物にあげれば、川を汚さずに済むよ。」と、言われました。確かに川も汚れずに済むと思いました。それに、植物にやる水が米のとぎ汁に変わるのでその分使う水が減り、水道使用量も少なくなると思いました。

この様に私が実行できることが少しずつでも沢山あります。

少しでも福島市が住みやすいまちになれば良いと思います。

「今を未来につなげて」

福島市立岳陽中学校

渡 辺 あきは

福島市は、山に囲まれた自然にあふれる所で、東京などビルが立ち並ぶ都会にはない魅力があります。観光地には花見山や吾妻山。春になれば雪でできた種まきうさぎも現れます。そしてたくさんのお果物。桃に林檎に梨…。日本で有名な品種もあります。温泉もあるし、祭りも多いです。

これだけを聞けば、良い所だと思うでしょう。しかし道にゴミが落ちてたり水路に油のようなものが混ざっていたりしたのを見た事もあります。タバコのポイ捨てはまだ火が消えてないものがありとても危険に感じるものしばしば。そしてこれらに気づいただけかが、ゴミ箱へ捨てに行くわけでもありません。私もタバコの火などは消してもゴミはそのまま、見逃してききました。

もちろん一番悪いのは、市を汚すような

ことをした人自身ですが、それを見逃し続け何もせず何も言わなかった私たちにも福島市民として非が少しでもあったのかもしれない。

でも今の福島市の自然や良い所を大切にしたい。見直せば、きっともつとすてきな市にしていけると、思います。

けれど一部の人がやっても新たな福島市の一歩になるには難しいです。だからこそ、市民が協力しなくてはいい。だからこそ、勇気を出してみんなに伝えなくてはいい。そのだからは、私だつてなれるし、あなただつてなれる。だれだつてなれるんだから、だれかになった人が、何人もいれば身近な人からどんどん広めてくことができると、思います。福島市民はその勇気があると、思います。そして、それに応える優しい心があると、思います。私は信じています。

私たちには、市を良くするために個人で今すぐにだれでもできることもあります。リサイクルや分別です。そのちょっとした手間をかけるだけで、未来は少しずつ明るくなると、思います。そして福島市のために

何かすることでも市をもっと好きになれると思います。

今まで考えていなかったことも見直してみると自分自身にも非があり、身近なところにも隠れていることに気がつきます。

私は、いままで正直に言うとりサイクルもあまりしてなかったし、紙を無駄使していたり、かえのあるものを使わずゴミを減らそうとしていなかったりしていました。が、今では、学校などでやってるリサイクルにも参加し、ボールペンなどをかえのするものにしてゴミを減らそうと、心がけています。

気持ちや行動は、善悪にかかわらず伝染していくと思うので、私はこれからも続けていきたいです。自分のためにも未来のためにもみんなの良い行動が伝染してほしいです。

そして、市民の心が一つになったとき新たな福島市の一歩になると思うし、私は福島市をだれもが心地よいと感じる市にしたいです。

「福島ってあたたかい！」

福島市立岳陽中学校

國井 朗光

僕は、福島市は良いところや特徴が他のところと比べて、多いと思います。これから、その例を三つあげるのので、普段何気なく住んでいる、「福の島、福島」の良いところを伝えたいと思います。

一つ目は、果物が豊富で、自然がいっぱいということ。福島といったら「もも」ですが、ももだけでなく、りんごやなし、ぶどうなど、いろいろな種類の果物を育てています。また、量だけではなく、色や形、そして甘さも良く、とてもおいしいです。僕は、この福島を、果物の王国ではなく、果物の宝庫だと思います。

二つ目は、果物だけでなく、花もきれいで多い、花の色あふれる福島ということ。福島市一番の花の名所は花見山ですが、その他にも、信夫山、弁天山、フルーツラインの近くにはえているたくさんのも

もの木など、花のじゅうたんといっても良いほど、福島市は花であふれていてきれいです。僕がおすすめるところは、あづま運動公園の近くにある、四季の里というところ。それでは、少し、四季の里についての説明をします。四季の里は、平成七年にオープンし、今も、市民に親しみのある公園です。四季の里の中には、工芸館といて、ガラス製品をつくったり、こけしの絵付け体験などができ、おもしろい品がつくれます。また、市場などの交流ができる施設や、レストラン、子供が遊べる施設もあります。僕が、四季の里をおすすめる理由は、緑が多く、花がたくさんあつてミニ福島のように、市民のいいこの場だからです。ぜひ、みなさんも一度行ってみてください。

三つ目は、人のやさしさです。福島は、地域の人とのむすびつきが強く、近所の人たちと仲がいいことが、果物や花よりも一番の特徴だと思っています。例えば、僕の住んでいる地区では、バレーボール大会をしたり、バザーをしたりなど、地域との関わりを深めようという取り組みを行っています。

ます。また、朝登校する時におはようございますとあいさつすると、いつてらっしゃいと家族のように言ってくれる近所の人たちが多いことが、福島市がとてもやさしいことを証明しています。

僕は、福島市がそのまま変わらず、やさしく、花も実もある福島がいちばんだと思います。

「この町の素敵な文化と教育」

福島市立岳陽中学校

相 良 凜

私は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」という一つの市民憲章がつけられ、それを行っているのまちは、素敵だなと感じました。

しかし、少し改善してほしいかなという点もあります。

その理由の一つが、中学生向けへのしせつが無い事です。

ほんとうに無いのか、けんさくしてみると有料であつたりして気軽に通える場所ではないのがほとんどでした。

こむこむのワークショップを見てみると、「小学〇年〜中学〇年」などと、小学生といっしょになつてしまい、やってみたかったことも気まずさはずかしさであきらめることが多かったです。

なので、こむこむのように気軽に通え、中学生向けのようなコーナーがあるしせつ

やコーナーを一つだけでもつくってほしいです。

私は、中学生だけで入るのはどこまでなのか正直分からず、MAXのアオウゼに行くとしても少し不安になったりします。みんなで勉強したり、遊べる場ができるとすると、そのような心配もなく通うことができるのではないのかと私は考えました。

不満な点だけではなく、こむこむで体験したり見るなどしたことは、とても勉強になり心が豊かになりました。

まず、日本の伝統・文化を体験することのできた「茶道」と「かんながけ」です。

茶道では、作法やマナー・茶を通して日本の心と文化を学ぶことができました。

かんながけでは、想像以上に難しく、大変なんだなと実感することができました。

この二つにより、「文化」について学ぶことができました。

次に、貴重な体験ができ、詳しく学ぶことのできた、天文学です。

私は、このワークショップに参加して、土星や火星などの天体を見たことです。どちらもきれいで美しく、土星がとても好

きになりました。また、星座などを見て、星について詳しく学ぶことができました。

この他にもたくさんのかかくに参加しました。

このように、たくさん文化にふれることができ、教育に力を入れてくれている、福島市は素敵だと思います。

私自身、もつと文化や教育にふれていき、私の次の世代などに伝えていきたいと思えます。

また、ふれることによつて、物事を深く考えたりする、豊かな広い心を持ち、それを実行に移す、実行力も身につけていきたいと思います、将来の役に立ていき、私もいつかみんなに文化や教育を教えていけるような立場になれたらいいなと思いました。

「いい所、福島市」

福島市立岳陽中学校

川 治 優 仁

僕は、福島市はいい所だと思っています。なぜなら、福島市は、東京みたいに都会ではないけれど、緑に囲まれている街だからです。日本といえば米という人がいます。それは、福島市にふさわしいと思います。福島市は店などがすごく多いというわけではないけれど、田畑や果樹園などが多いです。果物といったら、やはり、福島市の桃だと思っています。小学校でもくわしく学習しました。

僕は、福島市は、優しい市だと思います。ニュースを見ても、福島は、犯罪などが少ないと思います。なぜなら、ニュースを見ても、福島で大きな事件があったなんて聞いたことがないからです。だから、福島市は、すごく優しい市だと思います。以前、店で万引きした人を見かけたときはありましたが、殺人や強盗など、人に迷惑がかか

るほどのものは見たことはありません。

もう一つ、僕が福島市のいい所だと思う場所があります。それは、いろいろなスポーツ大会などに使われている、国体記念体育館です。国体記念体育館は、フットボールやバレーボール、バスケットボール、などいろいろなスポーツに使われています。それだけではなく、国体記念体育館は大きくて広くて、二階にはジムもあり、そこで体をきたえる人もけっこういるそうです。それに、国体記念体育館には、二つの体育館があります。一つはメインアリーナといって大会の決勝戦などが行われて、けっこうすべらない体育館です。そして、もう一つ、サブアリーナという体育館があります。メインアリーナよりサブアリーナのほうが狭く、観客席がないので、立って見ることにあります。メインアリーナは、広く、観客が座ることができる体育館です。また、国体記念体育館には、プロの人たちが試合に来ることがあり、そのプロたちを見ることもできます。以前、ファイヤーボonzやサンフラワーズという、女子のプロ選手の試合を見に行きました。その人のプレー

は、すごく参考になって、自分のプレーにもいけるので、近くに、こんな場所があるってすごく楽しいです。そして、試合が終わると最後に、プロの選手のサインをもらえるので、最後は、すごい行列になります。僕は、すごく並んで、サインをもらったのですが、サインがわからなくなるくらいぐちゃぐちゃだったので、よくわかりません。ですが、福島市でゆいっつ、プロなどいろいろな大会などが行われているのは、国体記念体育館しかないと思います。これらが、僕がいいと思っていますところです。

「みんなが安全で健康に

過ごせるまち」

福島市立岳陽中学校

黒澤 晃 佑

僕は、子どもからお年寄りまで事故や病気の少ない、健康で安全なまちをつくりたいです。

安全に過ごすためには、交通ルールを守ること、車の場合は、赤信号は止まり、黄色は注意して止まる。青信号は進む。スピード違反はしない、無理な追い越しはしない。

運転手には、横断歩道をゆっくり渡っている、老人や小さな子どもにも気を配り、親切な運転をしてほしいです。

自転車の場合、車道側通行を守る。自転車運転をしながら、スマホいじりは絶対にやってはいけない。スピードを出しすぎて、急に止まれなくなり、特にお年寄り等に激突してしまい、大きな事故につながる。ここは最も注意してもらいたい。

歩行者についてだが、必ず歩道側を歩くことと、安全のため5m先を見て歩く等のルールを心がけてほしいです。

健康のためには、早ね早起き、バランスよく食べる等をする。

福島市が安全で健康で、豊かなまちになればいいと思います。

「きれいなみどりのまち」

福島市立渡利中学校

河野 美 怜

この福島市は空、水、自然がきれいな、
過ごしやすい町です。ですが、公園などき
れいに花が植えてあるところに、弁当の食
べ終わったものや、お菓子の袋が捨てられ
ているのを見つけたことがあります。そ
こは地区のおじいさんが花を植えて、大切
に手入れをしています。私はとても悲しい
気持ちになりました。公園などは、みんな
が使う所です。みんなが気持ちよく遊べる
所でないといけないと思います。公園だけ
ではありません。道路でも同じです。タバ
コの吸いがらや、あきカンなども落ちてい
ます。捨てる人がいるからです。どうして
捨てるのでしょうか。ゴミを持っているの
がいやだ。どうせだれも見えていないから
いや。ゴミ箱まで捨てに行くのがめんど
うだ。そんなふうに思っているから、捨て
てしまうのでしょうか。自分勝手な考えだと

思います。落ちているゴミを見て、嫌な思
いをする人のほうが多いと思います。

また地上から出たゴミは、風や雨などで、
いろいろな所に飛ばされたり、流されたり
します。近くにある阿武隈川は、雨が降っ
た後には、たくさんゴミが流れていくの
を見たことがあります。そのゴミは、川か
ら海に続いています。海に遊びに行つて、
ゴミだらけだったからどう思うだろうか。
楽しい気分にはならないと思います。

私達が食べたりするものは、紙に包まれ
ていたり、袋に入っていたり、飲み物は容
器に入っているの、ゴミがたくさん出
てしまします。捨てられたゴミを見ると、資
源物として出せるものがほとんどのように
見えました。

私は外出したときに出了たゴミは、分別で
きないゴミ箱のときは、家に持ち帰って捨
てるようにしています。きちんと出せば再
利用できるからです。ただのゴミでなくな
ると思います。

ゴミは、道路などではなくて、きちんと
ゴミ箱に捨ててほしいと思います。そして
みんながもっと気持ちよく住める所になる

といいと思います。

「住みよいまちにするために」

福島市立渡利中学校

横山佳観

私は福島市民憲章というものを初めて知った。その中の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」ということについて自分の経験から思い起こしてみた。

それは、二〇一四年二月の豪雪災害のことである。小学五年生だった私は降り積もる雪を何度もかいたが夕方になっても降り続き父の帰宅を雪をかきながら待っていた。すると、父の車が自宅まであと少しという所で立ち往生してしまった。私達が除雪するのに苦戦していると、近所の人が一人二人と出てきて車を動かすのを手伝ってくれた。その後も動けなくなった車が家の周りでみられた。私も父や近所の人達と一緒に車の周りの雪をかき、車を押して動かすのを手伝った。

普段はあいさつ程度で、あまり交流のない人と一緒にこの活動をしたことで近所の

人達との一体感や団結を感じることができた。いつも周りのことへの気配りを心がけながら生活していくことで、親切心や地域に対する愛情を持つことができると思っただ。そして、これからもさらに住みよいまちにしていきたいに地域の人達との交流を大事にしていきたいと思う。

「優しい心をもつ町を

つくりましょう」

福島市立渡利中学校

渡 邊 遥 香

最近、あいさつをあまりしてくれない人がいます。

私からあいさつをしてもそのまま、す通りして行ってしまう。

このことには、関係ありませんがニュースでもたびたびゆうかい事件や殺人事件などがあります。

世の中、何もかもぶっそうで夜に一人で出歩けば、だれかにねらわれたり変な人にあとをつけられたりします。

万引き事件も悪い心がすることです。

人間は、悪い心も良い心も両方合わせて人間です。

悪い心だけの人間はいない。

良い心だけの人間はいない。

川にごみをすてる人は自分だけごみをすてたってだれにもめいわくはかからない。

そう思っているから平気でごみをすてて行くんです。

これが犯罪だと、どうなるでしょう。

自分だけならいいと思って犯罪に手を出したら、そのうちに犯罪者の国になってしまいます。

あいさつをしない人が増えたら、そのうち今度は、あいさつをしない国になってしまいます。

なので、もつと優しさをもって人と接したらどうでしょう。

「僕らの未来」

福島市立渡利中学校

鈴木 太陽

「〇・五から一・〇マイクロシーベルトの放射線量があるので、一時間以内にして下さい。」

先日、父と小鳥の森にザリガニ釣りに行った時に、係員に言われた。

最近はあまり気にしていなかった放射線量の事を言われ、ハッとしました。

僕は福島市に住んでいる。近くにはあぶくま川が流れ、遠くには吾妻山が見える大好きな街だ。

しかし、震災後には放射線量の問題で一躍有名になり、全国放送のニュースにも何度もあり上げられた。

そんな事も忘れかけていたこの頃だったので、小鳥の森の係員の話には驚きをかくせなかった。

ここ数年は、大人達が線量を下げる為の作業をしているが、本当に元の街に戻るの

だろうか。ほぼ毎日僕達の周りを放射能が彷徨っている。そんな僕達の渡利の未来が心配だ。

「僕達の出来る事は何だろう。」

まだその答えは見つからないが、福島 of 明るい未来のために力になりたいと思う。

「福島市民の優しい心」

福島市立渡利中学校

佐藤 樹莉杏

「福島市民憲章」とは、平和でさらに住みよく、希望に満ちたまちをつくるために定められた市民憲章の事です。ですが、私は今まで、市民憲章なんてものがある事を知りませんでしたし、地域の方からも、憲章についての話は聞いた事がありませんでした。なのでこれを機に、私達市民はこの憲章を守れているのだろうか、と改めて考えてみました。そうして思い返してみると、福島の市民は特別に意識をしなくても、この憲章が守れているのではないかな、と思います。

生活のいたるところで自然に守れていると私が特に感じるのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という憲章です。

例えば、朝、学校に行く途中、地域の方が

「いつてらっしゃい。」

と言ってくれた時です。全く知らない他人どうしなのに、登校、下校する学生を見ると、笑顔であいさつをしてくれます。ですから私も、感謝の気持ちを込めて、

「いつてきます。」

と返します。そんな朝のやり取りから、福島の市民は暖かいな、と感じるのです。

また、気温三十五度を超える夏の猛暑日の事です。学校からの下校の途中で、日陰に座って休んでいると、

「大丈夫ですか？どうしたんですか？」

と、全く面識のない一人の女性が、心配そうに声をかけてくれた事がありました。私はこの時にも、福島市民の優しさに、驚きを感じました。

このような日常の中での様々な体験から、私は、福島市民は市民憲章を意識せずとも自然に守れているのではないかと思えるのです。そして私は、今まで健やかに成長してこれた事や、毎日豊かな気持ちで暮らせる事が、周りの人々の優しさや暖かさのおかげなのかな、と思い、感謝したい気持ちになりました。なので、私が感じた福

島市民の優しい心と、人や自然に対する愛情が、何世代にも渡って受け継がれるように、そして、これからもずっと、福島市民憲章が守られるように、私自身が、子供からお年寄りまで、さらには自然にまで、いつも親切に愛情を持って接する事を心がけていこうと思いました。

「福島市民憲章」

福島市立蓬萊中学校

三 浦 美 月

私は、福島市民憲章の中で一番気になった言葉は「子供からお年よりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。

私には曾祖母がいます。曾祖母は足が悪いのでつえをついて歩いています。そんな曾祖母を見ていて横断歩道や少しの段差がすごく危険だと感じました。なので私はこの五つの憲章の中から「子供やお年よりまで安全で健康なまちをつくりましょう」を選びました。

横断歩道では青から赤に変わる時間が本来に小さな子供からお年よりまで安全に渡りきることが出来るのかと考えました。私たちにとってはなんでもないことでも小さな子供やお年よりにとっては、とても大変なことではないかと思いました。なので、青の時間を長くしたりすればより安全に横断歩道を渡りきることが出来るのではない

かと思っています。

もうひとつは、道路の少しの段差です。この少しの段差でもお年よりにとってはとても危険で転倒してしまうときもあると思います。このようなことを防ぐためにも段差をなくしていけば、子供からお年よりまで安全に過ごすことが出来るのではないかと思います。

安全に過ごすことが出来たら外に出ることが増えて地域の人たちともふれ合う機会が増えてお年よりも健康に明るく生活が送れるようになると思います。また、小さな子供たちも今よりもっと楽しく安全に外で遊ぶことが出来ると思います。

福島にはたくさんのお年よりが暮らしています。そのため、私たち一人一人が思いやりをもちみんな協力していけば今よりももっと暮らしやすい町になると思います。

「福島市民憲章」は五つあります。どれもとても大切なことだと思います。福島市民が快適で明るく住みやすい町にするために必要なものだと思うので、これからも「福島市民憲章」のきまりを守っていこうと思います。

います。

「ゴミと行動」

福島市立蓬萊中学校

佐藤 亜虹

わたしは、福島市民憲章というものを、初めて知りました。読んでみて、目標のよいうなものなんだなと思いました。その中の一つの、

「一 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

について考えました。わたしは、車に乗って出かけている時や、自分で道を歩いている時などに、道のはしの方に落ちているゴミを見つけます。ゴミ箱の周りではなく、草のところに、かくすように落ちていたりします。少し中身の入ったペットボトルやカンも落ちています。それを見て、汚いなあと思います。でも、だれも拾わないし、わたしも、だれが口をつけたか分からないゴミを手でさわるのは、イヤだなあと思います。自分の心の中では、

「だれかこのゴミを拾ってください。」

と、さけんでいます。でも、わたしもたまにゴミを拾っています。その時は、とてもいいことをした気分になっています。

一方、わたしは、ゴミを捨てないようにしています。というより、その辺に、ゴミを捨てるといふことは、普通ありえないことだと思います。福島市、そして地球の人のマナーとして常識です。なので、テレビなどでゴミを捨てる人を見ると、なんでもんなことするのかなあと思います。それも、若い人が多いので、小さいころから教えたし、するのが大事だと思います。

福島市民憲章の

「一 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

を実行するには、一人一人の行動が大事だと思います。一人一人が意識して、ゴミはゴミ箱に捨てるという基本のことから見直してみるといいと思います。自分以外の人が間違った行動をしたら、進んで注意することも必要だと思います。福島市民憲章は、人と人の助け合いで、できていると思います。

「『福島市民憲章』について」

福島市立蓬萊中学校

高橋 一咲

僕は、市民憲章の作文を書こうと思った時に、初めて市民憲章というものがあるということを知りました。

憲章の内容を見た時に僕が思ったことは、僕の住む蓬萊町の町づくりの取り組みによく似ているということです。

蓬萊町では、各町内会で公園の清掃や、資源回収を行っていて、きれいな町づくりをしています。

小中学校では、あいさつ運動や、地域の人に様々なことを教えていただく行事がたくさんあり、学校の勉強では学べないことを教えていただきました。ふくしま夢事業の一つに職場体験というものがあります。様々な職場で仕事をする上でのルールや、自分の仕事に対しての考えを学ぶために、とても大事な活動だと思います。だから、来年の職場体験を今からとても楽しみにしています。

ています。

それ以外では、僕達が安全に登下校できるように、地域の人がボランティアでパトロールをしてくださっています。そのおかげで、僕は安心して学校生活を送ることができています。

また、幅広い世代間交流の行事として、明るい蓬萊を造る意見交換会をしています。この会では、蓬萊に住む全ての人が明るい町づくりのために、どうしていけばいいかを考え標語を書いてそれについて意見を交換しあいます。

こういった取り組みは、蓬萊町に限らず、福島市内の至る所で行われていると思います。それぞれの活動は、決して大きな活動ではないかもしれませんが、しかし、こういった小さな一つ一つの活動が、明るい地域、しいては明るい福島をつくっていくために必要なのではないのでしょうか。

東日本大震災以降、福島は様々な困難にぶつかってきました。今も解決できていない問題がたくさんあります。けれども、この「福島市民憲章」にかかげられていることを、僕達一人一人が心にとめていけば、

以前のような、いえ、それ以上に住み良い明るい福島になると思います。

未来へのバトンを次の世代へとつなぐことが、僕達世代に課せられた使命なのですから。

「福島市民憲章について」

福島市立蓬萊中学校

丹野 まどか

私は、福島市民憲章の事は何も知りませんが、考えてみたら、福島市のこれからどうなっていくか、大事なものなんだと気付きました。まず、空も水もきれいなみどりの町をつくりましょう。という所は、多分、環境保全の事だと思いました。そのために、空も水もきれいな所にしなくてはいけないのかなと思いました。次に、教育と文化を学び希望に輝くまちをつくりましょう。とは、今の子供がきちんとした大人になって、今の文化を受けつぐために必要なのかなと思いました。でも今の子供達と大人がしっかりしていないと、できない事になってしまうのかなと、思います。また、文化を尊ぶためにも、具体的には分からないけど、文化を良く知ること大切にする気持ちもなくてはいけなないのかと思いました。次に、親切で愛情あふれるまちをつくりまし

よう。というのは、私が一番心に残った文でした。理由は「親切」というところです。みんなが親切な気持ちを持てばいいのかと思います。一人一人が意識をして行動するのは、とても大変だと思いました。

でも、一人一人が意識し、行動すれば、とても良いまちになると思いました。また、「愛情あふれる」というところは、どういう事か、良く分かりませんが、とても大切な事なのかなと、思いました。次にきまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。というのは、まだ就職もしていないので分かりませんが、楽しくというのは、ハラスメントやいじめなどが無い事だと思います。

また、きまりを守りというのは、学校や社会でのたくさんさんのきまりごとを守ることが大切という意味かと思いました。また、力をあわせというのは、色々な人と協力しながら生活するという意味なのかと思いました。次に子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう、というのは、市民全員が事故などがなく、安全にという意味があると思います。そして、健康

にも気を付けて、丈夫な体づくりや、毎日の適度な運動も必要なのかなと思いました。

最後に、福島市民憲章は、私が通う中学校の昇降口にもかかげられていて、今までは何も思わなかったけれど、この作文を書いてみて、全員がとても大事なことなんだと実感しました。

「残そう輝く福島市」

福島市立信陵中学校

多 田 風 花

福島市民憲章を初めて知ったとき、私達には「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というものができていないと思いました。なぜなら、私がこれを知って「ゴミの散乱した近所の公園」や「タバコのすいながら落ちた道路」が真っ先に頭にかんだからです。

まず、「みどりのまち」について考えてみました。私が頭にうかんだように、ポイ捨てがある限りはどんなにたくさんの植物があっても「みどりのまち」にはならないと思います。ゴミが落ちていると不快だし、そんな自分勝手なことはやめてほしいと思います。

次に、空のきれいなまちについて考えました。例えば夏、たくさんの人がエアコンを使います。そのときの設定温度が低すぎると、エアコンの排気で大気汚染など環境

に悪影響がでます。だからその設定温度を上げるだけで、大気汚染を少しでも防げて空のきれいなまちにつながると 생각합니다。設定温度を上げれば節電にもなるそうなので一石二鳥です。私の家もたまにエアコンの温度が低すぎることがあるので気を付けたいです。

「水のきれいなまち」については、食器を洗うときに使う洗剤を使いすぎず必要最低限の量にすることや、汚れた水を川にそのまま流さないなどのことをすればよいのではないかと思います。そうすれば川の生き物たちも増え、「水もきれいなまち」になると思います。

「空も水もきれいなみどりのまち」をつくることと「地球温暖化」をとめることは、関係しているのではないかと私は考えました。地球温暖化はよく耳にする言葉だったので知っていましたが、地球にあたる影響はあまり知りませんでした。調べてみると、海面上昇や気温上昇、異常気象、自然災害、さらには野生の動植物が減るなど、たくさん影響をもたらすことを知りました。予想以上の量だったのでとても驚きま

した。

「空も水もきれいなみどりのまち」も「地球温暖化」も実現するには市民みんなの協力や努力が必要です。今、自分にできることは身近にたくさんあるし、どれも簡単なことです。私は「だれかがやってくれる」と人まかせになってしまいうので「自分から」行動できるように心がけたいです。口で言うだけでなく実行したいです。

「空も水もきれいなまちをつくる」とは、市民が住みよいまちをつくるということでもあり、のちに「地球温暖化を止めること」にも役立つと思います。だから、今から少しずつでも努力をして、未来に「輝く福島市」を残したいです。

「豊かな町へ」

福島市立信陵中学校

二 瓶 遍

世界に一つだけの福島市。どこを探しても、福島市は一つしかありません。そして、たった一つの福島市にはいろいろな施設や場所があります。僕は三つ紹介します。

一つ目は摺上川です。二年生のころ、家族で摺上川ダムに行ったとき、摺上川で遊びました。川はクリスタルのように透明にすきとおっていて、川の底まで見えていました。ゴミはどこにも落ちていなく、魚もたくさん泳いでいて、とってもきれいな川だなと思ったことを今でもよく覚えています。ただ一つだけ残念なのが、川で遊ぶ人が少ないということです。ぼくたちが行ったときも、七、八人しかいませんでした。きれいな川だから、自然を汚さない程度に楽しく遊ぶ人達が増えたらいいなと思いました。

二つ目は、あづま総合運動公園です。プ

ールや運動する施設があり、僕は何回も行っていきます。近くにはトリムの森という公園があり、森の中にたくさんのお遊具があります。夏になると木陰ができて、涼しい中で遊ぶことができ、とても楽しいです。公園の中には小さな川があり、その上をオニヤンマがとんでいるのを見ました。トリムの森は、自然がたくさんあり、とてもいい所です。けど僕は、もっと市街地の方にあればよかったなと思います。あづま総合運動公園は吾妻の近くにあり、市街地からはなれているため遠くていけない人もいると思うので、もっと市街地にあればよかったなというのがぼくの考えです。

三つ目は、こむこむです。福島駅の近くにあり、いろいろなイベントが行われます。プラネタリウムや常設展示室があり、プラネタリウムでは、こむこむの屋上から撮影した夜の福島市上空を見れます。星が空をうめつくして、まるで海のようにでした。

福島市は静かで田舎みたいです。静かです。とてもいい所ですが、一つだけあったらいいなと思うものがあります。それは、観光スポットです。いわきにはハワイアンズ、

郡山にはスペースパークなど、たくさんの方が来る施設がほかの町にはありますが、福島市にはありません。去年の夏、家族旅行で栃木県に行きました。泊まったホテルは外から見ると福島市にあるようなボロボロで古い建物でした。しかし、ホテルの中はお城のように広く、きれいでびっくりしました。泊まった部屋は十四階で、窓からはどこまでも森が広がっていて、那須ハイランドパークも見えました。夜は星空が見えて最高の景色でした。このホテルに泊まって僕の思い出は一つ増えました。このような施設が福島市にあれば、市が活性化し、にぎわうようになると思います。だけど、観光客が来るような施設がなくても、福島市がずっと平和な町でいてほしい、そして人のにぎわう豊かな町になってほしいと僕は思いました。

「よりよいまちにするために」

福島市立信陵中学校

青 木 葉琉美

私がこの町、福島市に来たのは実は産まれたときではない。正確にいうと、産まれてから約四ヵ月たった頃にここに来た。私の住んでいる笹谷地区は緑が多く、中学校にはたくさんの人がいて、とても楽しい所だ。正直、もともと住んでいた所よりも、この町なみにすっきりなじんでいるのが事実だ。

私はこの作文を書くまで、福島市民憲章について、何も知らなかった。しいていうなら、小学生の時に少しみた位で、ほとんど知らなかった。私はその憲章のなかから、一つ、自分のなかで考えてみたい事があった。それは、

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」

という、福島市民憲章のなかの一つである。

私はこの町で、いろいろな人に出会って

きた。学校の先生、クラスメイト、友だち……様々な人達に出会ってきたが、その人達は皆思いやりがあり、優しい人達だった。その人達と力を合わせて、今こうして生きているんだと思う。でも、この町はそういう人達だけではないという事が成長につれ、分かる事がある。とても小さい事かもしれないが、信号無視だ。それも小さい子供ではなく、私よりも年上な、大人だ。多分急いでいて、青信号まで待てなくてそうしている事だろう。でも、それならもっと早めに出て、ちゃんと待てばいいだろう。というのが私の意見だ。そういう小さなきまり事でも、ちゃんと守らなきゃ、大きな事故になる可能性がある。最悪死に至るケースも少なくない。

しかし、きまり事を守ろうとしないのは、正直しようがないと思う。なぜなら、それが人間だからだ。やるなといわれるとやりたくなる。それが人間だ。だからこそ、協力が要だ。自分一人だけではなく、皆で力を合わせれば、よりよい町にできると思う。

そもそも、なぜきまり事を守らなくては

いけないか、それは私が知りたい。が、おそらく私はこう思う。皆がきまり事を守らないと、事故が増え、争いも絶えず、相手も自分も傷ついてしまうから、と。つまり、皆がきまり事を守らないと、福島市民憲章の一つでも、目標が達成せず、相手も自分も苦しい思いをしなくてはいけないと、私は思う。

私はこの町を、笹谷地区を大変ほこりに思っている。だから一層、みんなで力を合わせて、よりよい町をつくっていききたいと思う。

それらの事をまとめると、笹谷地区のみんなが福島市民憲章のきまりを守っていけば、住んでいる人もほこりに思うまちを實現できると思う。その為にも、その人達がしっかりと協力し合い、生活していけば良いと思う。

おたがいに助け合い、争うことをやめ、いつも笑顔であふれる。そんな笹谷地区に、私はしたいな、と願う。それが私の、福島市民としての願いだ。

「自分と五つの憲章」

福島市立信陵中学校

根 津 源 太

ぼくは、この五つの憲章を見て自分の生活、自分の地域がどうか比べてみた。

一つ目は、「空も水もきれいなまち」だが、ぼくの地域は緑が多いがそれを維持しているかというところでもなかった。皿を洗う時、洗剤などをたくさん使ってしまった。たりたり水を無駄に使っていた。これは、水の汚染につながるので自然環境にも悪いことだと思った。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」だが、僕は授業を嫌だと思ったり、地域のお祭りに参加するのを面倒だと思ったりすることが以前あった。勉強も文化も昔の人が作り後世へと伝え、広めてきたものなので無駄にしてはいけないと思う。だから、勉強や文化的な行事に積極的に参加しようと思う。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまち」だ。

そこで僕のいつもの行動を振り返ってみたのだが、ぼくが意識していることといえば、道行く人へのあいさつや、バスの中でできるだけ席を譲るなどまだ少したりない気がした。もっとすることを増やしてみようと思う。

四つ目は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」だ。僕は、きまりを守れているだろうか。少し急いでいる時は「止まれ」を守らないことがあるのでそこは気をつけたい。心がけているのは、ろう下を走らないようにしている。でも、まだまだ守れていない事が多いと思うので、ちゃんとしていきたいと思う。

五つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」だ。ぼくが、以前、祭の日、父と車でいろいろなところをまわっていたのだが、祭の会場の近くにやってきた時、人が多いなあと思いつつ外を見ていたら、とつぜん横断歩道がないのに通行人が道路をわたって来たのだ。その時は、冷やっとした。父は、お祭りの時はうかれしているし、さらに花火があるから空に注意が向いて事故に遭う人があるからお祭りの

時の運転は気をつけないと言っていた。やはり、人はうかれたり、何かに気をとられるとこういった事故に遭いやすい。ぼくも、不注意のまま歩道を進み、車にひかれそうになった時がある。こういう事故は、事故を招いた人も被害者も本当に損しかない。安全は互いが注意して初めてつくれるものだと思う。

最後に、憲章と僕の生活を比べてみるとたくさん反省点があった。福島市の憲章がどんな内容か知るきっかけになり、これからは気をつけて行動できるなと思った。たくさん反省点はあるけれど、少しずつ試し、最終的には、市民の一人として自覚をもって行動できるようになりたいと思います。

「今から始めること」

福島市立信陵中学校

三 浦 和 夏

今回私は、この作文を書くにあたり、「福島市民憲章」の存在について、初めて知る機会を得ました。これには、市民として五つの目ざすべき目標があります。その中で特に気になった、三つの憲章について述べたいと思います。

まず、一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」について気になりました。夏に母の実家、伊達の柱田に行くと、空気がとてもおいしいと感じます。それは緑が多いからです。田んぼ、畑、公園、山などがあり川も綺麗だからです。車もあまり走っておらず、二酸化炭素の排出量が少ないです。暑い日は、エアコンもなるべく使わず扇風機を使用すると熱電量が違います。ひまわりが庭に植えてありました。放射能を吸ってくれる性質がひまわりにはあるからです。夜は、星が綺麗に浮か

びます。空気が澄んでいるからです。環境が良いと体にもいい影響をあたえます。同じように福島市も「空も水もきれいなみどりのまち」だと感じたからです。

次に、三つ目の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」についても気になりました。私の親せきが見知らぬ人に助けてもらったからです。なぜなら、その親せきが自分の財布をどこかで落としてしまいました。財布の中には車の運転免許証が入っています。車を運転することができなくなるのですごく困っていました。二・三日したら交番に財布が届いたと電話がありました。本当に良かったと思っていたそうです。お金も盗まれず、運転免許証も無事に戻ってきました。たまたま良い人に拾われたおかげで、また運転ができるようになりました。このような親切な人が一人でも多く福島市を支える力となれば、「親切で愛情あふれるまち」になるはずです。

最後に五つ目の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」が気になりました。私の近くにある歩道にかかった道との境目に段差があるからで

す。徒歩では、気にならない位でも、自転車では、危なく通りづらく、お年寄りが通るとき、少しの段差でも足がつまづき、大けがになりそうな場所でした。気にしなければ、見過ごしそうな所でもその人の立場になり考えるといろいろな見えなかったことが見えてきます。今では、その段差は綺麗に整備され、通りやすくなりました。危険な所はまだありますが、いろいろな場所に気を配り少しでも安全な町づくりに心がけたいです。

健康の面では、今年は暑いので熱中症が多発しています。予防としては、エアコンを上手に使う、水分をこまめに補給、塩分をほどよく取る、睡眠環境を快適に保つ、丈夫な体をつくるなどのことに心がけて予防してほしいと思いました。

福島市民に、「福島市民憲章」を知ってもらい、一人一人が自分の出来る事を始めて、よりよいまちづくりに協力してほしいです。

「水のきれいな福島にしよう」

福島市立信陵中学校

沖野 奏 太

福島市には、きれいな水が沢山あります。例えば福島市を流れる荒川です。荒川は、二〇〇七年に河川ランキングにおいて、北海道の川など六つの河川と共に、水質日本一になりました。また二〇〇四年から二〇〇七年にかけて四年連続東北地方で第一位の水質を誇っています。さらに、二〇一三年には、福島市民の頑張りによって、再度水質日本一に返り咲くことができました。

「福島市民はあきらめなければ、何でもできる。」と思いました。

そしてみんなが毎日口にする、福島市の水道水です。福島市の水道水は、今年二〇一五年に、国際的な品質評価機関モンドセレクションの金賞を獲得しました。原発事故のイメージを払拭するためでもあるが、福島の水はきれいでおいしいという事

が世界に証明されました。また市の水道は今春、通水九十周年を迎えました。この節目に快挙を達成したのは、市民として嬉しいです。

そして福島市の水道水は摺上川ダムから来ています。摺上川ダムは東北で貯水量四番目を誇っています。

そして、僕の家近くを流れる松川です。僕が思うには、松川はとてもきれいで、きれいな透明な色をした川だと思います。しかし川辺を散歩すると、飲んだ後のペットボトルや、タバコの吸い殻や紙くずなど色々なゴミが、ポイ捨てされています。これが川に流れてしまえば、松川はきれいな川から汚い川になってしまいます。これは市民としてぜったいに許せないことです。汚い川にしないためには、まずポイ捨てされたゴミを拾うことです。川辺にゴミをなくすことができます。しかしまたポイ捨てされてしまつてはダメです。ならばポイ捨てする人をなくせば良いのです。例えば川の前にポスターを貼ったり、ポイ捨てした人を見たら注意すれば良いと思います。

僕は、福島市の水が改めてきれいでおい

しいという事が分かりました。そして福島の水や野菜や果物がおいしいのは、福島の水がきれいでおいしいからだだと思います。しかし逆に考えれば川が汚れて、米や野菜や果物の品質が下がってしまつては、市民としてがっかりしてしまいます。そうしないためには、市民全員で協力して、自分から積極的に川辺の清掃活動に取りくんでいかないとダメだと思います。今のままの福島市の水で有り続けてほしいです。市民全員で取りくんでください。

「心の片隅に」

福島市立信陵中学校

首藤 日向

皆さんは福島市民憲章をご存知でしょうか。知らない方も多いと思います。「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」この五つの目標が福島市民憲章です。市民憲章は、「市民全ての幸せ」と「福島の限らない発展」を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして制定されたそうです。

私はこの作文を書くまで福島市民憲章があることを、全く知りませんでした。福島市出身の母にも聞きましたが、知らないようでした。この憲章はとても良いものだ

と思いました。それと同時に、もっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。

私がこの憲章の中で一番心に響いたのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。その理由は次の通りです。

二〇一一年三月十一日。私たちを襲った東日本大震災。あの震災で、私たちは助け合う心を深く学んだと思います。あれから四年。私たちはその心をまだ持っているのでしょうか。忘れてはいませんか。私はその相手を思いやる心を大切に、そして、相手を思いやることを当たり前にしてもらいたいと思いました。

私は福島市民の皆さんから、数えきれないほどの優しさをもらいました。それは、水道が断水し、水を十分に確保できなかった頃、水をわけてもらいました。皆、同じ状況なのにも関わらず、店で働き、私たちに食料を提供してくれた方々。全ては思い出せません。でも、心がとてもあたたまったのは覚えています。

震災の日、家族を失ってしまったり、住む場所、ふるさとさえも失ってしまったり人もいます。そして、四年も経った今でも

苦しんでいる人がいます。あの日のことを、絶対に忘れないでくださいとは言いません。ただ、心の片隅に置いてもらえるだけでいいんです。でも、その片隅にある記憶の中の思いやりの心は、忘れずに持ち続けてください。そうすることで福島市は、優しさと溢れ、さらに素晴らしい場所になると思います。

私たちで、福島の明るい未来を築きあげていきましょう。

「福島市民憲章の思いとは」

福島市立北信中学校

黒津 集斗

僕は、この「福島市民憲章」を見たときはありますが、あまり深く考えたときはありませんでしたが、この作文で深く考えてみたらとても重要なことだと思いました。この五つのことをすべて、行ったら素晴らしい福島市になると思いました。その中でもっとも重要ななあとと思うことが二つありました。

一つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」です。なぜこの文を選んだかと言うと、「教育と文化を尊び希望に輝く」が大切なことだと思ったからです。教育は、学力だけではなく、一人一人が良い大人になることだと思います。文化は、この福島市が作りあげたことを守ると同時に新しいこれまでにない文化を作ること、この二つの教育と文化には、このような大切なことがあると思いました。そ

の二つを、希望に輝かせられる、福島市になると良いと思います。教育で良い大人を作り、文化を守ると、福島の大切な文化は、消えないことだと思います。これからも心がけたいです。

二つ目は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」です。この言葉は、子どもから大人まで、言えることだと思います。なぜ子どもが関係するのかと言うと、きまりを守りは、校則を守って、力をあわせて楽しく働けるは、協力して、楽しく、学校生活を送ることだと思います。子どもで言う「働く」は、学校に来ると言う意味です。大人の場合は、いやいや仕事をやるよりは、楽しく働けることの方が良いです。そのためには、まちな協力する、「力をあわせる」ことが良いまちにつながると思います。だからこの文には、すべてがまつていると思います。

最後にこの「福島市民憲章」を深く考えてみたら一文一文に、福島市を良くしたいと思うことがたくさんまつていることを知りました。これ全てをできるとは限りませんが、福島市民の人々に知ってもらって、

少しずつ皆で心がけてほしいと思います。たとえば「空も水もきれいなみどりのまち」は、自然豊かにしようという思いですが、福島市は盆地で真ん中に信夫山もあり自然は豊かですが、自動車なども増えてきて、空は、(空気)は、きれいになつていないと思うので、自転車を使うなどしてほしいです。ここまで、「福島市民憲章」を深く考えたときは、なかったのですが、この機会でもっと大切にしようと思いました。

「福島市民憲章について」

福島市立北信中学校

篠原 彩那

私が実践している「福島市民憲章」は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。私の地域には、大きな公園が二つあります。なので、月に一回、地域清そうがあります。私の家では、毎回かさずに行っています。ゴミがたくさんあるわけではないのですが、そうじをする度に公園がきれいになるのはうれしいです。

前までは、地域清そうの他に、地域のおじいさん、おばあさんたちもゴミ拾いをしていていたのですが、最近、ゴミ拾いをしなくても、きれいな状態が保たれています。きつと、公園を利用している人々の気持ちも、変わってきているのだと思います。なので、最近の地域清そうは、ゴミ拾いはしないで、草むしりだけをていねいにやっています。公園を利用してくれる人々の考えが変わり、とてもうれしいです。

二つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。私の地域には、ヨークベニマルやコープマート、イオンなど、毎日、たくさんの人が集まる場所がたくさんあります。特にイオンは、小さい子どもからおとしよりまで、広い年代の人々が集まります。

そこで、私の地域では、「呼びかけ」や、「ちらし（広告）配り」などを行っています。私も毎回参加しているわけではないのですが、班長は、よくやっています。ちらしの内容は「さぎに注意」や「交通ルールを守る」、「夜は一人で出歩かない」などです。この行動で、事故が減ったわけではないのですが、ちらしをもらった人の意識が少しでも高くなるといいなあと思います。そして、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」のようなまちなになるといいなあと思います。

私は、この作文コンクールで、はじめて「福島市民憲章」のことを知りました。「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう。」「教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくりましょう。」「親切で愛情あふ

れるまちをつくりましょう。」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」「この五つの憲章は、とても大切なものなので、これからも忘れずにいたいと思いました。そして、この憲章のようなまちなになるといいなあと思います。

「心優しい町、ふくしまを目指して」

福島市立北信中学校

阿部 ちなみ

みなさんは、福島市が制定した市民憲章を知っていますか。これは、私たちが生まれるずっと前、昭和四十八年に福島市をよりよくしようと制定されたものです。私は、この作文を書くまで市民憲章があることを知りませんでした。「福島市民憲章」は、全部で五つあります。その中の一つについて、私なりに考えてみました。

それは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というものです。これは、市民の一人一人が人を思いやる気持ちを持てば成り立つことだと思います。でも、ただ単に助けるのではなく、思いやりの心を持ちながら行うということが大切なのではないかと思います。私がこう思うようになったのにも理由があります。

これは、私が助けてもらった体験です。私は去年の夏、おばあちゃんと一緒に、私

の年の離れた兄に会いに仙台へ行きました。その帰りのことです。その日は大雨で、電車の時間がおくれてしまい、疲れた私たちは寝てしまいました。そして、もう起きたときには、最寄り駅の直前でした。あわてて荷物を取ろうとしたのですが、背の小さい私には高いところにあるたなには手が届くはずもなく、とても困っていました。そのときです。私の後ろに立っていた若い男性の方が、

「取りましようか。」

と声をかけてくれて、全員分の荷物を取ってくれたのです。そのときは私も、

「ありがとうございます。」

としか言えませんでした。でも、心の中ではとても嬉しかったのです。私は助けてくれた方のことを、帰って家族に話しました。私と同じく、家族も、

「助けてくれた人には感謝しなきゃね。」

と言っていました。

その体験があり、名前も知らない私を助けてくれたお兄さんにはとても感謝しています。

この体験をしたあとから私は、「人に親

切に接すること」はとても大切で、それが当たり前にできる人はすばらしい人なのだと感じています。

そして、私たちのふるさと福島市を、親切で愛情あふれるまちにするために、自分たちにできることもたくさんあります。困っている人に一声かけてあげることがあるん、それを忘れずに続けていくことが大事です。これを市民全員ができるようになれば、福島市を誇りに思う人が増え、愛情あふれるすてきなまちになるのではないのでしょうか。

「きれいなまちをつくるために」

福島市立北信中学校

岸 波 真 由

私たちのふるさと福島市には、緑につまれた信夫山や、清い流れの阿武隈川があります。私たちが、そんな自然豊かなまちで暮らしていることは、とても幸せなことです。しかし、福島に住む三十万近くの人々一人ひとりが皆、自然を大切にしよう、と考えているでしょうか。

私は、道に平気でゴミを捨てる人の気持ちがよく分かりません。なぜかというところでは自分で始末することが当たり前だ、と思うからです。私は折角自然に恵まれているのに、それを汚すなんて、もったいないと思います。

私は、ビルが多く建つ都会は、楽しいことばかりで、休日に行ってみたいと何度も思います。しかし、住みたいとは思いません。私は、自然豊かなこの福島に生まれ、福島で育ち、今福島で過ごしていることを

誇りに思います。私は、そんな福島を、これからも大切にしようと思います。今の私たちには、福島を守る責任があります。これからも福島に住み続ける権利もあります。

そこで私にできることを三つ考えました。

一つ目は、ゴミを減らすことです。私は、よそつもらったご飯を残してしまうことがあります。部活の際、お弁当を残して帰ってきてしまうこともあります。それは、改善できることです。この他にも、ティッシュをむだに多く使ったり、まだ使えるものを一回で捨てたりしないように心がけたいと思います。そうすれば、ほんの少しでも何かが変わるのではないのでしょうか。

これを、多くの人に知ってもらうのが二つ目です。家族、親せき、友人など、そこから広がれば、三十万人なんて簡単です。そのためにも、人と人とのつながりを大事にしたいです。福島市民全員がつながって、福島を守ろうとする社会を、今以上に実現したいと思います。

そして三つ目は、福島のために働ける仕

事に就くことです。これは、今できることではありませんが、今の努力は、絶対将来につながると思います。福島のための仕事というと、難しく考えてしまいがちですが、自分の好きなことも、必ず何かのための仕事です。私は、人々を笑顔にできる仕事にしたいです。そのためには、今からいろんなことに挑戦していきたいと思います。

私たちの住む福島には、緑豊かな信夫山、きれいな水のある阿武隈川があり私にとって一番のまちです。今、原子力発電所の放射線の問題などがありますが、私たちは負けません。このすばらしい福島の魅力で、私たちが未来につなぎます。

市民憲章とは、その土地の環境や遺産を尊重し、それを受け継ぐという約束や願いを表していると思います。私は、この実現のために必要なことを考えて、実行していきます。

「親切で愛情ある福島づくり」

福島市立西信中学校

加藤 太陽

福島市の人々は、すごく親切で優しく、愛情がある、すばらしいところです。ぼくは、こんな福島市が大好きです。ですが、もつとよくすることもできると思います。例えば、子供は、楽しく遊びます。ですがたまに、けんかをしたりすることがあります。でも、あとから考えると、ちょっとしたことや、思いやりがなかったりでおきることもあります。そこで、もう少し相手のことを思いやった方がいいと思います。思いやりがあれば、親切にもなるし、愛情も出てくると思います。

ぼくも、親切にされたことは、何回もあります。夏休みや冬休みには、東京などに行きます。そのときの移動は、電車で行きます。そこで、小学生の頃の僕に座席をゆずってくれました。そのときは、つかれていたので、すごく助かりました。その人と

は、初対面だったけど、すごく心から「ありがとうございます。」という気持ちになりました。そのときの僕は親切にしてくれることを、「ありがとうございます。」くらいにしか思っていないませんでした。でも、今そのことを考えると、人と人との関わりを大事にしているんだなあと 생각합니다。ぼくは、親切にしてもらえうれしさがわかりました。だから僕も、初対面の人にも親切にしていきたいと思います。そして、知り合いにはもつと親切にしようと思いました。だから僕だけでなく、福島をよくするために、福島市民一人一人がそうしたらもつといいところになると思います。ぼくは、そんな福島にいたいし、そんな福島にしたいと心から思います。

ぼくは、福島を愛情あふれるところにしたいです。福島の人々に、人を大切にしてほしいと思います。愛情があればみんなが仲よく楽しくできると思います。ぼくは、友達から大切にされてると感じたことがあります。ぼくは、この前空港公園でサッカーの試合をやったとき、僕は風邪をひいてしまいました。すごく頭が痛くて、のども

痛くてすごくつらかったです。サッカーの試合もできませんでした。体にも精神でもつらかったです。だけど、サッカー部のみんなからは、はげましてもらってすごくうれしかったです。そのとき、すごく思ったのが西信中サッカー部に入っていてよかったと思ったことです。僕はそのとき、大切にされていて、うれしい気持ちになりました。人は、大切にされていたら、幸せだと思います。このような気持ちをみんなにしてほしいから、福島市民みんながこんなふうになんかに対して、優しく大切にせつしてほしいと思います。そうすれば、福島は、愛情があるいいところになると思います。ぼくは、親切であって、仲良く楽しい福島にしたいです。そして、愛情がある、優しく大切な福島にしていきたいです。

「福島はみどりのまち」

福島市立西信中学校

遠藤 梨帆

私の住んでいる福島は、みどりがたくさんあります。例えば、木が多かったり、草がおいしげっていることです。木が多いと不便じゃないの？と思う方もいるかも知れませんが、木が多くあることでメリットがたくさんあると思います。それは、木があることで空気がおしく、たくさんのお虫や動物が住みやすくなることです。もちろん私達人間にも、それは良い事です。

また、福島では果物が有名です。おいしい果物ができることもみどりがたくさんあるおかげだと思います。みどりがたくさんあると空気がきれいになることをさっき話した通り空気がきれいになれば、作物も安全に作れるし、おいしくなります。みどりがたくさんあれば、作物にも良いことがおきくと思うので、またまた、人間がうれしいことになります。

福島は、みどりが多いだけではありません。水もきれいです。福島には、大きな荒川があります。荒川は昔、暴れ川と呼ばれていました。名前の通り、昔の荒川は何度も大きなはんらんを起こし、人々を困らせていたようです。それが今は、きちんと整備され日本で一番きれいな川となりました。きれいな水なので、普通の川では見れなくて、きれいな川でしか見れない生物がたくさんいます。これもまた、きもち悪い生物だからいやだ、なんて思う人がいるかも知れませんが、子どもの頃から、めったに見れない生物を見ることができなんて、良い経験になります。そこからきもち悪いとかかわいとか自然に興味が出てきて、理科が好きになるなど、川のおかげで夢が広がったりして、やはりメリットがたくさんあります。

そして、もう一つ福島にはあります。それは、空です。福島の空はとってもきれいです。例えば、晴れたときの空は、びっくりするほど明るくて青く雲がほよくあつて、ずっと見てたいくらいきれいです。また、雨上がりの時は、青い空をバックにす

ごくきれいな虹が見えるし、たまに、二重虹が見えるときもあります。

でも、そのきれいなみどり・水・空を汚す人もいます。例えば、みどりの場合はゴミを植物の近くに捨てたり、むやみにちぎったりすることです。水の場合は、川にゴミを捨てたり、汚い水を流したり、することです。空の場合は、工場のけむりなどで、空の色が変わってしまったります。

このように、福島のきれいなみどり・水・空を人のせいで汚してしまうときもあります。それは、環境汚せんということにつながります。人の良いことにつながる、きれいなみどり・水・空を人の力で汚すのはおかしいと思うので、これから福島のきれいなみどり・水・空を私達の力で守っていったら、いいなあと思います。

「みどりのまち 福島」

福島市立西信中学校

二 瓶 翔 馬

僕が住む福島市は、「空も水もきれいなみどりのまち」です。

福島市の「空」はとても澄んでいます。晴れていると、西信中からは、雄大な吾妻小富士の自然がはつきりと見えます。また、夕方になると、燃えるように鮮やかな夕焼けが楽しめます。

ですが、前は、そう思えなくなりそうな時もありました。そう、「原発事故」です。二〇一一年三月十一日、東日本大震災により、原子力発電所が崩壊し、放射性物質が福島県全体に広がりました。僕は、（これからの福島、どうなってしまうんだろう。）

と思いました。その時の空は、何だか澄んでいないように見えました。

しかし、福島県、市の除染作業員の方々の懸命な作業により、福島市にまた、青く

澄んだ空が戻ってきました。いつも何気なく見ている空ですが、とてもありがたく感じます。

次に、福島市の「水」です。何十年、何百年と蓄えられた雪どけ水が、日本一の清流「荒川」を通り、僕たちのところに届きます。豊かな自然が無ければ、綺麗な水は生まれません。福島市の自然が、安心・安全の水を生み出します。

また、福島市は農業がさかんです。農作物を育てるには、水は欠かせません。僕の家も、祖父母が野菜と米を育てていて、おいしく食べられるのも、祖父母の手間と、きれいな水のおかげかなと思います。

福島は「みどりのまち」です。僕が住んでいる西信地区は、辺りを見回すと必ず緑があります。そして、工場なども少ないので、とても空気が綺麗です。よく都会から田舎に旅行などをしてきたときに、「空気がおいしい。」と言いますが、福島はまさにそういうまちだと思います。この街に住むことができます、幸せだなと思いました。

空も水もきれいなみどりのまち、福島。これからの自然は、これからの未来、僕達

が守っていかなくてはならないものです。今、地球上では、「地球温暖化」が進んでいます。僕自身も、今年は気温がすごく高かったのですが、地球温暖化が進行していると感じます。このままでは、福島の良い自然もなくなってしまうかもしれません。一人一人が節水・節電などを心がけて、自然を、地球を守っていかなければなりません。

福島の良い自然を、次の世代、次の世代へと伝えていくために、僕達ができることをしっかりとやっていこう、と改めて思いました。こんなにも美しい自然なのだから。そう、福島のために。そう、「空も水もきれいなみどりのまち」をつくっていくために。

「親切心」

福島市立西信中学校

三 瓶 幸 恵

私は、自分の住んでいる福島市について、「福島市民憲章」のとおりになっていると思います。特に、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という点が、とてもよくできていると思います。私は、小学生のときの学習で、農作業をしている人々に話を聞くという学習がありました。話を聞くという学習が、声をかけようとする、なかなか声がかけられませんでした。でも、相手の方から、「どうしたの。」と聞いてくれたので、ようやく話を聞くことができました。もし、相手の方が親切に声をかけてくれなかったら、話を聞くことはできなかったと思います。ほかにも、回覧板を回しに、知らない人の家を訪ねたときも、飲み物をもらったり、道を歩いているとき、かばんを落としてしまったときも、道を歩いていた人が、拾うのを手伝ってくれたり、

知らない人にも親切にしようなどという経験をたくさんしてきました。

その他にも、小学校でも、たくさんの人に親切にしようと思えます。私は、もともと、福島市外の住宅に住んでいましたが、震災があったため、急遽福島市に引っ越してきました。いろいろな不安があった中でも、一番不安だったのは学校でした。私は、始業式当日は、緊張して、みんなと上手く話せなかったけど、みんなの方から積極的に話かけてくれたり、分からない事があるときは親切に教えてくれたりして、うれしかったので、とても安心しました。私は、コミュニケーション能力があまりなかったけれど、小学校で、たくさん友達や思い出ができました。最初、福島市に来たばかりの時は、慣れない土地での生活に対する不安で心の中がいっぱいになっていましたが、その心の中の不安も、徐々に取り除かれていって、今ではもう、すっかりここでの生活にも慣れ、来たばかりのときは心からあふれそうなくらいあった不安も、0とは言えませんが、今ではその不安も大分減って、0に近いくらいになったと思います。

最初、来たばかりのときはあんなにあった不安が、今、0に近いくらいまで減ったのは、福島市の人々の親切心のおかげだと思います。だから、私は、福島市の人々に本当に感謝しています。私は、今までは、知らない人と話したり、知らない人に、親切にしたりすることなんて、あんまりしたことが無かったし、「そうしよう。」と思ったことなんて無かったのですが、福島市に来て、人に親切にしたりすることがとても大事だということが分かりました。

これから、私がたくさんの人々にそうされてきたように、私なりの「親切心」を持って、たくさんの人に親切にしていきたいと思っています。

「福島県自然」

福島市立西信中学校

前野綾香

私の住んでいる福島県は、自然に恵まれ桃の産地として有名です。春は梅が咲き、それから少し遅れて桜が開花します。桜で有名なのは花見山です。前に一度家族で行ったことがあるのですが色とりどりの桜が咲き、まるで春が来たことを桜たちが心の底から祝っているようでした。桜が咲くと吾妻山の雪うさが消えてゆき、だんだん日も長くなり暖かくなってきます。夏になるとそれまでの鳥のさえずりから蝉の騒々しい声が聞こえてきます。気温も上がって昼間は屋内にいてもとけてしまうような猛暑が続きます。その頃になると祖父から桃をたくさんもらえます。でも桃の季節が終わるころになると日本列島に台風が上陸したりすると蝉の鳴き声がしだいにやみ、夜は涼しくなつて変わりにひぐらしの鳴き声を聞くと秋が来るんだと実感します。秋に

なるとお店には、松茸や栗が店頭に並び私の家では栗を買って栗ご飯をつくります。栗は甘くとてもおいしいです。秋は短くて、栗ご飯をもう一度食べたいと思う頃には、外のもみじなどは紅葉した葉が音もたてずにおちていきます。外ではほとんど生き物達の姿を見かけなくなります。学校では衣がえの季節になり、日も短くなります。母も暖かい料理をつくる事が多くなり夜はストーブをつけないととても寒くなります。空気も冷たくなって朝起きると外は辺り一面銀世界になっています。私は寒さに弱いので厚着して、マフラーをまいて学校に行きます。冬はこたつでぬくぬく過ごします。

福島市は、山に囲まれた盆地です。気候の変化が激しく夏は暑い。冬は寒いとはつきりしています。では、福島市を囲んでいる山はどのような山があるのでしょうか。一つは、吾妻山です。吾妻山は活火山で、レベル2火口周辺に入つてはいけないうと規制がかかっていて、現在は危険なので行けないですが、規制になる前までは、珍しい星などが通ると聞くと家族と展望台に行つ

たりしました。周りは、福島市内に比べてとても暗く雲さえなければ満天の星空を眺めることができます。

福島市は、自然を身近に感じることが出来ます。果物も野菜もとてもおいしく、荒川はとてもすんでいてさまざまな生物サンショウオなどあまり普段目にする事ができない生き物がたくさんすんでいます。私たちの身のまわりには森林が広がりの生き物がそこに住んでいます。でも自然はどこにでもあるわけではありません。今、私たちの身近にあるものは将来なくなってしまう可能性のあるものです。だからこの森林・生き物たちを私たちの手で守つていかなければならないと思います。春夏秋冬の季節の変化が大きい福島市には、たくさんの森林が広がり、豊かな山の恩恵を受け荒川などの川があります。この自然を守るため日頃から自然を大切にしよう。

「あいさつで元気になろう」

福島市立西信中学校

栗野 日葉美

私の通っている中学校では、毎朝「あいさつ運動」を行っています。

「あいさつ運動」の当番は部活のメンバーごとに決まります。私はバスケットボール部なので、女子メンバー全員で行っています。

自分の当番の時は、いつもより早く学校へ行きます。晴れている時は昇降口の前に、雨の日は昇降口に近い屋内で、メンバーのみなで横一列に並び、登校してくるみんなに「おはようございます！」と元気に声をかけてあいさつ運動をしています。

元気にあいさつすることで、あいさつをした相手からも元気よくあいさつを返してもらえると、とてもうれしい気持ちになります。あいさつをしてくれた相手もきっと、私と同じ気持ちになってくれると思います。

あいさつは相手がいるからできるので。一人では、あいさつはできません。

相手の目を見て、おたがいに気持ちのいいあいさつをすること、一人一人がそんなきまりを守り、周りにいる相手と一緒に「あいさつ運動」をしていくことができれば、みんなで力を合わせて楽しく過ごしていくことに、つながっていると思います。

「あいさつ運動」を通して、私が感じたことは「おはようございます。」のあいさつをすることで、一日の始まりのスイッチが押されて、シャキッとした気持ちになれるのと、今日も楽しく一日を過ごせそうだなという期待が持てます。

あいさつと聞いて、いつも笑顔で明るく元気よく、大きな声であいさつしてくれる、近所の方の顔を思い出しました。そのあいさつは、私に元気をくれるあいさつです。私も、人に元気よくあいさつできるように、努力していきたいと思っています。

これからは、「あいさつ運動」の輪を中学校から、少しずつでも広げていけたら良いなと思います。

まずは家の中から、一番身近にいる家族

に対して気持ちのいいあいさつをしてみようと思っています。笑顔で明るく元気よく「おはようございます！」と言ってみるつもりです。

きっと元気を与えられると思います。今から明日の朝が楽しみです。

たくさんの人に元気を与えられるように、がんばっていききたいです。

「福島市民憲章を初めて知って」

福島市立西信中学校

佐藤 里咲

私は、兄弟が迷子になってしまったことがあります。おばあちゃんやおじいちゃんや家族で探しましたが、見つかりません。すると、いつの間にか、近所のおばあさんや、男の子など、いろんな人が探してくれました。道路の方や、家の裏など、いろんなところを探しましたがやはり見つかりません。私は、「お願い見つかって。」といりました。でも、だんだん暗くなってきました。おばあちゃんが警察に通報しました。私はもともと心配になってきました。すると、誰かがやってきました。それは、私の兄弟を連れだした近所の人たちでした。私はすごくうれしかったです。近所の人たちも、「良かったね。」と言ってくれました。話によると、私の兄弟は、川沿いで、歩きながら川を見ていたそうです。そこは背の高い竹が周りにたくさん生えて

いて、中に入って見ないと誰がいるかわからない場所だそうです。そこで近所の人が入ってみると、中に私の兄弟がいたそうです。警察への通報も、話している途中で兄弟が見つかったので大丈夫でした。何はともあれ、兄弟が見つかったので、良かったです。憲章にもある「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」は、今回私の兄弟を助けてくれた人々のような優しい心を、一人一人が持ち続けていけば、実現できると思います。また、憲章の中には、「子供からおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」というものもあります。どれも大事ですが、これも大事だと思います。

私のおばあちゃんは、草刈りを朝早くにやっています。そこでは空きかんを捨てる人がいて、そのときおばあちゃんに気付かず空きかんを捨ててしまったそうです。その空きかんはおばあちゃんの目の付近にあたり、あやうく失明するところだったそうです。これを聞いたとき、私はとても腹が立ちました。前から「なぜボー捨てなんてするんだろう。」と不思議に思っていました。

だが、この話を聞いてもずっと不思議に思いません。ただ自分のうちに持ち帰り、自分のうちのごみ箱に捨てればいいだけの話なのに、なぜ道ばたで捨てるのでしょうか。自分のうちでごみ箱に捨てれば、他の人には何の被害も加わらないのに。道ばたで捨てただけに、私のおばあちゃんがけがをしてしまいました。ボー捨てをする人が「やめよう。」という気持ちを持たないとだめだと思います。憲章の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」は、そういうことも守ることだと思います。

福島市民憲章は、みんなが守れば生活が楽しくなるのかなと思います。

「親切で愛情あふれるまちを

作るには」

福島市立西信中学校

加藤 颯馬

僕は、この福島市が親切で愛情あふれるまちになっていったらいいと思います。そのためには、次の五つの事をしたいといいと僕は考えました。

一つは困っている人がいたら手を取り合う事です。困っている人がいてもたすけなければいいまちにはならないと思います。

二つ目は、あいさつをしつかりすることです。相手から言われてあいさつをするのではなく、自分から進んで言うのが親切で愛情あふれるまちになる大きな一歩だと僕は思います。時々、あいさつをしてもあいさつを返してくれない人がいます。あいさつをするのは愛情表現の一つだと思いません。

三つ目は、目上の人には敬語を使い、しっかりとした態度で接する事です。

時々、先生や先輩に対しての接し方が悪い人がいます。先生や先輩にタメ口で接する事は人として、礼儀がなっていないと思います。もちろんまちの人たちにも礼儀が必要です。この事はとても大切な事だと思います。先生や先輩そして町の人にも礼儀正しく接するのが基本だと思います。でも、自分より下の人にも、乱暴な言葉を使うのは良くない事だと思います。何か注意する時でも、気持ちが伝わるように、丁寧な言葉で教えてあげたいです。

四つ目は、小さい子やお年寄りや障害者が住みやすい環境を作っていく事です。道路の段差をなくしたり、建物の中に手すりや障害者用のトイレや、スペースを増やしたり、色々な検査ができる病院を増やしてほしいです。

障害者の人の手伝いや、お年寄りの話し相手になるボランティアの人も、もっと増えればいいと思います。僕もそういう機会があれば、ぜひ参加したいです。

五つ目は、楽しい場所をもっとたくさん作ってほしいです。雨の日でも楽しめる場所や、色々な年の人が交流できる場所やイ

ベントがあればいいと思います。

福島市が親切で愛情あふれるまちになるには、工夫や努力がたくさん必要だとは思いますが、今、住んでいる人たちは、親切で愛情があふれている人たちがたくさんいるので、福島市以外の人が遊びに来て、実際に話し合ったり、ふれ合ったりすれば、それに気づくと思います。福島は自然がたくさんあるし、おいしい果物もあるのでぜひ遊びに来てほしいです。

僕が考えた五つの事が実現できるように、僕もできる事をがんばってやっていきたいです。

「大好きな福島市」

福島市立西信中学校

加藤 春 乃

私は、福島市民憲章の中の二つについて考えました。

その一つが、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。私の町には、荒川が流れています。荒川は、日本一の清流になったことが何度もあります。

私は小学生の時に、親と荒川の近くで遊んだことがあります。そこで、川をのぞいてみたら、おたまじゃくしが泳いでいました。生き物が住んでいるということは、水がきれいということを知ることがあります。だから、福島市の川は、とてもきれいなんだなと思いました。

私は、福島市の空、川、みどりが大好きなので、これからも自然を大切にしたいと思います。

もう一つは「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」で

す。

私は、福島市の病院は子供の医療費が無料だと聞きました。それに加え、お年寄りは一割負担だということを聞いて、とても驚きました。私達にとってはうれしい制度だけど、福島市の予算は大丈夫なのかなと思いました。けど、福島市はしっかり予算内で、子供からお年寄りまでお金のあまりない人でも病院に行けるようになっていきます。そこが、福島市のすごいところだと思います。

安全面でも、すごいところがあります。それは、ポスターや垂れ幕などの取り組みです。私は、よく信号機の上の歩道橋に垂れ幕があるのを見かけます。そのほとんどが、交通安全の呼び掛けです。おそらく、信号待ちの時に目に入るように、場所をもうけたのだと思います。それに、五・七・五で書いてあることが多いです。おそらく、覚えやすいようにリズム良く書いたのだと思います。このように、まちの安全を守るためにさまざまな工夫をしていることが分かります。

私が、この福島市民憲章を見て一番大切

だと思ったことは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。

理由は、人が良くなくては、福島市の印象も悪くなると思うからです。例えば、初めて福島市に来て困っている人がいても、だれも助けなかったら「福島市民はやさしくない」と思われてしまいます。だから、「親切」にすることは、大事だと思います。

私は、福島市が大好きです。この、私が大好きな福島市は、「福島市民憲章」があるからこそ、良いまちなのだと思います。これからも、福島市民全員で、より良いまちにしていけたらいいと思います。

私は、福島市が大好きです。

「知らない人でもあいさつを

できる町にしよう」

福島市立大島中学校

中 村 魁 斗

僕は小さいころには人みしりのあまりあいさつをすることができませんでした。いつもお母さんとかに

「あいさつをしろ」とい

っていつも言われていました。でも小学生になって、スポーツ少年団とかの人たちが大きな声ではきはきとあいさつをしています。

僕はそれにあこがれました。僕は今、中学校で野球部をやっています。あいさつはまだまだ、だけど一生懸命がんばっています。だからそれをあいさつをしない人でもやってもらいたいと思います。僕が歩いていたりしてすれ違った人にあいさつをしない人もいます。僕はそれを

「変えたい」

と思いました。なのでそれをやる方法を考

えたいと思います。

まず最初にやることは身近な人からあいさつをしていけばみんな笑顔になるし、言った人も言われた人もなんだか分らないけど気持ちが良くなるので身近な人からあいさつをしていけば、その身近な人がまたあいさつをして、言われた人がまた近くの人に言ってくるとすれば時間はかかるけれども、だんだん広まっていっていけば町全体が良い町になると思います。だんだん大人になるにつれてやらないしあいさつをすることは恥ずかしいという心を持っているからだと思います。だから僕は野球部としてあいさつの心を忘れずにいきたいと思うし、これから人生はまだまだ長いと思うから、心の中に置いておけば、あいさつは簡単なことだからあいさつをできる町にしたいと思います。あと難しいのがすれ違った人にあいさつをいうのは簡単で言っちゃえばいいことだからと思います。あと僕が思っているのは、

「ありがとう」

と言える人になりたいと思います。最近は照れくさくなっているって普段なかなか言えな

い言葉

「ありがとう」

を言うには照れくさいというのを自分のために何かをやってもらっているという風に考え方を変えないと心の底からありがとうは言えないと思うので、今後の生活を変えていき、これからの長い人生を楽しめるものとしていこうと思い、あいさつとありがとうと言う言葉を言いたいです。

「福島を今までより

よりよくするために」

福島市立大島中学校

栗地 汐音

私は、空も水もきれいなみどりなまちをつくるためには一人一人が意識して生活していくことが大切だと思いました。

なぜ私がこう思ったかというと、誰か一人が空も水もきれいにするためにたくさんの事を意識して生活をしていると他の人が何も考えずに生活していればきれいなみどりのまちはできないと思ったからです。まちのみんなで協力して「きれいなまち」にしようとして努力すれば、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」にもできると思いました。

小学生の時、校外学習がありました。校外学習の帰りに私の担任の先生がポイ捨てしてあったカンを拾い、学校のゴミ箱に捨てました。この時はなんとも思っていなかったけれど、今回の「福島市民憲章作文コ

ンクール」で改めて考えるとこのようなささいな事でも、「空も水もきれいなみどりのまち」をつくることに大切なことだと思いました。

私の担任の先生のように、「ゴミが捨ててあったら拾いゴミ箱にすてる」ということを福島市民みんながやれば「空も水もきれいなみどりのまち」をつくっていけると思いました。

また、近くのスーパーなどに買い物に行く時は車ではなく、自転車や徒歩で行けばいいと思います。これも、小学生の時に社会の勉強で車の出す排気ガスは、空気をきたなくするとならったので車はできる限り使わない方がみどりのきれいなまちにできると思いました。

私は、この作文を書いていて自分の普段の行動を考えてみると、ポイ捨てはしていませんが、近くのとこに買い物に行く時や、いつもよりおそく起きてしまい母に車でおくっていったららってしまうので、まずは自分自身の普段の行動を見つめ直すことが大切だということが大切だと思いました。

私は、福島市民みんながゴミの事に気づいたらゴミ箱に捨てたり、近くのとこに行くときは車を使わないようになど一人一人が「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるように努めてほしいので、まずは私がこの事をあたり前にできるように頑張つて習慣にできるようにしたいです。

最後にこの作文を通して一人一人が本当にささいな事でも意識していけば福島は今までよりすばらしいまちになると思いました。

「幸せな福島にするために」

福島市立大島中学校

扇 田 凜

福島は自然がいっぱいで桃やりんごなど、おいしい果物もたくさんあります。ですが、悪いところは全くないかというと、そうではないと思います。憲章を知って、福島が今以上に良い町になるためにみんなが協力してほしいです。

憲章はきまりなので堅苦しい感じがしますが、きまりがなくなったら人々は好きほうだいやってしまつてとても大変な事になると思います。私のふるさと、福島市はずつとすてきな町であつて欲しいと思います。

私が印象に残つた憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。どんなに良い景色や場所があつても、一人一人が思いやりの心がなければ、市民は幸せな気持ちにはならないと思います。このまちづくりを進めるためには、あいさつを心

がけたり思いやりの気持ちを持つと、と私は考えました。あいさつをすれば、人々とのコミュニケーションが広がります。そして、お年寄りに席をゆずったり困っている人がいたら声をかけて助けてあげたりして、思いやりの気持ちを持てば良いと思います。知らない人とはあいさつをしづらিশお年寄りに席をゆずるのは勇気があることです。身近なところから実行していけば住みよい町になると思います。登校中に、あいさつをされると今日もがんばろうと良い気持ちになれるので、私も行動に移していきたいです。

「親切で愛情あふれるまち」はどの憲章にもつながっていると感じます。まずは、一つを進めていこうと考えれば、もつと幸せな町になると思っています。

福島の憲章を知っている人は、何人いるでしょうか。私も最近までは憲章の存在は知っていましたが、内容は知りませんでした。市民の半分以上は多分見てないでしょう。福島市民憲章を見たとき良い憲章だなと思いました。これをみんなもつと知つて、この憲章を中心に生活していけば良い

です。私は福島の果物が大好きです。山も川もとてもきれいなのもつと幸せなまちにしていきたいです。朝は、近所の人があいさつをしてくれます。福島の人はずうたいと言つていた人がいたけど全員がそうではありません。なので、自分からあいさつをしたり思いやりの心を持つて接すれば、相手も気持ち良くなりおたがいが良い関係になると思います。それが、市民全体になればもつと良い福島になると考えました。

「福島市民憲章について考えた事」

福島市立大島中学校

塩 澤 陶 子

私は福島市民憲章をもっと市民に、なじませた方が良いと思います。

なぜなら、私はこの憲章の事は知っていただけと具体的なところまでは、知りませんでした。なのでもっと市民にこの憲章のことを広ませたら、もっと福島市が良くなると思います。

次に私が思うことは、憲章の最初の所の、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という文が守れていないことです。特に、水はきれいになっていないと思います。

なぜかというと、私の住んでいる飯坂地区は、いくつもの川が流れています。私の家の前には小川が流れていて、その川は、ゴミがよく流れています。この前の川原にもゴミが落ちています。袋や、空き缶が特に多いです。誰も拾わず、私も見てみぬふ

りをしてしまいました。なので特に、この憲章をみんなに知ってもらえば、ごみのポイ捨ても減り、川もきれいになると思います。

逆に私が良いと思った憲章は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という最後の憲章です。今年の夏は、すごく暑かったので、お年寄りなどの熱中症が増えているとニュースで見ました。三十度ごえの日は、必ず消防の人が消防車で熱中症予防の呼びかけをしていました。そのおかげで、熱中症の人が大分減ったと思います。この憲章は守られていると思います。

私は、この憲章の作文を書いて、この憲章のことを知らなかったけど、よく知れました。もっとみんなにこの憲章を知ってもらい、もっとよりよい福島市になって欲しいと思いました。

「安全で健康な町づくり」

福島市立大島中学校

八 木 渚 月

私は福島市民憲章の中でも、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましようというのを選びました。

なぜかという、子どもからおとしよりまで安心して居られる福島県というのがみんなの幸せにつながると思ったからです。快適で明るく住みよいまちづくりを進めるために、安全で市民が住みやすい町からはじめれば、健康なまちになると思います。

最近ニュースで怖い話題がたくさん出ています。それで、安心して町を歩けなかったり、交通事故などが増えている、安全面にも気をつけながら生活するという事が多いので、気軽に町を歩ける安全な町になると良いと思います。

私が考える安全で健康な町とは、交通事故などが無い、市民が安心して暮らせる町です。

例えば、車を運転している人が、互いにゆずり合い、ぶつかり事故などをなくしたり、信号無視などせず、安全に運転する事。それから、歩行者が横断歩道などをわたる時は、車はちゃんと待ってあげたり、歩行者と自転車とのぶつかり事故などをなくしたりすれば、良い町になると私は思います。その事故などをなくす解決策は、まず一人一人の心がまえが最も大切だと思います。

車の安全運転を心がけたり、自転車に乗る時は必ずヘルメットをかぶるように気をつけたり、追いこしはしないようにしたら良いと思います。

まずは、一人一人の気持ちが事故につながったり、逆に安全で健康な町になったりすると思うので、気持ちの切り替えや、心がまえをしつかりとすれば、安心して暮らせる町になると思います。

子どもからおとしよりまで安全な町づくりというのは難しいけれど、実現できたら、すごく良いと思うので、なにか私にできる事をさがして、小さなことからやっていけたらなと思います。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちができることを期待し、福島県の市民の幸せと発展を願っています。

私たちのこの気持ちや、日ごろの生活の中の行動、考えなどが、福島県をますますより良くするためや、今後のまちづくりにどに生かされるよう、がんばっていきたいと思っています。

福島市立大鳥中学校

山下茉桜

まで自分のことしか考えていなくて、周りの人に迷惑をかけたことがありました。なのでこの憲章について考えたことが三つあります。一つ目は、周りの人の迷惑になることをしないことです。私はお店などで通路のところに立っていて邪魔になりました。自分に迷惑をかけたことがありました。自分では気にしていないことでも周りの人からしたら嫌なこともあると思うのでそういう小さなことから気をつけていきたいです。二つ目は、挨拶をしつかりすることです。

まで自分のことしか考えていなくて、周りの人に迷惑をかけたことがありました。なのでこの憲章について考えたことが三つあります。一つ目は、周りの人の迷惑になることをしないことです。私はお店などで通路のところに立っていて邪魔になりました。人に迷惑をかけたことがありました。自分では気にしていないことでも周りの人からしたら嫌なこともあると思うのでそういう小さなことから気をつけていきたいです。二つ目は、挨拶をしつかりすることです。挨拶はとても大切で挨拶をするとならないのではとても違うと思います。挨拶をするとされた方も気持ちがいいし、した方も気持ちよくなるので愛情あふれる町をつくるためには挨拶が良いと考えました。三つ目は、感謝をすることです。何かをしてもらったら必ずありがとうございますが大事だと思えます。それが知らない人でもちゃんとお礼を言うことで愛情あふれるという部分に良いのではないかと考えました。

私は、今まで市民憲章を知らなかったし

まで自分のことしか考えていなくて、周りの人に迷惑をかけたことがありました。なのでこの憲章について考えたことが三つあります。一つ目は、周りの人の迷惑になることをしないことです。私はお店などで通路のところに立っていて邪魔になりました。人に迷惑をかけたことがありました。自分では気にしていないことでも周りの人からしたら嫌なこともあると思うのでそういう小さなことから気をつけていきたいです。二つ目は、挨拶をしつかりすることです。挨拶はとても大切で挨拶をするとならないのではとても違うと思います。挨拶をするときされた方も気持ちがいいし、した方も気持ちよくなるので愛情あふれる町をつくるためには挨拶が良いと考えました。三つ目は、感謝をすることです。何かをしてもらったら必ずありがとうございますが大事だと思えます。それが知らない人でもちゃんとお礼を言うことで愛情あふれるという部分に良いのではないかと考えました。

私は、今まで市民憲章を知らなかったし考えてみたこともなかったけれど、今回はこのことについて考えてみることでできて

良かったと思います。それに、自分で何が
できるのかを考えたことで私にもちゃんと
できることがあるんだなと思いました。私
は福島市が大好きです。なので、その大好
きな福島市を今よりもさらによりよくする
ために、私はこれらのことに意識し、気を
つけていきたいと思いました。

「自分くらしより厳しいくらし」

福島市立松陵中学校

齋藤 優輝

ぼくは、福島については、とても豊かな県だと思っています。でも福島以上に豊かな外国はありません。それは、今も、主にアフリカの地方で争いがおきているからです。

アフリカの地方では、貧しいくらしをしている人が多いです。その人たちにとって、水の一滴も貴重な資源です。なので私たちは水道の水を一滴もむだにすることは、できないと思います。でも福島市には空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう、という憲章やきまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう、という憲章があります。

なので、豊かな町をつくるためには、力を合わせて楽しく働けるまちをつくりましょうなどの福島市民憲章があるからぼくは、平和で豊かな町だと思います。

「思いやりと笑顔であふれる

まちをつくろう」

福島市立松陵中学校

佐藤 海月

明るく住みよいまちづくりをするためには僕はまずは思いやりと笑顔だと思っています。なぜならいくら環境などがよくても笑顔も何もない暗いまちではまちとは言えないからです。

僕は一度このような経験があります。ラニングをしているときに重い家具を運んでいる人を手伝ったことがあります。手伝い終わって僕が帰るときにその人が僕に一言言ってくれました。

「ありがとう。」

この時、僕は本当にうれしかったです。心がとても温かくなりました。そしてここに住んでいるみなさんは愛であふれていると思いました。このように手伝ってもらい側もあげる側もどちらもうれしくなります。これは確実に明るくて住みやすいまちづく

りにつながります。

最初はいいさつなどで多くの人とコミュニケーションをとることが大切です。どんなに小さなさいなこともいいので人のことを思っであげられる人が多くなっしてほしいです。それが確実に明るく住みよいまちづくりの欠片になるからです。

「福島市民憲章を守るためには」

福島市立松陵中学校

蓬 田 拓 海

僕は、この作文を書くまで、「市民憲章」というものが、良く分かりませんでした。

しかし、市民憲章の内容は、福島市民が幸せに暮らすために大切だと強く感じました。

市民憲章の中でも僕は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」に注目しました。

夏は熱中症で亡くなる高齢者が多いです。

死亡率を少なくさせるためには、やっぱり工夫です。

よく仮設住宅に住む人同志がお互い

「具合が悪いねーがい？」

と声をかけ、自ら見回りをしています。

それは、工夫と言えるのではないでしょう
うか。

一方、家で暮らす高齢者の場合、エアコン

ンがあるのにつけないで、死亡する方が多いとテレビで聞いたことがあります。

それは、どうやって解決すべきなのでしょう。

前に、「おじいちゃんに『エアコンつけたら?』と言つてもつけないでそのまま...。』と言つていたのを、ニュースで聞いたことがあります。その他、「つけるまで、離れない!」など、工夫はしているものの、死亡してしまう、そこまでしてもダメなら、高齢者が利用出来る施設を増設し、サービスをいつでも受けられるようにしていけば死亡率が少なくなれば嬉しいのです。

今までは、健康のことでしたが、次は安全です。

これは、市民憲章の中の「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」も関係してくるのだと思います。

時々、殺人や強盗、事故といったことが起きますが、それって、きまりを守っているなんて言えますか。人を殺すきまりは、戦争以外ありえないと、僕は思います。

力を合わせて、楽しくさせるには、そんなことはしないで、人を殺すのではなく、

逆に親切にすれば、きまりを守って、安全な町、福島市をつくれると思います。

「親切」は、だれにでもできます。

例えば、電車に乗っているお年寄りがいたら、席を譲るなど、小さいことでもいいので、一人一人が優しくすれば、良い福島市をもつと良い福島市に変えることができます
と思います。

僕も、福島市に住む一人として、「福島市民憲章」、しっかり守って、まずは身近な人に優しく接していきたいと思います。

「お年寄りに親切で、たくさんの人と交流ができるまちを

つくりましょう」

福島市立松陵中学校

丹 野 可奈子

私はお年寄りに親切で、たくさんの人と交流ができるまちをつくってほしいと思います。

みなさんはお年寄りの人を一度でも助けたことがあるでしょうか。私はテレビアニメで小さい子供が荷物を持ちますよと言っておばあちゃんが持っていた荷物を運んで行ってくれていたのを見たことがあります。ですが、現実ではそういったお年寄りに親切にするという行動があまり見られないのです。人に親切にするのは気持ちが良いことだと思ふし、相手も親切にしてくれて嬉しい気持ちになると思います。小さなことでも良いので親切にすると良いと思います。例えばバスや電車の中でお年寄りの人が席に座れない時はゆずってあげたり、

道に迷っていた人がいた時は道案内をするだけでも良いと思います。私自身でもあまり人助けをしたことは無いので言える立場ではないと思うのですが、人を思いやるという親切的な気持ちを忘れずにこのまちに住んでほしいと思います。

交流についてですが、ボランティア活動や地域のイベントに参加すると良いと思います。ボランティア活動に参加すれば人の尊さを学んだり、たくさんの人と交流ができると思います。私たちのまちには地区運動会があり、各地域に分かれて地域の人と協力をしながら競い合っています。地域のイベントに参加することによって楽しい思い出ができると思います。地域のイベントは他にもたくさんあると思うのでたくさんイベントに参加できれば良いと思います。

高齢化社会が続いている中ですのでお年寄りを大切にする、親切にすること、とても大切になってくると思います。地域で年齢に関係なく交流をして人と接してふれあうことはこれから生きて行く中で必要になっていくと思います。私は友達の手助けを

するのは好きなのでお年寄りの人でも同じようにできるように心がけたいです。また、地域のイベントや行事には積極的に参加できるようにしたいです。

「ふるさと福島」

福島市立松陵中学校

菅野 遥奈

市民憲章で私が一番印象に残ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。理由は、二つあります。

まず一つ目は、「水」です。私の住んでいる町には、「水原川」という川があります。水原川は、私の家の近所なので夏休みに、川に住んでいる虫や生き物を見に行ったりしました。下流は、あまりきれいではない川でしたが、虫や生き物がいっぱいいました。上流は、きれいな水が流れているので魚がいきいきと泳いでいました。下流にも、きれいな川に住む生き物が住めるように、汚い水は、流さないようにしたり、洗剤なども考えて使うようにしたいです。

二つ目は、「みどりのまち」です。私の町には、「土合館」という山があります。土合山は、「あじさい小路」とも呼ばれていて、六月に開さいされる「あじさい小路」

のイベントには、色々な色のあじさいが、きれいに咲いているのが見れます。私の家にもあじさいがあつて、毎年あじさいの花が咲く季節になると、二色の花が咲いていてとてもいやされます。土合山は、私の住んでいる町のほりです。土合山は、近くの地区の町内会の方たちが管理してくださっているようなので、地区の方々にも感謝しつつ、毎年のあじさいを楽しみにしたいです。そして、もつとあじさいを増やして、今後も見物客がいっぱい集まっていぎやかな町になればいいと思います。私はきれいな水とみどりがある町に住むことができるとても良かったです。憲章でもある、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」が守れるように、私自身も、身近な所から、行動していきたいです。

「福島に笑顔を」

福島市立野田中学校

鈴木 彩加

私は最近、市内の高齢化や子供の死亡事故というニュースが多くなってきたと感じました。そこで、子供からお年寄りまで安全で健康な町づくりについて考えてみることにしました。

まず、安全面では子供をねらう不審者やお年寄りをねらう振り込め詐欺の電話など、私達が住んでいる福島市にもとても多くの危険があふれています。これを解決するためにはやっぱり呼びかけが大事だと思います。私達の周りには子供やお年寄りがたくさんいます。そんな人たちが被害に合わないよう呼びかけをしていきたいです。この呼びかけによって福島市を今よりさらに安全にしていきたいです。

次に健康面ですが、子供とお年寄りどちらも運動を良くすることで体がきたえられるので健康的だと思います。今の子供たち

はゲームやおかしなどで部屋にばかりいてしまい生活習慣病になってしまいう子が増えているそうです。だから外に出て思いっきり遊んでほしいと思いました。お年寄りはヨガやゲートボールをしている姿を見かけるときがあるので健康的だと思います。でも、お年寄りでも生活習慣病にかかることもあるそうなので油断せず持続してほしいです。

最後の考えは、子供とお年寄りが触れ合える場所を設けるということです。私が幼いころお年寄りに昔遊びを教えてもらったことがあります。昔遊びをお年寄りから子供へ教えることによって、昔遊びの伝統を築くことができます。それと同時にお年寄りとお年寄りが触れ合うことができます。私はこの昔遊びを教えてもらったことを通して、今はおもちゃとしてつくられたものがお店に売られています。昔はほうずきを鳴らしたり葉でボールを作ったり自然のものを使って自分たちで作っていることなどたくさんを学ぶことができました。今はなかなかこのような機会はないのですが、近所の子供やお年寄りで集まり、触れ

合うことによって笑顔が増えただけではなく心まで健康になってほしいと思います。

これからの福島市を笑顔であふれさせるために私自身も安全な福島市にするために地域の人や親せきの人にも呼びかけて少しでも被害にあう人を減らせるようにしたいです。安全だけではなく、人々の健康にも目を向けてしっかり運動して体をきたえたいです。私は、健康でなくてはならないのは体だけではないと思いました。心も健康でなくては笑顔はあふれないと思います。

とても安全で安心でき、心身共に健康である福島市を目指していきたいです。私も自分ができることは積極的に取り組み、福島市を笑顔いっぱいのにしていきたいです。

「大好きな福島」

福島市立野田中学校

寺 崎 未 桜

私はこの作文を書くとするまで「福島市民憲章」とは何か、全く知りませんでした。私も福島市民なんだと思うとはずかしいことだと感じます。

内容としては全てがなければならぬようなものではなく、普段の生活の中で自然にできることだと思います。でも四年前の地しんと原発事故以来、あたりまえだと感じていたことがあたりまえでないということも知りました。

「空も水もきれいで、希望にかがやいていて、愛情があふれていて、力を合わせて楽しく働くことができ、だれもが安全で健康なまちをつくりましょう。」

もつともなことだと思いますが、現実はとても難しいことを、これからどんな風にしていけば、今までのような福島になれるか、と考えるととても不安になります。

身近な小さなことから見つめなおすために私は自分の住んでいる笹木野について考えてみました。笹木野にはあまり目立つことはありません。でも、他の地区よりおいしい梨や桃がとれます。それぞれ自分の住んでいる所以外のことはよく知らないのですが、交流を深め、それぞれの地区のすごいことなどの中でおたがいの良いことを広めていけたらいいなと思いました。そして、小さい子供からお年よりまで笑顔で楽しめるような環境を作ることも必要だと思います。

福島市民憲章に書かれていることの中で、「空も水もきれいなみどりのまち」というものがあります。私は今、部活動で楽器を吹いている時、窓から見える空のことを「青くてきれいな空だなあ」と思います。また、登下校の時もまわりにたくさん緑があります。梨畑や田畑、桃畑などがたくさんあり、いつも「緑がきれいだな」と思います。そして、私の家の水道や飯坂の祖父母の家の水道は、蛇口に水がたぐさんついています。つまり、それくらい夏でも水が冷たいということです。しかも、水

てきだらけの蛇口から出る水はとう明でもおいしい水です。そういうことがいつまでもあたりまえであってほしいなと私は願っています。

そして、この福島の良さを全国のたくさんの人々に知ってもらいたいです。原発以外のことでたくさん人々に興味を持ってもらい、「ぜひ、行ってみたいなあ」と思ってもらいおいしい果物などを食べてもらえたらうれしいなと思いました。

私は、そんな果物がおいしくて、空も水もきれいなみどりのまち、福島で成長することができて良かったと感じました。

これからも、今と変わらない福島であってほしいと思います。また、いつまでも、笑顔と希望にあふれていてほしいです。

私は、そんな福島が大好きです。

「福島をより良い町に」

福島市立野田中学校

渡 辺 怜 馬

私たちの住んでいる福島県は空も水もきれいで、山に囲まれており風景もきれいです。ですが、福島県の全てがきれいなわけではありません。そこで私はどのようにしたらもっと福島がきれいになるのかを考えます。

まず、第一に考えられる原因の一つがポイ捨てです。ちよつとしたゴミやたばこなどのポイ捨てを、私は何度か見かけた事があります。このような事があつては福島がきれいとは言えません。このポイ捨てを防ぐ方法はやはり一人一人がゴミ箱に捨てる、絶対にポイ捨てをしないという意識を持たなければなりません。常に意識を持って生活をすればポイ捨てなんかをしなくなると思います。

そしてもう一つ、私は、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりまし

ようという憲章についてもふれていこうと思います。

私がなぜこの憲章にふれるかというところ、この憲章があまり守られていないからです。これは私の意見ですが、守られていないこう景を見たこともあります。

私の通学路の道ぞいにある家のへいが、何かがつつこんだようにポロポロになっていたし、自転車に乗っている子ども達が、右側を走っていてお年よりの方にぶつかりそうになっていました。あれを見ては、まだ安全で健康なまちとは言えません。それを防ぐためには、やはり一人一人が自覚し、注意をしながら生活をすればいいと思います。自分は安全な事をしているのか、自分は間違つた事をしていないかを確認しながら生活しましょう。

最後にもう一つだけ、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。という憲章についてふれていきます。

これに関してはとても簡単です。この憲章はもうみなさんが出来ている、あいさつをするということです。あいさつをすればお互いとの親近感がわいて、とても愛情が

あふれる町になると思います。また、親切にしてもらつたら、ありがとうございます。などの感謝の言葉や、悪い事をしたら、ごめんなさい、ときちんと謝る事も大切なんじゃないかと思っています。

さて、私は三つの憲章、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。と、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。と、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。にふれてみました。私自身も、人の事ばかり言わずに、自分でも気をつけて生活しようと思ったので思いました。ほかにも、もっと良くしなければならぬ所もあると思いますが、私からは以上とさせていただきます。

「市民の幸せ」

福島市立野田中学校

丹 治 萌

わたしは、福島市のみなさんが幸せに暮らせるようにするためにはどうすれば良いか考えました。

例えば、町にゴミが無かったらみなさん安心して暮らせると思いました。なぜ町にゴミが無かったら安心して暮らせるかというと、例えば、歩行者が道を歩いていてあきカンが落ちていたとします。歩行者はそれに気がつけずあやまって転んでけがをしてしまったら大変だからです。なのでわたしは町にゴミが無い方がよいと思いました。でも町にゴミを無くするためには、道にゴミを捨てない。ゴミを見つけたら拾うなどをする事が大切だと思います。しかし、ゴミを見つけても拾ってゴミを捨てると言う人は少ないと思います。なのでわたしは、一人一人がゴミを捨てないように気をつける事が一番大切だと思いました。

次に、事故がない町になると思います。今は、車と歩行者との事故、車と自転車との事故、歩行者と自転車との事故、飛び出しなどの事故が増えているので少しでも減ればいいと思っています。例えば最悪、事故で人が亡くなってしまった場合その家族はどれだけかなしむでしょうか。事故がなくなれば、かなしむ事もなくみなさん幸せに暮らせると思います。事故を防ぐには、いろいろな方法があると思います。自転車の方は交差点で一度停まり右、左、左右を確認してから渡るようにすればいいと思います。また、車の方も歩行者の方も自転車の方と同じく交差点で一度停まり右、左、左右を確認する事が事故を防ぐ事につながると思いました。

左右を確認してから渡る事は、あたり前の事かもしれませんが左右確認する事で事故が少しでも減るのならばわたしは、確認して気をつけなければいけないとあらためて感じました。

わたしは、みなさんが幸せに暮らせるようになるためには、町にゴミなどが落ちていない事、事故がなくなる事が大切だと思

います。そのためには、みなさん一人一人が気を付けなければいけません。一人一人がいつも気をつければ町にゴミもなくなり、事故もなくなり平和に暮らして行けると思いました。

「私の住んでいる町」

福島市立野田中学校

穂 元 千紗叶

私が住んでいる町には、すてきな自然がたくさんあります。笹木野には緑の田畑や森林がたくさんあり、そのなかでも私の中学校の前にある田畑の緑の葉がとてもきれいです。私は東京にいたので緑の田畑や森林を見たことがなかったので三年生で福島に来た時は、緑がキレイだし空気が良くてビックリしました。でも震災があつたので放射能は体に良くないと聞き、私は自然が良くないと思いました。が今となると、とても空気が良くて緑がキレイで、自慢ができる福島だということをあらためて知ることができました。私は福島のために、そして自然や緑のために皆で力を合わせて出来ることはないのかを考えて出来ることがあればやりたいと思いました。

次は地域のみなさんの親切さ、そして愛情を持っている人が多いという事です。私

が、毎日中学校に行こうとすると近所のおばさんが「おはよう」や「いつてらっしゃい」など笑顔で元気にしゃべってくれるので私は「がんばろう、元気に過ごそう」という気持ちにいつもさせてくれます。私は近所のおばさんのおかげでがんばれるので私もあいさつをされる方ではなく、する方になり、「おはようございます」など近所のおばさん以外にも色々な方にあいさつができると思います。私は、おばさんのように元気で笑顔を忘れずにしたいです。福島の方々は気軽にしゃべってくれるし、おもしろいので自分もそのように思われると、うれしいだろうなと思いました。私はこの地域、町に来てから色々な人とふれあい、話し合って楽しむことを知ることができたのでどんどんしゃべって交流し、がんばろうという気持ちを忘れずにがんばりたいです。

私は、福島について考えてみると良い所が多いことが分かりました。私はこの二つの良い所以外もふり返りもっと良い所を見ようと思いました。自然や親切さという大切な事を築いていけると良いと思うので一

人一人が努力をして、福島のためにできると良いのかなと思います。私も出来る事があればボランティアとしてやり、みなさんのためや福島のためにがんばりたいです。

「あいさつから始まるまちづくり」

福島市立野田中学校

桑 折 隼 斗

「おはよう」「気を付けてね」「がんばってね」僕が学校へ登下校する際に毎回聞くことがあるあいさつです。このようなあいさつが、毎日聞くことの要因、それは、一人一人が、少しでも親切で愛情あふれるまちづくりをしようと考え、行動しているからだと思います。このような取りくみは、学校や駅などで、ポスターやちらし配りなどの活動でよく見かけます。そんな時、僕はいつもいくつかの事を考えています。

一つ目は、あいさつの大切さです。いつものなにげないもので、大切とは思っていない人も多いと思います。ですが、もしもあいさつがなかったら、とても静かで笑顔も一つもないとても不安で悲しいまちなってしまいます。あいさつがあるおかげで、人と人がつながりとても安心で楽しいまちなっているんだと感じます。

二つ目は、人とのつながりです。今は、どこへ行っても誰かに見てもらっていることができる環境です。しかし、もしもつながりがなかったら、困っていたとしても誰一人として助けてくれず、気にもしません。このようなことでは、命の危険がありとても出歩くことのできないくらいまちなってしまいます。こんなことがないようにするためにも、やはり人とのつながりは、大切なんだと感じます。

三つ目は、なんといっても福島市への愛です。「そんなもの関係ない。」「どうでもいい事だ。」など思っている人も少なくないと思います。ですが、この愛が今まであったからこそ、一人一人が続けてこれたんじゃないでしょうか。確かに自分だけのためと考えてやっていた人もいるかもしれませんが、そんな人はほんの一部だと僕は思います。なぜかという、そんな考えだと今まで続けてこれなかったと思うからです。どんなことでも、何か大切なものからの愛があつてこそではないかと僕は思います。

いつもあいさつされるたびにこんなこと

を感じているだけではやめ、今度は自分があいさつをし、僕のように多くのことを感じ、この福島市を愛してもらうのはもちろんのこと、市民憲章の一つである『親切で愛情あふれるまちづくり』を自分が次の世代、その次の世代へと継いでいき、このすばらしい福島市をより良くしていこうと思つてもらえるように愛情がつまった笑顔であいさつを誰よりも早くとどくように協力しながら努力を続けていこうと思います。ぜひ、あいさつを通して福島市をより良くしていきましょう。

「日本にほこれる荒川」

福島市立野田中学校

赤井 成

ぼくは、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という内容を選び書きました。内容は、複数流れている河川の中の一つ、荒川についてです。

荒川は、一級河川を対象にした、水質調査で、五年連続で水質ランキング「日本一」にかがやきました。五年連続というのは、つねに川がきれいではないとれないので、すごいことだと思いました。調べると、全国百六十三河川のうち三河川だけでした。

おもな調査の内容は、生物化学的酸素要求量の平均値を用い、河川ごとに全ての調査地点を平均した値で評価したということです。結果は、なんと水質分析の最小値となる〇・五ミリグラムになりました。ぼくは、おどろきました。福島市にほこれる河

川だと改めて、感じました。

荒川の魚を調べると、八か所の調査地点のうち七か所で、ヤマメやイワナが生息できるレベルと聞いておどろきました。父親に聞くと、すぐきれいな川に住むためめずらしいということです。

東日本大しん災と東京電力第一原発事故発生もありたいへんでしたが、しん災前から続けられている住民の河川愛護活動が実を結びました。ぼくは思いました。「ちりも積もれば山となる」ほんとだと感じました。原発事故があり、放射能があると周りの県などから思われていますが、福島市には、荒川があるとじまんでできると感じました。

福島の人もいい人だということも読み取れるとぼくは感じました。なぜなら、みんな大切な川を守ろうという気持ちがあれば、「日本一」というのはなかなかとれるものではありません。いつでもおだやかでいいと思います。しん災のとき、みんなで食糧を分け合うこともありました。また、寒暖の差がある所です。なので、にんたい強いです。農産業は、暑さ、寒さをがまん

しないとできません。そしてみんなに福島の特産品を食べてほしい。それでおいしいと言われることが、喜びや生きがいになっています。ぜひ食べてください。

これから、地域の企業・団体、市による環境保全活動も継続してほしいと思いました。また、川を大切にする心が、良好な水質につながっていると思います。ぼくもきかいがあれば、荒川の清そう活動に参加して守っていききたいと思いました。

荒川を観光の資源に生かせるよう、観光課の方々ががんばってほしいと思います。

また、福島県の風評被害などのイメージを少なくするチャンスでもあります。「日本一」の荒川をぜひより良い観光の地として生かしてください。

「福島市をよりよい町に

するために」

福島市立野田中学校

渡 辺

優

私は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」と「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」の二つのことにについて考えました。

一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」については、福島の水が二〇一五年モンドセレクションで、金賞を受賞しました。これは、福島市の自然環境が良く、おいしい水に恵まれ金賞受賞をかく得出来たのだと私は思います。しかし、私が公園や駅などに行くと「自分一人くらいならいいや」と思う人がいてゴミや空き缶、吸いガラなどが落ちていることがあります。また、歩いていると飼い主が犬のフンを持ち帰らないことがあります、時々道路に犬のフンが落ちていることがあります。これからは、自分の出したゴミは、自

分の家に持ち帰り、きちんと分別してゴミ箱に捨て、一人一人が気をつければ、福島市は、もっときれいな町になると思います。

二つ目の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」については、私が毎朝、学校に行く時におまわりさんや工事現場の人が「おはよう。行ってらっしゃい。」などと笑顔であいさつをしてくれて、とてもうれしので私は、知らない人でもすれちがったら、なるべく自分から、

「おはようございます。」

とあいさつをしています。そうするとあいさつが返ってきて、うれしいので、自分からあいさつをするように心がけています。

また、おばあさんが何かにひっかかって転んでしまい、自転車で通りかかった人が、自転車から降りて、

「だいじょうぶですか？」

と聞いていたのを見たことがあります。このように福島市は、知らない人でも笑顔であいさつをしてくれたり、子どもからおとしよりまで親切で温かい心を持っている町だと思います。

福島市は、空も水もきれいなみどりのま

ちで、親切で愛情であふれていて、とても良い所だと思います。

ポイ捨てをする人がいることや飼い主が犬のフンをきちんと持って帰らないという問題を少しずつ解決していけば、よりよいまちができると思います。これからもずっときれいな福島市であって欲しいです。

「うつくしま福島」

福島市立野田中学校

大内 由華

私の住んでいる福島は、きれいがあふれています。

空は、絵の具で染めたように青で澄みきっていて、水は透明感であふれ、みどりはきれいな水でたくさんすくすくと育っています。私はその福島の自然がとても大好きです。私は、これからもこの「うつくしま」な福島の自然を守っていききたいです。

福島は親切でたくさんさんの愛情であふれているまちです。

何かを落としたりするとすぐに拾って届けてくれたり、知らない人でも、挨拶をするとか挨拶を返してくれます。その他にも、荷物を一緒に持ったりなど、とっても優しい人ばかりです。裏を返せば優しくない人なんていないということです。この親切で愛情あふれる福島を、さらによくできるように、私も、困っている人がいたら助ける

という地道な努力をしていきたいです。

福島はみんなが力を合わせて動かしています。

みんなが楽しく働くことができ、差別がないこの福島をずっと守り、さらにこれを生かし、たくさんの人との交流も増やしていきたいです。

福島は、子どもからおとしよりまでみんな健康で元気なまちです。

私が朝早くに学校に登校すると、通学路を歩いているとき、元気のいいラジオ体操をしている声がどこからともなく聞こえてきます。私はそのときにいつも思います。

「みんなも健康で元気な体をつくるために頑張っているんだなあ。」と思います。私も夏休みでもなるべく朝早く起きて、活動したいです。

ここまでたくさんさんの福島の事を話してきましたが、最後にもう一つあります。この作文にもあるように、

「うつくしま福島」です。

最初に紹介したように、自然がうつくしく、人の心がうつくしく、健康活動に積極的に参加する人がたくさんいる福島は、こ

の題名にとってもふさわしい

「うつくしま福島」です。

私は、この福島で生まれ育ったという事を、とても誇りに思います。これからもここに生まれ育ったことに感謝し、市民憲章にあるように、環境を守り、人に優しく接し、いつも朝早く起きて、健康活動にはげんでいきたいです。

「ふるさとを考えて」

福島市立野田中学校

齋藤 遥 奈

福島で生活していく中で、私たちは何を心がければ良いのでしょうか。

私は、この機会に初めて福島市憲章について知り、これからの福島について考えました。この五つの憲章を読んでもみると、自分が体験したことを思い出し、心があたたかくなりました。

去年の十二月ごろ、下校途中に前を歩いてたおじいさんが手袋を落としたことに気付きました。私はその時、「拾わなきゃ」という気持ちの半面、「気付かないかな…」とか「話しかけるのもこわいな…」という気持ちがありました。私は勇気を出して、「これ、落しましたよ。」

と声をかけました。するとおじいさんはニコリ笑って

「ああ、ありがとう。」

と言ってくれました。とてもささいなこと

ですが、「声をかけて良かった」と心から思いました。次に同じようなことがあったときは迷わずに声をかけられるようにしたいです。この経験から私は、「人を思いやること」はとても大切なことだと思います。

また、福島のこれからを考えて、私が思いうかべるのは、四年前の大震災と原発事故です。あの事故以来、福島は放射線量が高いことで、非難されることもありましたが、ですがそんなイメージを改善するために、福島の復興に多くの人が関わっています。私は全国の人に、安心して福島のおいしい食べ物を食べてほしいです。福島の美しい景色を観てほしいです。そう、福島市民のみんなが願っているはずです。

私が普段生活している中で、福島には、あたたかいつながりがたくさん見られます。おいしい食べ物や、美しい自然に恵まれています。これが福島のよさであり、私たちが守り広げていくべきものだと思います。

私は、ゴミの放置やポイ捨てを、「別にいいや。」という気持ちでしてほしくない

です。それは、福島の発展に向けて努力している人がいても、そのような考えがある福島は良いまちへと変わらなと思うからです。一人一人が少し考えることで、よりよい福島を実現できるのです。

「福島はすばらしいまち」と言ってもらえるように、そして私自身も胸を張って言えるように、私にできることから実践していこうと思います。

「福島市民の安全と健康」

福島市立飯野中学校

高橋 拳

僕は、福島市民憲章作文コンクールがあることを、国語の先生から聞いて初めて知りました。市民憲章の中でも僕は「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という憲章について考えてみようと思いました。

僕は、小学校高学年のとき、手術のため医大に入院したことがあります。入院中や、手術をする際には、担当の看護師さんや治療することに関わった先生方が、自分の健康を第一に考えてくださっていたり、体調に気をつかってくださったりしていました。他の患者も同じで、お年よりで、体が不自由な人は、看護師さんがサポートして、転倒したりしないように、トイレに一緒に行き、患者をサポートしていました。病院内の先生や看護師さんは、入院患者の健康を朝と午後にチェックしたり、歩いていて

転倒したりしないように歩くのを手伝うということが、患者の安全、健康を守るための行動だと思いました。そして、病院に限らず、町の中にも市民が、健康安全に過ごせる工夫がいくつかあります。

一つ目は道の上にある点字ブロックです。点字ブロックは、目が不自由な人のためにつくられたものです。不自由な人はこのブロックをたよりにして歩きますが、ブロックの上に自転車などの物があると、目や体が不自由な人にとっては、とても不便なので、ブロックの上には何も置かないようにすることが必要です。

二つ目は、音の出る信号機です。これも、目が不自由な人のためにつくられていて、もし、赤信号でも横断歩道をわたろうとしないように青信号のときだけ音が出るようになっていきます。目が見えなくても、耳で音を聞いて道を横断することができます。

このような点から、町全体は、市民が安全で、健康に過ごせるように、町のいたる所で工夫がほどこされていることがわかりました。ですが、安全、健康に過ごせていても、快適に過ごすための物が壊れたり、

使えなくなったりしては意味がありません。例えば点字ブロックは、ブロックの上に物が置いてあるとブロックを使って歩く人にとっては、とても不便だと思うので、ブロックの上に物を置くことは、ないようにしてもらいたいです。

僕は、福島市民憲章について考えてみて、町は市民が安全で健康に過ごせるように工夫していることがわかりました。福島市民が憲章のことを理解し、生活に生かせればよいと思いました。

「自然豊かな町にするには」

福島市立飯野中学校

伊藤 優

私が福島市民憲章で心に残った文は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。外出しているとき、よく木が伐採されている風景を時々見かけます。そこは、みどりがなく、どこか寂しく見えます。このまま木を切り続けて行くと、自然がなくなり地球温暖化につながります。しかし、今はボランティアやイベントなどで木を植えることがあります。みんなで協力して行うことは良いと思います。このようなことを増やしていき、なくなった木の分それよりもっと多く木を自然に戻して行きたいです。東日本大震災が起こって四年目となりました。今は、安心して生活していますが、四年前を思い出すと、こわくて毎日心配していました。あの後原発事故で放射能がもれ、海水が汚染され、周りの地域が帰るのに困難な地域になりました。そ

のため大勢の人たちが困りました。私の家も、野菜を育てていて水も水道水ではなく井戸の水だったので、汚染されていないか不安で、安心して食べることができませんでした。スーパーマーケットなどにも行くのと、すべて売り切れになっていて買うことも困難でした。心配で野菜の産地にも気にするようになりました。小学校でも、外で遊んだり野外活動も減りました。運動会は、体育館でやり、あまり楽しいとは思えませんでした。しかし、不安な生活が徐々に減って行き、外での活動もできるようになりました。今では、家で、育てた野菜も水も安心して食べることができます。食材も産地などを気にせずに、買うことができ安心して暮らしています。これは、周りの地域の人々と協力したからこそだと思います。他県の方々も四年前は、不安で、東北に観光などで来る人は少なかったと思います。原発事故やまた余震がくるんじゃないかと心配だったと思います。しかし今は、復興し、自然も戻りきれいな県になったと思います。これからは、活気あふれるみどりがいっぱいの市になるよう、一人一人がよく

考えて協力して生活していきたいと思いました。だから、私も積極的に地域の行事やボランティアに参加したり、家の周りに木や花を植えたりして少しでも多く自然を増やしてみどりのきれいな町をつくりたいと思います。そしてみんなが安心して暮らせるような町をつくれるようにみんなで協力して過ごしたいです。

「すてきな市に、なるために」

福島市立飯野中学校

高 荒 愛 結

「福島市民憲章」を知らない人は、多いのではないだろうか。私も、この作文コンクールではじめて知りました。憲章は、五つあり、中でも私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というのが、目にとまりました。

私は、小さいころからたまにキャンプをしに行っています。キャンプ場は、木がたくさんあり、川も流れていて、すごくきれいで、心がおちつきます。虫の声もたくさんきこえてきて、つかれていた心もやすらぎ、すっきりします。自然には、きつとふしぎな力があり、私たちを幸せにしてくれると思います。自然を身近に感じることは大切ななと思いました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」は、すごくいいと思いました。もうすでに、知っている人も多いと思います。

す。けれど、まだ自然のすばらしさに気づいてない人に、もっと、もっと知ってほしいです。それが分からなければ、この「空も水もきれいなみどりのまち」は、つくれません。一人でも多く気づいてください。

私が住んでいる飯野町は、川もきれいで、木もたくさんあります。けれど、どうでしょうか。建物がならんでいる町は、空も見えない所があると聞いてびっくりしました。私たちは、上を見れば、いつでも空が見えます。それがあたりまえです。けれど、そのことがあたりまえではなくなってしまうっている人がいるんです。

また、川も汚染され、魚はいなくなり、にごっている川のままでは、ダメです。もっと水を大切にしなければなりません。なのでぜひ、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」を知ってもらいたいです。

そのためにも、「福島市民憲章」を多くの人に知ってもらいたいです。このコンクールのような、知ってもらえるきかいをぜひ、増やしてほしいと思います。

「福島市民憲章」の五つは、どれも大切

なことです。この五つの憲章のように福島がなったらきつと、どの市にもまけないくらい美しくて、あつたかくて、すてきな市になると思います。

そんなすてきな市を目指し、これからもがんばっていつてほしいです。

「市民が安全で

健康に暮らすために」

福島市立飯野中学校

高橋 瑞希

私は、「福島市民憲章」があることを初めて知りました。その中でも「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という憲章について考えてみることにしました。

福島市が「安全ではない」ということはありませんが、もっと安全に健康に暮らすためにどんなことを、したらよいか、考えたところ、一つ目は、「段差を減らしたら、おとしよりも、小さな子どもも、転んで、けがをすることはない。」と思いました。私は小さいころ道の段差につまずいて、転んでしまったり、おとしよりがつまずくのを見たことがあります。危険なので、その段差を減らせば、転ばずにすごせると思います。

二つ目は、「スロープをつくる」という

ことです。階段だけだと、おとしよりや、車いすに乗っている人は大変なので、スロープをつくったら、安全に暮らせると思います。

三つ目は、「のびのびと遊べて体を動かすことのできる公園をつくること」です。福島県の子どもは今、肥満が多いというニュースを見ます。肥満はほかの病気にもなりやすいので、肥満を改善するためには、のびのびと体を動かす必要があります。そこで、もっとみんなが、のびのび遊べて体を動かす公園ができれば、肥満も改善され、さらに、公園なので子どもといっしょにきた親、散歩をする人など、みんな体を動かせると思います。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちにするために、改善したり、新しくつくったりしなければなりません。それを、今の中学生や学生がつぎつぎとやっていかなければ安全で健康なまちはつくれないと思います。だから、みんなで意見をだしあって、福島市がもっといい市になればいいと思います。

私は、この「福島市民憲章」を知って、

日常生活や、まちがもっと良くなるように、この憲章を、もっとよく知って、いろいろなことについて考えてみようと思います。「自分も福島市民だ。」ということのを忘れず、まちがもっとよくなるように、自分のできることをコツコツとやって、まちをもっといいまちにできるように精一杯がんばろうと思いました。私たちが大人になるころには、もっといいまちができればいいです。

「みどりの町を目指そう」

福島市立飯野中学校

高橋 優華

福島県は四年前の東日本大震災で原発事故がおきました。原子力発電所から、すごい量の放射線が出て、福島県が汚染されました。そのため、福島のみどりが汚れてしまったのです。また、川や海などにも放射線が入り、川・海も汚れてしまいました。

私はあの年、小学二年生でした。小学校の校庭で毎日のびのびと、遊んでいましたが、原発事故があつてから、校庭の除染も始まり、遊べなくなりました。いろんな花や木、虫など、楽しいことがたくさんあつた校庭でしたが、毎日休み時間も校舎の中で過ごしました。

震災があつてから、外に出る人が減ったせいか、自然に雑草が増えてきました。道には花といっしょに雑草が生えてきていました。雑草が生えていることは、おかしい事ではありませんが、震災前から比べると、生えている雑草の量が多くなっていると思いました。

震災だけではなく、福島のみどりを保つには道ばたにゴミを捨てたり、川の水を汚したりしてはいけません。私は学校に登校する時、道ばたにゴミが落ちているのを何度も見ることがあります。食べ物の袋やパックが多く、道路が汚れてきたなくなつてしまします。また、川にゴミを捨てる人もいます。川にゴミを捨てると、川全体が汚れてしまします。

私はなぜ道路や川にゴミを捨てるのかなと思ひました。ゴミをゴミ箱に捨てることなんて、とても簡単です。このような簡単なことをするだけで少しでも汚すことがなくなります。道路や川は一人のものではありません。みんなのものです。道路や川を他の人も使っていると考えると、他の人にめいわくをかけていることになります。

最近私はきれいな川をあまり見なくなりました。それは川を汚している人がいるからだと思ひます。誰だって、きたない川はとてもしやです。きれいな川の方が気持ちが良いです。普通だった透明な川の水が、

最近の川は、にごつて茶色になっています。私はこのようなことがあつて、福島のみどりが少なくなつてきているんだと思ひます。誰もが一人一人、みどりを保つために心がけていかないとはいけません。ゴミはきちんとゴミ箱へ、道路や川にゴミを捨てない。このようなことを一人一人守つていけば、道路を汚したり川を汚したりすることが減ると思ひます。

これから、このようなことを心がけ、生活すれば、きれいなみどりのまちをつくることができると思ひます。

「美しいきれいな自然を作ろう」

福島市立飯野中学校

廣野 恭平

ぼくが福島市民憲章で印象深かったことは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。理由は二つあります。

一つ目は、空気がきれいになってほしいからです。空気がきれいになるには、たくさん、緑を増やすことが大切だと思います。ぼくは、小学校二年生まで、川俣町の山木屋に住んでいました。でも、東日本大震災の原発事故の影きようで、計画的ひなん区域になってしまい、飯野町にきました。すると、ぼくが感じたことは、

「なぜか、山木屋の方が空気がおいしいな。」

ということです。ぼくは、山木屋は、ほとんどが自然にかまれているから、空気がとても、おいしいのかと思いました。ぼくは、

「じゃあ、どうすれば、緑が増えるのか

なあ。」

と考えました。ぼくは、木を植えたりすればもっと緑が増えると思いました。そこで、もっと山に木を植えたいと思いました。

二つ目は、川を汚さないようにしたいからです。ぼくは、山木屋のころの水は、「とてもつめたくて、おいしいなあ。」

と思っていました。でも、現在、家の近くの川の水は、とても汚いです。石などには、ぬるぬるしたものがついていてとても、きれいとはいえません。ぼくは、

「なぜ今は、水がとっても汚いのかなあ。」と思い考えました。ぼくがたまに川へ行くと雨が降っていないのに、にごっていることがあります。父に聞いてみると、

「洗たくして、汚れた水がながれてるんじゃないかなあ。」

と言っていました。ぼくは、びっくりしてしまいました。そこでぼくは、水をきれいにする、「すみ」を川に入れては、どうだろうかと思いました。理由は、テレビで、サバイバル生活を見たときに、水をきれいにして飲料水にするために、ろ過をしていて、すみかにはいっていったからです。だ

から、川にすみを入れて、きれいな川にしていきたいです。

ぼくは、「山に木を植えて空気をきれいにすること」と「川にすみを入れてきれいな水にすること」を考えました。そうすることで、山木屋のような自然豊かな町になると思いました。これからは、自然を大切に、よりよい、環境を作っていきたいと思いました。

「福島市民憲章を知って」

福島市立飯野中学校

安部 夢彩

私は、福島市民憲章の中で印象に残ったものが二つあります。一つは「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。

私には、老人ホームにいる祖母がいます。中学生になつてから、たまにしか顔を見れていませんが、元気な様子でした。その祖母が元気に過ごせているのは、老人ホームの人達のおかげです。いつも、顔を出すときは、だいたい夕ご飯の時間帯に近いときです。そのときに、他の人の食事とメニューが少し違うことがあって、それで、ちゃんと一人一人の健康状態に合わせているのだな、ということがわかりました。それでいて、栄養のバランスなども考えて作っているのだからすごい、と思いました。そして、歩きやすいように、転ばないように、階段ではなく、スロープやエレベーターを

設置するなどの、おとしよりの安全や健康を守ってくれていて、とてもすごいと思っていますし、とても感謝をしています。

このことは、老人ホームだけでなく、他にも当たり前のようになっている場所があります。

例えば、小学校や中学校でも、階段にすべり止めがついていたり、熱中症にならないように扇風機、寒いときにストーブが設置されます。そして、栄養のよい、給食が出ます。これらも、私達小・中学生の安全で健康に過ごせる理由です。

二つ目に印象に残ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。

東日本大震災から、四年がたちました。この震災は私が、小学二年生のときに起こってしまい、幼かった私は、何もできず、夢だつたらいいのに、と思って過ごしていました。

原子力発電所が、津波におそわれ、放射能が出て、その近くの人達は、避難をして、今も自分達の町や家に帰ることができていません。

今では、少しずつではありますが、放射能もうすまり、人も少しずつ戻ってきてはいますが、まだ帰れていない人達がいて、まだ県外に避難をしている人達もいます。だから、一日も早く、除せんをして、人がきれいな空気を吸えて、安全に過ごせるような日が来てほしいと思います。

これからもこれらを混ぜた、福島市民憲章を知らない人に知ってもらえたらな、と思います。

「優しい心と誇りを持つて」

福島市立飯野中学校

紺野 永莉

私は、福島市民憲章を初めて知りました。福島市にもこういうものがあるんだなと思います、とてもうれしかったです。

私が、この中で一番大切だと思う憲章は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。今、世界中で大気汚染や地球温暖化などの環境破壊が問題になっています。それが進むと人間は、地球に住めなくなってしまう。だから私は、空や空気、草、花、木などの自然を大切にし、みどりのあるまちをつくるのは、とてもいいことだと思います。

また緑という色は、落ち着く色なので、緑がたくさんあると心が落ち着いて、「豊かな優しい心」を育むことができると思います。最近、ネットでのいじめやトラブル、争いなどが多く、ニュースなどテレビでも見かけるようになりました。それは、

私たちが、他人を思いやる心が育ってないと言われているようで、とても悲しい気持ちになります。私は、ネットをするのもいいですが、そればかりではなく、外に出て自然を感じ、心を落ち着かせてみたり、実際に人に会って話をしたりすることも大切だと思います。いじめた人もいじめられた人も、トラブルを起こした人も巻き込まれた人も、一度心を落ち着かせて、今起っている現実冷静な態度で向き合うことが大切だと思います。またこのことは、ネットだけでなく、普段身の回りで起こるトラブルの場合もそうだと考えます。

さらに、福島市は桃や林檎などの果物がたくさんとれます。このことから福島市の人々は、自然を大切にし、その大切な自然を地元の産業に生かす工夫をしていると考えられます。それだけ私たちは、自然と共に生活してきたというわけです。だから、私たちの友達ともいえる、空や水、みどりの自然をこれからも、ずっと遠い先の未来で生きている人たちに届けるつもりで大切に守り、みどりのまちをつくっていくと思います。

私は、福島市民憲章を初めて知りましたが、これを機に今回私が選んだ「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」をはじめとした五つの憲章を心に刻み、今度は、自分の子供や孫、親戚などに話して聞かせ、次の次の世代まで伝えられるようにがんばりたいです。また私は、今回、福島市民憲章を知って、いろいろなことを考えることができて、とてもよかったと思います。これからも、自分が福島市民であるということに誇りを持ち、生活していきたいと思っています。

「住みよいまちづくりのために」

福島市立飯野中学校

齋藤 愛莉

私は、「福島市民憲章」と聞いたとき、この言葉の意味を知りませんでした。しかし、説明を読むと、福島を住みよいまちにするために制定されたものだということが分かりました。

私が、この福島市民憲章の中で心に響いたのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」と「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という二つの文章です。

まず、私がどうしてこの文章に心ひかれたのかを説明します。一つ目の文章、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」については、私が住んでいる地域がとても緑豊かだからです。小さい頃から、緑に囲まれて育ちました。緑に囲まれていると、とても心がやすらぎ、気持ちがいいです。空気もおいしくて、住みよいまちだ

と思います。だから、福島全体がもっと緑豊かになれば、住みよいまちづくりにつながると思うからです。二つ目の文章、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」については、私の住むまちの人に親切をしてもらいとてもうれしかった経験から私の心に響いたのだと思います。その親切とは、私が小学生の頃の登下校のときに交通事故に遭わないように見守ってくれたことです。近年、小学生の登下校中の車の事故が増えていることもあって、毎日毎日雨や雪が降っているときも来てくれていました。私は、その見守り隊の方々に感謝の気持ちを込めて元氣にあいさつをすることが精いっぱいでしたが、私達があいさつをするとうれしそうにしてくれていたのが良かったと思います。そんな親切をしてもらい私は、とても良い気持ちになりました。だから、困っている人がもし、いたら助けてあげたいと思います。このように、親切な心は人から人へとつながっていくものだと思いますので、私は、どんなに小さなことからでも親切な心を持って行動することが大切だと感じました。このように一人一人が思

うことで福島は親切や愛情があふれるとても良いまちになると思います。

次に、よりよいまちをつくるために、私が行動していこうと思うことは、二つあります。

一つ目は、まちのごみ拾いなどのボランティアに参加したり、個人的にごみを拾ったりすることです。このことにより、少しでもまちがきれいになっていったら良いと思います。

二つ目は、困っている人がいたら助けてあげることです。しかし、なかなか自分から動くのは難しいことです。そんなときは、今まで助けてくれた方々を思い出し行動に移せたらと思います。

このように、まち全体で一人一人がよりよいまちづくりのために意識していくことが大切だと思うので、その一人目として私は、これからがんばっていききたいと思います。

「福島市は親切な心と

愛情であふれてる」

福島市立飯野中学校

佐藤 凜花

毎日、登下校の時に「おはよう。」や「おかえり。」と声をかけてくださる人達がいいます。だから、私も「おはようございます。」や「ただいま。」などとあいさつを返しています。

横断歩道をわたる時に曲がる車が止まっています。だから、感謝の気持ちこめて、しっかりおじぎをしています。

車に乗っている時に、狭い道で相手の車が待っていてくださったり、私達が止まっていると、すれ違う時に手をあげたり、頭を下げたりしてお礼をしてくれます。前を走っている車がおそい時に左側に寄ってくださったり、広い所で止まってくださいたりして、私達を先に行かせてくださいます。

私達が外で遊んでいる時に、近所のおじちゃんがお菓子やアイスを持ってきてくれ

ます。

おばあちゃんの家泊まっている時、近所のおばちゃんが、自分の家で作っている野菜や、買ってきた果物などを、おすそ分けしに来てくださいます。

お店の店員さんは、お歳寄りの人には聞こえやすいように近くでゆっくりしゃべったり、荷物を持ってくれたりしています。小さい子が、お店の商品を落とした時に「大丈夫ですよ。」と言って直してくれているのを見たことがあります。

このようなことは、福島市民憲章にある、一、親切で愛情あふれるまちをつくりましようを守っているから、このような親切なことや愛情のある行動はできているのかなと私は思います。

親切なことをしたら、必ずお礼をする、あいさつなど愛情がこもっていることをされたら、同じくらい、それ以上の愛情で返すことが大切なのではないのかな、このようなことをすれば、福島市は、親切な人と愛情で、いっぱいになると思います。

元気よくあいさつをしてくださる人に、私は元気よくあいさつをすることができな

い時があるので、これからはいつも元気にあいさつをしたいです。

止まっていてくださった車には、しっかりと止まり感謝の気持ち伝わるように、頭を下げられるようにしたいです。

あいさつをしてくれる人や止まってくれた人達のような大人になり、そういう人達が増え、親切で愛情あふれる町をつくれたらいいと思います。